

令和2年 7月28日

呉市教科用図書選定委員会委員長 様

呉市教科用図書調査・研究委員会

種目 社会(地理的分野)

代表者 呉市立音戸 中学校

氏名 坪浦 敏美

呉市教科用図書調査・研究報告書について (報告)

このことについては、別添のとおりです。

【社会（地理的分野）】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	①学習課題の示し方
方 法	○1時間ごとの学習課題の記載の仕方と記載例

発行者	調査・研究内容
東書	<p>○「地球の姿を見てみよう」のようにタイトルを示している。タイトルの右横に設けたコーナーに「どのように・どのような・どうしたら～でしょうか。」等の問いかけの表現形態で、1時間の学習課題を示している。</p> <p>—記載例—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大陸と海洋は、どのように分布しているのでしょうか。また、世界はどのように区分できるのでしょうか。」（「地球の姿を見てみよう」 p 8） ・「地球上のさまざまな場所の位置を表すには、どのような方法があるのでしょうか。」（「地球上の位置を表そう」 p 14）
教出	<p>○「身近なものから見える世界」のようにタイトルを示している。タイトルの下に設けたコーナーに「どのように・どのような・どうして～でしょうか。」等の問いかけの表現形態で、1時間の学習課題を示している。</p> <p>—記載例—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大陸と海洋の分布にはどのような特徴があるのでしょうか。」（「身近なものから見える世界」 p 10） ・「地球儀を使って地球上の位置を示すには、どのような方法があるのでしょうか。」（「地球を表す模型」 p 12）
帝国	<p>○「私たちの住む地球を眺めて」のようにタイトルを示している。タイトルの右横に設けたコーナーに「どのように・どのような・なぜ～だろうか。」等の問いかけの表現形態で、1時間の学習課題を示している。</p> <p>—記載例—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地球上の大陸と大洋はどのように分布しているのだろうか。また、世界はどのように区分することができるのだろうか。」（「私たちの住む地球を眺めて」 p 2） ・「世界の国々や都市の位置を表すには、どのような方法があるのだろうか。」（「緯度と経度」 p 8）
日文	<p>○「地球の姿をながめよう」のようにタイトルを示している。タイトルの左横に設けたコーナーに「どのように・どのような・なぜ～でしょうか。」等の問いかけの表現形態で、1時間の学習課題を示している。また、その下に学習課題の解決に向けて手がかりになる主な「見方・考え方」の例を示している。</p> <p>—記載例—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大陸や海洋は、地球上にどのように広がっているのでしょうか。」「見方・考え方（位置や分布）地球儀を回してみ、大陸や海洋の広がりのおもしろいところに着目しましょう。」（「地球の姿をながめよう」 p 2） ・「地球上の国や都市の位置は、どのようにあらわせばよいのでしょうか。」「見方・考え方（位置や分布）緯度・経度のしくみ、緯度・経度のあらわし方に着目しましょう。」（「緯度と経度のしくみをとらえよう」 p 8）

【社会（地理的分野）】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	②我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
方 法	○「日本の諸地域」における日本の地域区分と中核とした考察の仕方及び内容

発行者	調査・研究内容		
東書	○7つの地方に区分し、それぞれ異なる考察の仕方を中核としている。また、地方ごとに考察する内容を4つ設けている。		
	日本の地域区分	中核とした考察の仕方	考察する内容
	九州地方	自然環境	1 九州地方をながめて 2 自然環境に適応する人々の工夫 3 自然の制約の克服と利用 4 持続可能な社会をつくる
	中国・四国地方	交通や通信	1 中国・四国地方をながめて 2 交通網の整備と人や物の移動の変化 3 交通網が支える産業とその変化 4 活用される交通・通信網
	近畿地方	人口や都市・村落	1 近畿地方をながめて 2 大都市圏の形成と都市の産業 3 ニュータウンの建設と都市の開発 4 変化する農村の暮らし
	中部地方	産業	1 中部地方をながめて 2 特色ある東海の産業 3 特色ある中央高地の産業 4 特色ある北陸の産業
	関東地方	交通や通信	1 関東地方をながめて 2 世界と結び付く東京 3 東京を生活圏とする人々の暮らしと交通 4 関東地方の多様な産業
	東北地方	その他（生活・文化）	1 東北地方をながめて 2 祭りや年中行事の伝統とその変化 3 伝統工芸品の生産・販売とその変化 4 過去の継承と未来に向けた社会づくり
	北海道地方	自然環境	1 北海道地方をながめて 2 自然の制約に適応する人々の工夫 3 自然の制約や社会の変化を乗り越える 4 自然の特色を生かした産業

○7つの地方に区分し、それぞれ異なる考察の仕方を中核としている。また、地方ごとに考察する内容を5つ設けている。

教出

日本の地域区分	中核とした考察の仕方	考察する内容
九州地方	自然環境	1 多様な自然がみられる地域 2 火山とともに暮らす 3 特色ある自然と多様な農業 4 工業の移り変わりと環境保全 5 さんご礁の海を守る
中国・四国地方	人口や都市・村落	1 人口分布のかたよる地域 2 中国・四国地方の中心 広島市 3 人口減少と地域の悩み 4 地域おこしの知恵 5 人口の変化と交通網の発達
近畿地方	その他（歴史的な視点）	1 歴史に育まれた地域 2 京都の街並みと伝統文化 3 阪神工業地帯の発展と今後 4 都市の成り立ちと広がり 5 琵琶湖の水の利用と環境
中部地方	産業	1 多様な産業がみられる地域 2 日本経済をリードする工業地域 3 先進的な第一次産業 4 自然環境を生かした産業 5 多く降る雪を生かした産業
関東地方	交通や通信	1 日本の中心的な地域 2 日本の首都 東京 3 郊外に広がる市街地 4 交通網を利用して発展する産業 5 世界と結びつく東京
東北地方	その他（伝統文化と地域の変化）	1 豊かな風土に育まれた文化をもつ地域 2 地域に根ざした豊かな文化 3 現代に生きる地域文化 4 人々の暮らしの変化と産業 5 これからの農業
北海道地方	自然環境	1 開拓の歴史が新しい地域 2 長く厳しい冬の暮らし 3 大規模化する農業 4 「とる漁業」から「育てる漁業」へ 5 豊かな自然と観光

○7つの地方に区分し、それぞれ異なる考察の仕方を中核としている。また、地方ごとに考察する内容を5または6つ設けている。

帝国

日本の地域区分	中核とした考察の仕方	考察する内容
九州地方	自然環境	1 九州地方の自然環境 2 火山と共にある九州の人々の生活 3 自然を生かした九州地方の農業 4 都市や産業の発展と自然環境 5 南西諸島の自然と人々の生活や産業
中国・四国地方	交通や通信	1 中国・四国地方の自然環境 2 交通網の整備と人々の生活の変化 3 瀬戸内海の内海と工業の発展 4 交通網を生かして発展する農業 5 人々を呼び寄せる地域の取り組み
近畿地方	その他（環境保全）	1 近畿地方の自然環境 2 琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏 3 阪神工業地帯と環境問題への取り組み 4 古都京都・奈良と歴史的景観の保全 5 環境に配慮した林業と漁業
中部地方	産業	1 中部地方の自然環境 2 中京工業地帯の発展と名古屋大都市圏 3 東海で発達するさまざまな産業 4 内陸にある中央高地の産業の移り変わり 5 雪を生かした北陸の産業
関東地方	人口や都市・村落	1 関東地方の自然環境 2 多くの人々が集まる首都、東京 3 東京大都市圏の過密問題とその対策 4 人口の集中と第3次産業の発達 5 臨海部から内陸部へ移りゆく工場 6 大都市周辺の農業と山間部の過疎問題
東北地方	その他（生活・文化）	1 東北地方の自然環境 2 伝統行事と生活・文化の変化 3 稲作と畑作に対する人々の工夫や努力 4 果樹栽培と水産業における人々の工夫や努力 5 工業の発展と人々の生活の変化
北海道地方	自然環境	1 北海道地方の自然環境 2 雪と共にある北海道の人々の生活 3 厳しい自然環境を克服してきた稲作 4 自然の恵みを生かす畑作や酪農、漁業 5 北国の自然を生かした観光業

○7つの地方に区分し、それぞれ異なる考察の仕方を中核としている。また、地方ごとに考察する内容を5つ設けている。

日本の地域区分	中核とした考察の仕方	考察する内容
九州地方	自然環境	1 九州地方の自然環境と人々のかかわり 2 自然環境に影響を受ける人々の生活 3 自然環境の特色を生かした農林水産業 4 自然環境を生かした南西諸島の観光業 5 工業の変化と自然環境の保全
中国・四国地方	人口や都市・村落	1 中国・四国地方の自然環境と人々のかかわり 2 人口分布のかたよりと人々の生活 3 都市部や農村部を結ぶ交通網 4 地域に根ざした農業と作り手の人々 5 豊かな魅力を生かした地域活性化
近畿地方	その他（歴史的背景）	1 近畿地方の自然環境と人々のかかわり 2 現在にいきづく歴史的都市の特色 3 港町から世界へ 4 伝統を生かした産業と世界進出 5 歴史を生かした観光業の推進
中部地方	産業	1 中部地方の自然環境と人々のかかわり 2 日本を支える工業の中心地、東海 3 交通網の整備による中央高地の産業の変化 4 自然環境からみた北陸の農業や工業 5 消費地と結びつく農業・漁業の戦略
関東地方	交通や通信	1 関東地方の自然環境と人々のかかわり 2 世界都市、東京と日本や世界の結びつき 3 東京大都市圏の人々の結びつき 4 大都市圏を支える工業・農業と物資の移動 5 都市問題の解決に向けて
東北地方	その他（持続可能な社会づくり）	1 東北地方の自然環境と人々のかかわり 2 農業をとりまく環境の変化と農家の対応 3 伝統文化の維持と革新 4 東日本大震災にともなう社会の変化 5 震災からの復興と災害に強い地域づくり
北海道地方	自然環境	1 北海道地方の自然環境と人々のかかわり 2 寒冷な気候に対応した人々の生活 3 きびしい自然環境を克服した農業 4 自然環境を生かした観光と世界との結びつき 5 自然環境との共生をはかるために

日文

【社会（地理的分野）】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	②我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
方 法	○領土をめぐる問題等に関する記載の仕方

発行者	調査・研究内容
東書	<p>○「北方領土・竹島と尖閣諸島 領土をめぐる問題をかかえる島々」(p26～27)のタイトルをつけ、次の内容を記載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題「領土をめぐる問題をかかえる島々は、どのような地理的特色を持っているのでしょうか。」 ・項目「地理的に見る島々の特色」「漁業資源にめぐまれた竹島」「貴重な自然が残る北方領土」「資源が期待される尖閣諸島」 ・地図「竹島、尖閣諸島、北方領土の位置」「竹島の2万5000分の1地形図」「歯舞群島がのる20万分の1地勢図」「北方領土周辺の地形」「久場島の5万分の1地形図」 ・写真「竹島」「断崖に囲まれた竹島」「北海道の根室半島上空から見た歯舞群島」「自然環境にめぐまれた択捉島」「尖閣諸島の南小島、北小島、魚釣島」「尖閣諸島の久場島」
教出	<p>○「日本の領土をめぐる 日本国境をめぐるさまざまな動き」(p24～25)のタイトルをつけ、次の内容を記載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題「日本の領土をめぐる対立について理解し、平和的な解決のために必要なことを考えてみましょう。」 ・項目「北方領土をめぐる問題」「竹島と尖閣諸島」 ・年表「北方領土に関する主なできごと」 ・地図「北方領土とその周辺」「南東を上にして、日本海周辺を描いた地図」 ・写真「ビザなし交流で根室港に到着したロシア側からの訪問団」「竹島」「尖閣諸島」
帝国	<p>○「日本の領域とその特色」(p18～21)のタイトルをつけ、次の内容を記載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題「海に囲まれた日本の領域には、どのような特色があるのだろうか。」 ・項目「国際法に基づいた日本の領土」「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」 ・地図「北方領土周辺の国境の移り変わり」「竹島の位置」「尖閣諸島の位置」 ・写真「納沙布岬から見える北方領土の島々」「日本国民と北方領土に住むロシア人との交流」「竹島」「隠岐の人々が行っていた竹島での漁の様子」「尖閣諸島」 ・読み物資料「漁業が盛んだった昔の竹島」 ・脚注「日本は、サンフランシスコ平和条約において、樺太(サハリン)の一部や千島列島を放棄しましたが、北方領土の4島はその放棄地に含まれていないという立場を取っています。」
日文	<p>○「日本の領域をめぐる問題をとらえよう」(p18～19)のタイトルをつけ、次の内容を記載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題「日本の領域をめぐる問題は、なぜ起こっているのでしょうか。」 ・項目「北方領土」「竹島」「領土問題の解決に向けて」「尖閣諸島をとりまく情勢」 ・地図「北方領土・竹島・尖閣諸島の位置」「北方領土付近の国境の変化」 ・写真「羅臼町から見た国後島」「『ビザなし交流』で色丹島の一般家庭をおとずれ、ロシア人と交流する訪問団」「竹島」「竹島に関する資料を展示する『出張竹島展』」「尖閣諸島」「尖閣諸島の日本の領海に侵入する中国の船」

【社会（地理的分野）】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	③国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫
方 法	○「世界の諸地域」の地域区分と主題（地球的課題）の記載及び知識・技能を身に付けさせる工夫

発行者	調査・研究内容		
東書	世界の諸地域の地域区分	主題（地球的課題）	知識・技能を身に付けさせる工夫
	アジア州	人口・居住・都市の問題	○基礎的・基本的な技能を身に付けるコーナーとして「スキル・アップ」を設けている。 ○本文の学習内容を説明したり、関連する内容を取り上げたりしている「地理にアクセス」というコーナーを設けている。 ○巻末に用語解説を設けている。 ○単元のまとめに学習内容を確認する「基礎・基本のまとめ」を設けている。
	ヨーロッパ州	国家間の統合の問題	
	アフリカ州	食料生産や経済発展での支援の問題	
	北アメリカ州	地域格差の問題	
	南アメリカ州	環境保全と開発の問題	
	オセアニア州	多文化社会の形成の問題	
教出	世界の諸地域の地域区分	主題（地球的課題）	
	アジア州	人口問題	○本文の学習内容を説明している「地理の窓」「LOOK!」というコーナーを設けている。 ○本文に丸数字を付け、脚注で本文の記述や言葉を補足し、解説している。 ○巻末に用語解説を設けている。 ○単元のまとめに学習内容を確認する「学習のまとめと表現」を設けている。
	ヨーロッパ州	環境問題	
	アフリカ州	人口・食料問題	
	北アメリカ州	多民族の共存の問題	
	南アメリカ州	環境問題、都市問題	
オセアニア州	多民族の共存の問題		
帝国	世界の諸地域の地域区分	主題（地球的課題）	知識・技能を身に付けさせる工夫
	アジア州	都市・居住問題	○本文の学習内容を説明している「地理プラス+」「共生」「環境」「防災」「解説」というコーナーを設けている。 ○本文に丸数字を付け、脚注で本文の補足説明をしている。 ○単元のまとめに学習内容を確認する「節の学習を振り返ろう」を設けている。
	ヨーロッパ州	経済格差	
	アフリカ州	食料問題	
	北アメリカ州	生産と消費の問題	
	南アメリカ州	熱帯林の破壊	
オセアニア州	多文化の共生		

日文	世界の諸地域の地域区分	主題（地球的課題）	知識・技能を身に付けさせる工夫
	アジア州	経済発展の地域格差や都市問題	○本文の学習内容を説明している「地理＋α」というコーナーを設けている。
	ヨーロッパ州	統合のかけで進む分離の動き	○「スキルUP」というコーナーを設けて、解説している。
	アフリカ州	モノカルチャー経済からの自立	○巻末に用語解説を設けている。
	北アメリカ州	大量生産・大量消費の生活スタイル	○単元のまとめに学習内容を確認する「学習のまとめ」を設けている。
	南アメリカ州	熱帯雨林の伐採による環境破壊	
	オセアニア州	多様な民族の共生	

【社会（地理的分野）】

観 点	主体的に学習に取り組む工夫
視 点	④単元の導入における工夫
方 法	○各単元の導入における，興味・関心を引き出す工夫と具体例

発行者	調査・研究内容
東書	<p>【大単元（編・章）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「導入の活動」を示した章がある。 ○ 章や節ごとに「探究課題」を示している。 ○ 編や章の導入部に関連ある写真や資料等とともに，小学校の学習を想起させるコーナー（「小学校の社会で習ったことば」）や問いの言葉がある。 <p>－具体例－</p> <p>「導入の活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界の国・日本の都道府県クイズを作ろう」（p7） ・「SDGsから『地球的課題』を考えよう」（p55） <p>「探究課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本には，なぜさまざまな地域的特色があるのでしょうか。」（p157） ・「九州地方では，自然環境の影響を受けつつ，産業や生活・文化が発達してきたのはなぜでしょうか。」（p187） <p>「小学校の学習を想起する問い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小学校では，左のようなことを学習しましたね。それぞれがどのような意味か，思い出してみましよう。」（p6） ・「小学校での学習でも，たくさんの世界遺産が出てきたね。」（p54） <p>【小単元（節）】</p> <p>「日本の諸地域」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の導入において，1ページを使い，テーマ，地図や写真，キャラクターの吹き出しを掲載している。 ○ 学習内容について説明文がある。 <p>－具体例（中部地方）－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ <ul style="list-style-type: none"> 「活発な産業を支える人々の暮らし」 ・地図 <ul style="list-style-type: none"> 「中部地方の地図」 ・写真 <ul style="list-style-type: none"> 「中部地方で生産される農産物や工業製品」 ・キャラクターの吹き出し <ul style="list-style-type: none"> 「これらの農産物や工業製品は，どの県で生産されたものだろう。」 ・説明文 <ul style="list-style-type: none"> 「愛知県では自動車産業が発達しています。生産だけでなく新しい自動車の研究や開発も盛んで，世界の自動車産業を引っ張っている地域です。その一方，愛知県には全国有数の生産をほこる農産物もあり，工業だけでなく農業も盛んです。また，福井県鯖江市は眼鏡枠の国内生産量の約90%，世界の約20%を生産しており，『めがねのまち』とよばれています。そのほか，中部地方の各県には特色ある産業が見られます。中部地方では，どのようにして各地で特色ある産業が発達してきたのでしょうか。」

	か。】
教出	<p>【大単元（編・章）】</p> <p>○ 編や章の導入部に関連ある写真や資料等とともに、問いの言葉がある。</p> <p>—具体例—</p> <p>「問いの言葉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界各地の人々の生活・文化と自然との関わりについて見ていこう。」（p28） ・「地域を調べることを通して、どのような特色をもつ地域なのか、明らかにしていこう。」（p133） <p>【小単元】</p> <p>「日本の諸地域」</p> <p>○ 単元の導入において、見開き2ページに学習の視点、写真や詩を掲載している。</p> <p>○ 見開きページの左上に「学習の視点」を示すとともに、学習の視点について説明している。</p> <p>—具体例（中部地方）—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ（「学習の視点」） 「産業の視点から、中部地方の特色を考えていこう。」 ・地図 掲載なし ・写真 「名古屋港に並ぶ輸出用の自動車」「フォッサマグナの断層」「濃尾平野の輪中」「噴煙を上げる御嶽山」「春の高山祭」「称名滝とハンノキ滝」「富士山世界遺産センターの展示」「小千谷縮の雪さらし」 ・キャラクターの吹き出し 掲載なし ・説明文（「学習の視点の説明文」） 「中部地方は太平洋側の東海地方、中央高地、日本海側の北陸地方から成り立ち、独自の発展をとげてきました。ここでは、中部地方をこの三つの地域に分け、それぞれの地域で盛んな産業に注目しながら、中部地方の特色を考えていきましょう。」
帝国	<p>【大単元（部・章）】</p> <p>○ 章を概観できるよう、「序説 学ぶにあたって」を設けている章がある。</p> <p>○ 部や章の導入部に関連ある写真や資料等とともに、問いやねらいを示している。</p> <p>—具体例—</p> <p>「序説 学ぶにあたって」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「(前略) 第2章では、p.3 で学習した世界を六つの州に分ける方法を利用して、世界の諸地域を学びます。各州には、地域を追究する主題が設定しており、この主題に沿って、地域の特色をとらえていきます。(後略)」（p47） <p>「章の問い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界各地の人々の生活は、自然環境とどのような関わりがあるのだろうか。」（p26） <p>「章のねらい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界の各州における地域の特色や、その特色と地球的課題との関係をとらえよう。」（p47） <p>【小単元（節）】</p> <p>「日本の諸地域」</p> <p>○ 単元の導入において、3ページにわたって、イラスト、地図、写真、キャラクタ</p>

<p>帝国</p>	<p>一の吹き出し、「探してみよう！」を掲載している。</p> <p>○ 単元の導入の4ページ目、見開き左上に、各単元の問いを示している。</p> <p>—具体例（中部地方）—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ（「第4節の問い」として別ページに掲載） 「中部地方における産業の発展に、自然環境や交通網の整備はどのような影響を与えているのだろうか。」 ・イラスト 「となみチューリップフェア」「白川郷と五箇山の合掌造りの集落」「高山祭」「スキー場」「上高地」「自動車の生産」 ・地図 2点 ・写真 「名古屋港の自動車運搬船と積み込み待ちの自動車」 「外国人観光客でにぎわう立山黒部アルペンルート」 「夏の上高地と北アルプスに生息するライチョウ」 「眼鏡枠（フレーム）の製造」 「桃の花が咲く春の甲府盆地を走る山梨リニア実験線」「金沢箔の工房」 「米どころとして知られる越後平野の広大な水田地帯」 ・キャラクターの吹き出し 「港に集められる自動車は、どこで生産されているのかな？」 「スーパーマーケットで新潟県産のお米をよく見るよ。こんな広い平野で米作りをしているんだ！」 ・探してみよう！ 「イラストの中には、小学校で学習したのものも含まれています。あなたが知っているイラストを見つけよう。」 「写真1～7の位置を、地図上で確認しよう。」
<p>日文</p>	<p>【大単元（編・章）】</p> <p>○ 「追究するテーマ」を示した章がある。</p> <p>○ 「編（章）で主に着目する見方・考え方」を示している。</p> <p>○ 編や章の導入部に関連ある写真や資料等とともに、小学校の学習を想起させるコーナー（「小学校で学習した内容」）や問いの言葉がある。</p> <p>—具体例—</p> <p>「追究するテーマ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「身近な地域で疑問に思ったことや調べてみたいことは、どのように調査していけば解決できるのでしょうか。」（p119） <p>「編（章）で主に着目する見方・考え方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「場所」「人と自然とのかかわり」（p23） ・「地域どうしのつながり」「地域」（p163） <p>「小学校で学習した内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「5年 日本の国土のようすと人々の生活」（p1） ・「6年 日本とつながりの深い国 外国の人々の生活のようす 地球規模で発生している課題の解決」（p43） <p>【小単元】</p> <p>「日本の諸地域」</p> <p>○ 単元の導入において、見開き2ページにテーマ、地図、グラフ、写真、キャラク</p>

<p>日文</p>	<p>ターの吹き出し、クイズを掲載している。</p> <p>○ キャラクターの吹き出しやクイズという形で問いを示している場合がある。</p> <p>—具体例（中部地方）—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ <ul style="list-style-type: none"> 「産業をテーマに」 ・中部地方の地図 ・中部地方の面積、人口、県内総生産の帯グラフ ・写真 <ul style="list-style-type: none"> 「名古屋港のふ頭にならんでいる多くの自動車」「白川郷の合掌造り」 「観光客でにぎわう上高地」「富士山をのぞむ日本の東西交通網」 「鯖江の眼鏡枠作り」「広大なチューリップ畑」 ・キャラクターの吹き出し <ul style="list-style-type: none"> 「こんなに多くの自動車は、どこで生産されているのかな。」 ・クイズ <ul style="list-style-type: none"> 「この自動車はなぜならんでいるのでしょうか。」
-----------	---

【社会（地理的分野）】

観 点	主体的に学習に取り組む工夫
視 点	⑤課題の設定, 整理・分析, 振り返りを展開するための構成上の工夫
方 法	○「地域調査の手法」及び「地域の在り方」における, 調査の手順と方法の具体例

発行者	調査・研究内容	
東書	「地域調査の手法」（「地域調査の手法」）	
	調査の手順	方法の具体例
	○ 調査の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・「身近な地域の情報を集めよう」 ・「調査するテーマを話し合おう」 ・「仮説と調査計画を立てよう」
	○ 野外観察・聞き取り調査	<ul style="list-style-type: none"> ・「野外観察をしよう」 ・「聞き取り調査をしよう」
	○ 資料を使った調査	<ul style="list-style-type: none"> ・「文献や統計などを集めよう」 ・「さまざまな資料で調査を深めよう」
	○ 調査のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・「地図や図表で表そう」 ・「分かったことをまとめよう」
	○ 調査結果の発表	<ul style="list-style-type: none"> ・「発表の原稿や資料を準備しよう」 ・「分かりやすい発表をしよう」 ・「他の発表から学び合おう」
	「地域の在り方」	
	調査の手順	方法の具体例
	○ 身近な地域の課題を見つける	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の各地を, 改めて SDGs のゴールの視点からながめる。 ・世界や日本のさまざまな地域に見られる課題を視点の参考にして, 自分たちの身近な地域にどのような課題があるか考える。 ・テレビのニュースや新聞から, 地域にどのような課題があるか知る。
○ 課題を調査する	<ul style="list-style-type: none"> ・50年前と現在の写真を比較する。 ・地形図から土地利用の様子を, 地域が開発された時期ごとに見ていく。 ・インターネットを使って調査する。 ・図書館で調査する。 	
○ 要因を考察する	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の要因やその影響を考察する。 ・図に示しながら, 要因を考察したり, 影響を推測したりする。 	
○ 解決策を構想する	<ul style="list-style-type: none"> ・他の地域の取組を参考にし, より効果的な解決策を見つける。 ・他の地域の事例のメリットとデメリットを, 表に整理しながら評価する。 	

東書		<ul style="list-style-type: none"> 地域の实情にふさわしい解決策を考える。
	○ 地域の将来像を提案する	<ul style="list-style-type: none"> 提案内容を，地図やイラスト等を使用してまとめる。 提案は根拠や立場を明確にして，説得力を高める。 どのような立場での主張かを明確にする。
<ul style="list-style-type: none"> 調査の手法として「宮崎市の例」として，系統立てて手順を示している。 		
教出	「地域調査の手法」（「地域調査の方法を学ぼう」）	
	調査の手順	方法の具体例
	○ 地域をながめて調査テーマを決める	<ul style="list-style-type: none"> 「野外観察に出かけよう」
	○ 調査の計画を立てる 調査活動の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 「テーマごとの調査班をつくる」 「調査計画を立てるポイント」
	○ 地形図を使って調べる(1) 地図記号と縮尺	<ul style="list-style-type: none"> 「地形図を利用する」 「縮尺による違い」
	○ 地形図を使って調べる(2) 等高線と新旧の地形図の比較	<ul style="list-style-type: none"> 「等高線を読み取る」 「新旧の地形図を比べる」
	○ 地域の防災について調べる 現地での調査	<ul style="list-style-type: none"> 「現地を訪ねて」 「仮説を検証し，地域を見つめ直す」
	○ 調査の結果をまとめる 主題図やグラフに表現する	<ul style="list-style-type: none"> 「調査をまとめて，発表しよう」
	○ 他の地域と比べる 防災のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の特色に応じた取り組み」
	「地域のあり方」	
	調査の手順	方法の具体例
○ 地域の課題をとらえる(1)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の課題について，キーワードをあげる。 昔から地域に住んでいる人にインタビューをする。 郷土史を読む。 新旧の地形図を比べる。 	
○ 地域の課題をとらえる(2)	<ul style="list-style-type: none"> 公共事業のあり方などについて，どのような課題があるのか調べる。 地域のハザードマップなどをもとに考える。 	

教出	○ 地域の課題を調べる	<ul style="list-style-type: none"> ・住民へアンケートをする。 ・商店街で聞き取りをする。
	○ 地域に向けて発信する	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の様子をイラストマップにまとめる。 ・話し合いながら課題の解決方法を提案する。 ・調査して分かったことを、ポスターやレポートにまとめたり、学校のウェブサイトに掲載したりして発信する。 ・発表会を開いて、地域の住民やインタビューした人などに聞いてもらい、感想や意見をうかがう。 ・市役所や町村役場のまちづくり担当の人に提案を聞いてもらい、それに対して意見をうかがう。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査の手法として「地域の課題をとらえる(1)」「地域の課題をとらえる(2)」「地域の課題を調べる」「地域に向けて発信する」となっているが、それぞれの学習課題の例が異なっている。 		

帝国	「地域調査の手法」(「身近な地域の調査」)	
	調査の手順	方法の具体例
	○ 調査テーマを決めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域を眺めよう」 ・「調査テーマを決めよう」 ・「調査テーマの仮説を立てよう」
	○ 調査方法を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・「調査項目と調査方法を考えよう」 ・「野外調査の準備をしよう」
	○ 野外調査を実行しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・「野外観察をしよう」 ・「聞き取り調査をしよう」
	○ 調査を深めて結果を発表しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・「さまざまな資料や情報を集めよう」 ・「調査結果をグラフや地図にまとめよう」 ・「調査結果を発表して意見交換しよう」
	「地域の在り方」	
	調査の手順	方法の具体例
	○ 課題を把握しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の課題や、持続可能な社会に向けて考えたことを振り返る。 ・対象の地域を選定する。 ・問いを立て、持続可能な社会をつくるために、地域の在り方を考える。
	○ 地域をとらえよう	<ul style="list-style-type: none"> ・調査計画書をつくる。 ・電話による聞き取り調査を行う。 ・インターネットなどを使った文献調査を行う。 ・表やグラフ、主題図などを作り、調査で分かったことを整理する。
○ 課題の要因を考察しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・類似した課題がみられる地域と比較したり、関連付けて考えたりする。 ・地域の特色をふまえて課題の要因を考察する。 	

帝国	○ 課題の解決に向けて構想しよう	<ul style="list-style-type: none"> 対象地域で行われている取組を、インターネットなどを使って調べる。 多面的・多角的に考え、課題の解決を構想する。 構想したことを、グループやクラスで発表する。 他のグループの意見を踏まえて、さまざまな側面から解決策を見直す。 構想に、費用や継続性の面で無理がないか見直す。
	○ 構想の成果を発信しよう	<ul style="list-style-type: none"> 構想したことをレポートやポスター、報告書などにまとめる。 学校の文化祭などで発表したり、市区町村の役所の方々にプレゼンテーションソフトを使って提言したり、調査に協力してくださった方に送付したりする。 調査結果や結論について、意見や感想をもらい、次の機会に生かす。

・ 調査の手法として京都市を例にして、系統立てて手順を示している。

日文	「地域調査の手法」(「地域調査の手法—京都市伏見区を例に—)	
	調査の手順	方法の具体例
	○ 身近な地域を見直そう	<ul style="list-style-type: none"> 「身近な地域を高いところから見る」 「身近な地域の特色をつかむ」
	○ 調査テーマを決めて調査計画を立てよう	<ul style="list-style-type: none"> 「調べたいことをまとめ、調査テーマを決定する」 「調査計画を立てる」
	○ 調査を進めよう(1)	<ul style="list-style-type: none"> 「実際に歩いて野外観察をする」 「地域の人に聞き取り調査をする」
	○ 調査を進めよう(2)	<ul style="list-style-type: none"> 「文献資料を使って調査する」 「統計資料を使って調査する」
	○ 調査結果をもとに考察してまとめ、発表しよう	<ul style="list-style-type: none"> 「調査結果をもとに考察してまとめよう」 「調査のまとめを発表しよう」
	「地域のあり方—京都市を例に—」	
	調査の手順	方法の具体例
	○ 地域の課題と特色をつかもう	<ul style="list-style-type: none"> 「日本の諸地域」で扱った日本全体の課題をふりかえる。 「日本全体の課題」を参考にして班ごとに話し合い、調査テーマと調査する地域を決定する。
○ 地域の課題の要因を考察しよう—自然と防災班—	<ul style="list-style-type: none"> 防災パンフレットなどの資料を集める。 課題に対する地域の取組や、関係する過去のできごとを調査する。 地域に長く住んでいる人や働いている人に聞き取り調査を行う。 	
○ 地域の課題の要因	<ul style="list-style-type: none"> 「立場のちがいによってどのようにとらえられているの 	

日文	を考察しようー交通と観光班ー	<p>か」に注意して、課題を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の地域の取組をインターネットで調査する。
	○ 課題の解決に向けて構想しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトをはっきり示す、タイトルをつける、1枚の紙にまとめる、プレゼンテーションソフトを使ってまとめるなど、わかりやすいプラン（提案）になるように工夫する。
	○ まちづくり会議を開こう	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくり会議」を開く。 ・さまざまな立場の人の役割を演じて、各班の提案を検討する。 ・話し合いを通して、提案を関連づけたり、提案に優先順位をつけたりして、「私たちのまちづくりプラン」をまとめる。 ・プランを改善し、学校全体に発表したり、地域の人々に向けて発信したりする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査の手法として「日本全体の課題」から「京都市を例に」に学習課題を移行させ、系統立ててまとめている。P263には「地域のあり方を追究する手順」を表にまとめている。 		

【社会（地理的分野）】

観 点	内容の構成・配列・分量
視 点	⑥単元や資料等の配列・分量
方 法	○総ページ数, 各大項目のページ数, 巻末資料等の内容とページ数

発行者	調査・研究内容					
東書	総ページ数	「世界と日本の地域構成」のページ数	「世界の様々な地域」のページ数	「日本の様々な地域」のページ数	「巻末資料の内容」(ページ数)	目次・巻頭資料等のページ数
	302	27	107	142	統計資料 (6) 用語解説 (4) さくいん (4) 巻末資料 (3)	9
教出	総ページ数	「世界と日本の地域構成」のページ数	「世界の様々な地域」のページ数	「日本の様々な地域」のページ数	「巻末資料の内容」(ページ数)	目次・巻頭資料等のページ数
	304	19	101	149	用語解説 (6) 統計資料 (4) さくいん (4) 巻末資料 (3)	18
帝国	総ページ数	「世界と日本の地域構成」のページ数	「世界の様々な地域」のページ数	「日本の様々な地域」のページ数	「巻末資料の内容」(ページ数)	目次・巻頭資料等のページ数
	310	24	104	166	さくいん (4) 巻末資料 (3)	9
日文	総ページ数	「世界と日本の地域構成」のページ数	「世界の様々な地域」のページ数	「日本の様々な地域」のページ数	「巻末資料の内容」(ページ数)	目次・巻頭資料等のページ数
	298	22	95	156	統計資料 (5) 用語解説 (4) さくいん (4) 巻末資料 (3)	9

【社会（地理的分野）】

観 点	内容の構成・配列・分量
視 点	⑦防災教育の充実
方 法	○「日本の地域的特色と地域区分」及び「日本の諸地域」における自然災害，防災及び減災に係る具体例

発行者	調査・研究内容		
東書	「日本の地域的特色と地域区分」 ○ 自然災害と防災の取組について記載している。		
	自 然 災 害	防災及び減災に係る具体例	
	・「さまざまな自然災害」地理にアクセス「人間の活動と災害」(p164) ・もっと地理「震災から命を守る」(p166~167)	・「急で短い日本の川」(p159) ・「被災地へのさまざまな支援」「防災対策と防災意識」(p164~165) ・もっと地理「命を守る取り組み」(p167)	
	「日本の諸地域」 ○ 「日本の諸地域」で起こる自然災害と対策について，本文や写真，図で記載している。 ○ 「地理にアクセス」では，近畿，東北地方を取り上げている。		
		自 然 災 害	防災及び減災に係る具体例
	九州	・「火山活動に由来する地形」(p186)	・「自然環境に適応する人々の工夫」(p188) ・「火山防災の取り組みを世界に発信」(p189)
	近畿		・「南北で大きく異なる気候」(p211) ・地理にアクセス「阪神・淡路大震災の教訓」(p215)
	中部		・「日本の屋根」(p222) ・輪中と流雪溝の写真・図(p222~223)
	関東		・まとめの活動「多数の『帰宅難民』が生まれた理由を考えよう」(p242)
	東北	・「くり返す地震や津波の被害」写真 図 (p252)	・「教訓を伝え，引きつぐ」「新しいまちや社会をつくる」(p252~253) ・地理にアクセス「集落を移転するべきか」(p253)
北海道		・「寒さと生きる」「火山と生きる」(p260~261)	

「日本の地域的特色と地域区分」

- 日本で起こる自然災害について、また、災害から身を守るためにどのような努力がなされているかについて記載している。

自然災害	防災及び減災に係る具体例
<ul style="list-style-type: none"> ・高波、北海道胆振東部地震の土砂崩れの写真 (p 147) ・地理の窓「日本で地震が多いのはなぜか」(p 151) ・「日本の川」 「大雨で氾濫した高梁川」写真 (p 154) ・「自然災害に向き合う」(p 158～159) ・地理の窓「川の地形と液状化現象」(p 159) ・「簡単ではない電力の問題」(p 167) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「平野の地形」(p 155) ・「気象災害」(p 159) ・「災害から身を守るために」(p 160～161) ・地理の窓「釜石の津波防災教育の取り組みに学ぼう」(p 161)

「日本の諸地域」

- 「日本の諸地域」で起こる自然災害と対策について、本文や写真、図で記載している。
- 「地理の窓」では近畿、関東地方、「特設ページ」では関東、東北地方を取り上げている。

教出

	自然災害	防災及び減災に係る具体例
九州	<ul style="list-style-type: none"> ・「修復工事が進む熊本城」写真 (p 174) ・「温暖な気候と台風の通り道」(p 177) ・「火山が集中する九州地方」(p 178) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「シラス台地と人々の暮らし」(p 178～179)
中四国	<ul style="list-style-type: none"> ・「山と海に挟まれた気候」(p 191) ・「進む都市化と課題」(p 193) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域で予想される災害について学ぶ」写真 (p 188) ・「雨が少ないため、ため池の多い讃岐平野」写真 (p 191)
近畿		<ul style="list-style-type: none"> ・地理の窓「震災の教訓を学ぶ」(p 209)
中部	<ul style="list-style-type: none"> ・「噴煙を上げる御嶽山」写真 (p 216) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「濃尾平野の輪中」写真 (p 216)
関東		<ul style="list-style-type: none"> ・地理の窓「災害に強い都市を目ざして」(p 237) ・特設ページ「都市特有の課題について考える—東京都を例に」(p 242)
東北	<ul style="list-style-type: none"> ・「東日本大震災からの復旧」写真 (p 244) ・「東日本大震災の震災遺構」写真 (p 245) ・「東北地方の地形」「リアス海岸と津波の関係」図 (p 246～247) 	<ul style="list-style-type: none"> ・特設ページ「震災の経験を受け継ぎ、未来に生かす」(p 256)
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・「地震による停電と復旧」写真 (p 259) ・「北海道の自然環境」(p 260) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「寒さへの工夫」 標識、二重になっている玄関の写真 (p 262) ・「火山と温泉」(p 268～269)

「日本の地域的特色と地域区分」
 ○ 日本で発生する自然災害について、また、自然災害を防いだり、被害を少なくしたりするための工夫について記載している。

自然災害	防災及び減災に係る具体例
・「日本のさまざまな自然災害」(p148～149)	・「自然災害に対する備え」(p150～151) ・防災「災害時の帰宅困難者対策」(p151) ・技能をみがく「ハザードマップの読み取り方」(p152) ・技能をみがく「防災情報の入手のしかた」(p153)

「日本の諸地域」
 ○ 「日本の諸地域」で起こる自然災害と対策について、本文や写真、図で記載している。
 ○ 「防災」では、それぞれの地域での防災への取組等について記載している。「特設ページ」では、関東、東北地方を取り上げている。

	自然災害	防災及び減災に係る具体例
九州	・「温暖な気候と自然災害」(p175) ・「火山と共に生きる鹿児島の人々」(p176)	・防災「南西諸島での水不足対策」(p175) ・「火山の噴火への備え」(p176～177) ・「南西諸島の自然と生活」(p182)
中四国	・「三つの地域で異なる気候」(p191)	・防災「土砂災害に備えた防災教育」(p191)
近畿	・「三つの地域で異なる気候」(p207)	・防災「震災の経験を語り継ぐ神戸」(p207)
中部	・「中部地方の自然環境」(p222～223)	・防災「御嶽山噴火の教訓を伝える火山マイスター」(p223) ・「豪雪地帯の商店街」写真(p223) ・「雪どけ水を生かした越後平野の稲作」(p230)
関東	・「内陸と海沿いで異なる気候」(p239)	・防災「都市型の水害に備える取り組み」(p239) ・「『屋敷森』とよばれる防風林がある家」写真(p239) ・特設ページ「都市と農村の交流の取り組み」(p252の3写真説明)
東北	・「東西と南北で異なる気候」(p257) ・「新たな工業の発展と環境に配慮したエネルギーの導入」(p264～265)	・防災「津波を後世に伝える桜の木」(p257) ・「米作りと寒い夏の克服」(p260) ・特設ページ「災害からの復興と生活の場の再生」図(p268)
北海道	・「北海道地方の自然環境」(p272～273)	・防災「全員避難を実現した地域ぐるみの防災教育」(p273) ・「雪に備える生活の工夫」(p275)

日文	<p>「日本の地域的特色と地域区分」</p> <p>○ 日本で起こる地震, 火山, 気象災害について記載し, 防災・減災の取組についても掲載している。</p>		
	自然災害	防災及び減災に係る具体例	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「背骨のようにつらなる山地」「山と川がつくる多様な地形」(p140~141) ・「降水量の多い気候」(p142~143) ・「地震・火山災害からみた日本の地域的特色と地域区分」(p144~145) ・地理+α「地震・津波が起きるしくみ」(p145) ・「気象災害からみた日本の地域的特色と地域区分」(p146~147) ・地理+α「ヒートアイランド現象と局地的な集中豪雨」(p147) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「災害にそなえるために」(p148~149) ・地理+α「せまりくる巨大地震にそなえて」(p149) ・自由研究「『釜石の奇跡』はなぜ起こったのか」(p150) ・チャレンジ地理「ハザードマップをより深く知り, 使うために」(p151) 	
	<p>「日本の諸地域」</p> <p>○ 「日本の諸地域」で起こる自然災害と対策について, 本文や写真, 図で記載している。</p> <p>○ 「地理+α」では中部, 北海道地方, 「スキルUP」では北海道地方を取り上げている。</p>		
		自然災害	防災及び減災に係る具体例
	九州	<ul style="list-style-type: none"> ・「火山と人々の生活」写真 図 (p168) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「鹿児島市の市街地と桜島」写真 (p164) ・「気候と人々の生活」(p169)
	中四国	<ul style="list-style-type: none"> ・「瀬戸内の地形・気候と人口の分布」「南四国の地形・気候と人口の分布」(p181) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由研究「巨大地震にそなえる過疎地域の取り組み」(p190)
	近畿	<ul style="list-style-type: none"> ・「三つの地域で異なる気候」(p194~195) ・「世界への窓口となった神戸」(p199) 	
	中部	<ul style="list-style-type: none"> ・「三つの地域の気候の特色」(p209) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理+α「水とつき合う地域の知恵」(p209)
	関東	<ul style="list-style-type: none"> ・「乾燥した冬と暑い夏」(p223) ・「強まる一極集中で高まるリスク」(p230) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災を考えた都市の再開発」(p230~231)
東北	<ul style="list-style-type: none"> ・「東日本大震災からの復興が進む市街地」写真 (p234) ・「南北にのびる山地と平地」(p236~237) ・「東日本大震災にともなう社会の変化」(p242~243) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「震災からの復興と災害に強い地域づくり」(p244~245) ・自由研究「新しいまちづくりをめざして」(p246) ・アクティビティ「持続可能な社会をめざしてー地域づくりプランー」(p247) 	
北海道		<ul style="list-style-type: none"> ・「現在の北海道の冬の生活」スキルUP「写真から生活のくふうを読み取る方法」(p252~253) ・地理+α「火山と地域との共生」(p259) ・自由研究「自然環境の視点からみた石狩平野の発展」(p260) 	

【社会（地理的分野）】

観 点	内容の表現・表記
視 点	⑧学習内容との適切な関連付けがなされた絵図・写真等の活用
方 法	○資料の種類及び掲載数、掲載の仕方

発行者	調査・研究内容
東書	<p>写真（620） 絵図（40） 地図（191） 表・グラフ（233）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 写真は、各単元の見開き2ページの左上に、メインの大きな写真を掲載し、各所に小さな写真を多数掲載している。 ○ 絵図は、本文の補足説明を行えるよう、配置している。 ○ 地図は、「世界の諸地域」では、中単元の最初に写真と地図で、州を概観している。「日本の諸地域」では、中単元の最初に地図を左右のページ上部に1点ずつ配置し、比較できるように並べて掲載している。 ○ 表・グラフは、「世界の諸地域」の単元では、各地域で雨温図を4都市掲載している。
教出	<p>写真（556） 絵図（31） 地図（200） 表・グラフ（216）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 写真は、各単元の見開き2ページに4～5点掲載している。 ○ 地図は、「世界の諸地域」では、最初の小単元の左のページに大きな地図を掲載している。 ○ 表・グラフは、「世界の諸地域」では、各地域で雨温図を3都市掲載している。
帝国	<p>写真（595） 絵図（60） 地図（182） 表・グラフ（228）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 写真は、各単元の見開き2ページの左上に大きな写真、右上に3～4点の写真を集めて掲載している。 ○ 絵図は、主に見開き2ページの左下、または、右側のページに配置している。 ○ 地図は、主に上部に配置され、大きさも同じ程度のもが多く、統一している。 ○ 表・グラフは、「世界の諸地域」の単元では、各地域で雨温図を3都市掲載している。
日文	<p>写真（618） 絵図（41） 地図（153） 表・グラフ（192）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 写真は、各単元の最初のページに集中して掲載している。見開き2ページに4～5点掲載している。 ○ 絵図は、写真とともに掲載しているものが多い。 ○ 地図は、「世界の諸地域」、「日本の諸地域」ともに単元の最初のページに地形と人口密度の資料を掲載している。 ○ 表・グラフは、「世界の諸地域」では、各地域で雨温図を3都市掲載している。グラフは、主に左ページ下部に掲載している。

【社会（地理的分野）】

視 点	内容の表現・表記
視 点	⑨掲載されている情報を精選し、視点を明確にする工夫
方 法	○ユニバーサルデザインに関する配慮がなされたフォント、グラフ、レイアウト等

発行者	調査・研究内容
東書	<p>【フォント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用し、本文ふり仮名の文字濃度を薄くしている。 <p>【グラフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りして区切っている。 ○ 複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 ○ グラフの背景に色をつけている。 <p>【レイアウト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページのレイアウトを統一している。 ○ ページ隅の色分けで学習内容を示している。「世界の諸地域」「日本の諸地域」では、ページ下に地域名で学習内容を示している。 ○ 見開きページ右上にメインとなる大き目の資料を配置している。 ○ 「世界の諸地域」の最初の単元の右上に各州の「降水量」と「人口密度」の資料が配置され、「日本の諸地域」の最初の単元の左上には各地方の「自然環境」、右上には「人口」の資料を配置している。
教出	<p>【フォント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用している。 <p>【グラフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りして区切っている。 ○ 複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 <p>【レイアウト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページ見開きのレイアウトを統一している。 ○ ページの隅の色分けと見開きページ左下の文字で学習内容を示している。 ○ 見開きページ右上に複数の資料を配置している。 ○ 「世界の諸地域」の最初の単元の右上に各州の「地勢と国々」の大き目の資料を配置し、「日本の諸地域」も同様に各地方の「地勢と各（都、府）県」を掲載している。
帝国	<p>【フォント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用している。 <p>【グラフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りして区切っている。 ○ 複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 ○ グラフの背景に色をつけている。

<p>帝国</p>	<p>【レイアウト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページのレイアウトを統一している。 ○ ページ隅の色分けと見開き右側のインデックスで学習内容を示している。 ○ 「世界の諸地域」の最初の単元の右上に各州の「自然」の大き目の資料を配置し、「日本の諸地域」では各地方の「自然」の資料と各地方の特徴を表す写真を配置している。
<p>日文</p>	<p>【フォント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用している。 <p>【グラフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りして区切っている。 ○ 複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変え、実線と点線で示している。 <p>【レイアウト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページのレイアウトを統一している。 ○ ページ隅の色分けと見開き右側のインデックスで学習内容を示している。 ○ 見開きページ右上にメインとなる資料を配置している。 ○ 「世界の諸地域」の最初の単元の左上に各州の「国々と地形」と「人口密度」の資料を配置し、「日本の諸地域」も同様に各地方の「地形」と「人口密度」を掲載している。

【社会（地理的分野）】

観 点	言語活動の充実
視 点	⑩目的に応じて適切に表現する力を育てるための工夫
方 法	○小単元のまとめの具体例

発行者	調査・研究内容
東書	○ 州ごとに設定された探究課題を、グループで担当を決め、課題や理由を調査し、その内容を図や表にまとめる。
	「世界の諸地域」の各地域のまとめにおける言語活動の具体例
	アジア州 グループで、それぞれの地域で経済が成長した理由と、経済の成長によって起こっている課題を表に整理する。単元の探究課題「アジア州は、なぜ急速に経済が成長してきたのでしょうか。」について、自分の言葉でまとめる。
	ヨーロッパ州 グループで、ヨーロッパ統合のきっかけや良い影響、課題を図に整理する。「今後もEUの加盟国を増やして、統合を進めるべきか」について話し合い、理由をふくめて、図に書き加える。単元の探究課題「ヨーロッパ州では、なぜ統合をめぐるさまざまな動きが見られるのでしょうか。」について、自分の言葉でまとめる。
	アフリカ州 グループで、「産業」「民族」「人口」の三つの側面から、アフリカに対する国際的な支援が必要だとする主張の具体的な理由になっている事実を、図に整理する。教科書を参考にしながら、アフリカの課題を解決するための具体的な支援について話し合い、図に書き加える。単元の探究課題「アフリカ州では、なぜ国際的な支援が必要とされているのでしょうか。」について、自分の言葉でまとめる。
	北アメリカ州 グループで、アメリカ合衆国の産業の発展の様子と、それを支えている技術や人を図に整理する。図を基に「今後もアメリカ合衆国の発展は続くかどうか」について話し合い、理由も含めて図に書き加える。単元の探究課題「北アメリカ州では、なぜアメリカ合衆国への移民が多く見られるのでしょうか。」について、自分の言葉でまとめる。
	南アメリカ州 グループで、南アメリカ州の開発と影響について、開発の内容と、それがもたらす影響を図に整理する。これを基に南アメリカ州での開発を、持続可能なものにするために必要なことを考えて、図に書き加える。単元の探究課題「南アメリカ州では、なぜ森林が減少しているのでしょうか。」について、自分の言葉でまとめる。
	オセアニア州 グループで、オーストラリアとほかの地域との結び付きの様子や変化、その理由を図に整理する。オーストラリアやニュージーランドでは、なぜ多文化社会を築こうとしているかを話し合い、図に書き加える。単元の探究課題「オセアニア州では、なぜアジアとの結び付きが強くなってきたのでしょうか。」について、自分の言葉でまとめる。

教出	○ 州ごとに設定された「学習テーマ」について、学習した内容をもとに話し合いをする。	
	「世界の諸地域」の各地域のまとめにおける言語活動の具体例	
	アジア州	アジア州各地について、なぜ経済が発展したのかを農業、工業、貿易について分担して調べ、特徴をまとめる。その結果をもとに、「経済発展に欠かせないものは何か」について話し合う。
	ヨーロッパ州	ヨーロッパ州の農業、再生可能エネルギー、ヨーロッパ連合について調査し文章にまとめる。「言葉や習慣が異なる人たちと社会生活を送るために、どのような工夫が必要だろうか。」について話し合う。
	アフリカ州	アフリカ州の砂漠化、農業、援助についてまとめる。「アフリカに対して、どのような支援が求められているのだろうか。」について、持続可能な発展をテーマに話し合う。
	北アメリカ州	アメリカ合衆国の農業、多国籍企業についてまとめる。アメリカ合衆国やカナダの成り立ちの特徴をまとめ、「なぜ活力ある多様で先端的な産業が根づいてきたのか」について、理由を話し合う。
	南アメリカ州	南アメリカ州の民族構成や都市問題について特色や理由をまとめる。都市へ人口が集中する理由をもとに、「都市の人口増加で生じている問題点」を整理し、どうすれば解決できるのか話し合う。
オセアニア州	オセアニア州の気候と三地域区分をまとめる。オーストラリアを例に、移民政策が変化してきた理由についてまとめる。まとめたものをもとにして、「他地域との関係を深めていくためにはどのような考え方や工夫が必要か」について話し合う。	
帝国	○ 州ごとに設定された「節の問い」に対して、「地理的な見方・考え方」を働かせ説明しながら話し合いをする。	
	「世界の諸地域」の各地域のまとめにおける言語活動の具体例	
	アジア州	アジア州で急速に経済発展している共通点や地域にどのような影響を与えているのか説明する。表の中から1つの国・地域を選び、そこで生じている課題の原因と、それに対する取組について考える。グループになり、どのような取組を優先的に行うことが大切か話し合う。
	ヨーロッパ州	EUを結成した背景や理由、結びつきが強まることによって地域にどのような影響を与えているのか説明する。EU加盟国間での経済格差拡大の理由と、それに対する取組について、「西ヨーロッパの人」「東ヨーロッパの人」の立場で考える。グループになり、どのような取組を優先的に行うことが大切か、立場を明らかにして話し合う。
アフリカ州	モノカルチャー経済になった理由やそれに頼る経済が地域にどのような影響を与えているか説明する。モノカルチャー経済からの脱却の妨げになっていることと、モノカルチャー経済に依存しすぎないようにするための取組について、課題の背景を踏まえて考える。グループになり、どのような取組を優先的に行うことが大切か、私たちができる取組はないか、話し合う。	

帝国	北アメリカ州	アメリカ合衆国の産業がどのように発達し、地域にどのような影響が生じているか説明する。大量消費の生活様式の課題を考え、それを踏まえて持続可能な社会を実現するために注意することについて考える。グループになり、どのような取組を優先的に行うことが大切か、私たちができる取組はないか、話し合う。
	南アメリカ州	鉱山の開発と工業化・都市化の関係や開発が進むことによる地域の影響を説明する。熱帯林の開発が進められている理由を考え、熱帯林の保全と経済の発展を両立するためにはどのような取組を行うとよいか、「開発業者」「先住民」「ブラジル政府」のいずれかの立場で考える。グループになり、どのような取組を優先的に行うことが大切か、立場を明らかにして話し合う。
	オセアニア州	オーストラリアにどのような人々が暮らしているのか、他地域との関係の変化が、地域にどのような変化を与えているのか説明する。多文化社会となっているオーストラリアでは、かつて、どのような課題を抱えていたのか考える。多文化社会を維持・発展させるためには、どのような取組を行うとよいか、「先住民」「移住してきた人々の子孫」「近年に移住してきた人」のいずれかの立場で考える。グループになり、どのような取組を優先的に行うことが大切か、立場を明らかにして話し合う。
日文	○ 「アクティビティ」の中で、「キャッチフレーズづくり」、「発見学習・調べ学習」など、話し合いやまとめを行うような課題を設定している。	
	「世界の諸地域」の各地域のまとめにおける言語活動の具体例	
	アジア州	東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア、中央アジアにある国々の経済発展の要因や課題を、表にまとめる。どのようなところが共通していて、どのようなところが異なっているのか、という問いに対する答えを考える。
	アフリカ州	「アフリカの国々がモノカルチャー経済からの自立をはかるにはどうすればよいか」をテーマに、ウェビングマップの「輸出用の農産物の多角化」「工業化」を参考に、「フェアトレード」から連想する言葉やアイデアを図の空欄に書き込む。
	南アメリカ州	ガラパゴス諸島の環境をそこなうことなく観光を楽しむアイデアや活動を紹介する観光用パンフレットの表紙に掲載する「キャッチフレーズ」を考える。2枚の写真から観光パンフレットの表紙に使う写真を選び、写真に合ったキャッチフレーズを考える。グループで考えたキャッチフレーズを発表し、なぜそれを選んだのか説明する。
オセアニア州	オセアニアの学習をふりかえり、「世界のなかの日本」「日本のなかの世界」について考え、話し合う。「世界のなかの日本」では、世界で通じる日本語をグループで出し合い、通じるようになった経緯を考える。「日本のなかの世界」では、どのようなところに表示されているか、何語で書かれているか、どのような人に対する表示なのか、といった点に注目しながら、住んでいる地域の多言語表示を探す。	

令和2年7月28日

呉市教科用図書選定委員会委員長 様

呉市教科用図書調査・研究委員会

種目 社会(歴史的分野)

代表者 呉市立天応 中学校

氏名 高野辰彦

呉市教科用図書調査・研究報告書について (報告)

このことについては、別添のとおりです。

【社会（歴史的分野）】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	①学習課題の示し方
方 法	○1時間ごとの学習課題の記載の仕方と記載例

発行者	調査・研究内容
東書	<p>【1時間ごとの学習課題の記載の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見開きごとにタイトルを「律令国家の成立と平城京」「平安京と律令国家の変化」「武士の成長」「院政から武士の政権へ」等の項目で示し、タイトルの右横に「どのような」「どのように」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。 ○ 見開き右のページの下段に、「チェック」と「トライ」を設定し、学習課題に対応した2段階の学習活動を示している。 <p>【学習課題の記載例】</p> <p>第2章3節 古代国家の歩みと東アジア世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聖徳太子や蘇我氏は、どのような国づくりを目指したのでしょうか。 ・ 東アジアの国々との関係の中で、日本はどのような改革を進めていったのでしょうか。 ・ 律令国家はどのようにしてできあがり、その仕組みはどのようなものだったのでしょうか。 ・ 律令国家の下で、人々はどのような暮らしをしていたのでしょうか。 ・ 奈良時代の文化は、どのような特色を持っていたのでしょうか。 ・ 平安京に都が移り、政治や社会はどのように変わったのでしょうか。 ・ 平安時代の政治は、どのような特色を持っていたのでしょうか。 ・ 平安時代の貴族の文化は、どのような特色を持っていたのでしょうか。 <p>第3章1節 武士の政権の成立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武士はどのように成長したのでしょうか。 ・ 武士はどのようにして政治の実権をにぎったのでしょうか。 ・ 鎌倉を中心とした武士の政権は、どのような特色を持っていたのでしょうか。 ・ 鎌倉時代の武士や民衆は、どのような暮らしをしていたのでしょうか。 ・ 鎌倉時代の文化や宗教は、どのような特色を持っていたのでしょうか。 <p>【「チェック」の記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 律令とはどのようなものか、本文からそれぞれぬき出しましょう。 ・ 武士が関わった戦いを、本文からぬき出しましょう。 <p>【「トライ」の記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 律令国家が全国を支配した仕組みを、次の語句を使って説明しましょう。[太政官/国・郡] ・ 武士はどのように成長していったか、きっかけとなる出来事に着目して40字程度で説明しましょう。
教出	<p>【1時間ごとの学習課題の記載の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見開きごとにタイトルを「木簡と計帳は語る」「望月の欠けたることもなしと思えば」「武士の登場」「貴族から武士へ」等の項目で示し、タイトルの右横に「奈良の都と律令制下の人々の暮らし」「平安の都と摂関政治」「武士の発生と武士団」「院政と平氏政権」等の学習内容を表す副題を示している。タイトルの下に

<p>教出</p>	<p>「どのような」「どのように」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。</p> <p>○ 見開き右のページの下段に、「確認」と「表現」または「節をとらえる」を設定し、学習課題に対応した2段階の学習活動を示している。</p> <p>【学習課題の記載例】</p> <p>第2章4節 貴族社会の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 律令制のもとで、都の貴族や地方の農民は、どのような暮らしをしていたのでしょうか。 ・ 奈良時代には、どのような特色をもった文化が栄えたのでしょうか。 ・ 律令政治や貴族の勢力は、どのように移り変わっていったのでしょうか。 ・ 平安時代には、どのような文化が生まれたのでしょうか。 <p>第3章1節 武家政治の始まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武士はどのようにしておこり、成長していったのでしょうか。 ・ 平氏は、どのように政治の実権を握り、どのような政治を進めたのでしょうか。 ・ 鎌倉を中心とした武家政権は、どのように成立し、勢力を拡大したのでしょうか。 ・ 鎌倉時代の人々は、どのような暮らしをしていたのでしょうか。 ・ 鎌倉時代には、どのような特色をもった文化や宗教が生まれたのでしょうか。 <p>【「確認」の記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 墾田永年私財法が出された背景を確かめよう。 ・ 初め、武士はどのような役割を担っていたか確かめよう。 <p>【「表現」の記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良時代の「朝廷、貴族、農民」の関係を、税の流れに注目して、図に表して説明しよう。 ・ 源氏や平氏などの武士が、どのように力を伸ばしていったか説明しよう。 <p>【「節をとらえる」の記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 貴族を中心とする政治や文化が栄えた歴史の中で、特に重要だと考えるできごとや言葉を、下の「キーワードの例」も参考にして、p.44~51から一つ選ぼう。また、その理由を説明しよう。 ・ 武士が政権を担うようになった歴史の中で、特に重要だと考えるできごとや言葉を、下の「キーワードの例」も参考にして、p.62~71から一つ選ぼう。また、その理由を説明しよう。
<p>帝国</p>	<p>【1時間ごとの学習課題の記載の仕方】</p> <p>○ タイトルを「律令国家を目指して」「律令国家での暮らし」「各地で生まれる武士団」「朝廷と結び付く武士」等の項目で示し、タイトルの右横に「どのような」「どのように」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。</p> <p>○ 見開き右のページの下段に、「確認しよう」と「説明しよう」を設定し、学習課題に対応した2段階の学習活動を示している。</p> <p>【学習課題の記載例】</p> <p>第1章第3節 中国にならった国家づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 蘇我氏や聖徳太子は、国づくりのためにどのような改革を行ったのだろうか。 ・ 東アジア諸国との関係のなかで、倭国（日本）はどのような改革を進めたのだろうか。

<p>帝国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良時代の土地と税の制度にはどのような特徴があったのだろうか。 ・ 奈良時代にはどのような特色を持った文化が展開したのだろうか。 <p>第2章第1節 武士の世の始まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武士はどのようにして力をつけていったのだろうか。 ・ 武士はなぜ政治の実権を握ることができたのだろうか。 ・ 鎌倉を中心とした武家政権は、どのような特徴を持っていたのだろうか。 ・ 鎌倉時代には、どのような特色を持った文化が展開したのだろうか。 <p>【「確認しよう」の記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良時代の初め、人々がどのような税を担ったのか、本文から五つ書き出してみよう。 ・ 都や地方での武士の役割を本文から書き出してみよう。 <p>【「説明しよう」の記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班田収授法と墾田永年私財法の違いを説明し、その違いが社会に与えた影響を説明してみよう。 ・ 武士が現れ成長していった過程を、都と地方での武士の役割から説明してみよう。
<p>山川</p>	<p>【1時間ごとの学習課題の記載の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ タイトルを「律令国家の仕組みと人々の暮らし」「平城京と天平文化」「荘園の成立と武士の登場」「院政と武士の成長」等の項目で示し、タイトルの下に「どのような」「なぜ」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。 ○ ページの下段に、「ステップアップ」を設定し、さらなる課題追究に向けた発問や学習活動を示している。 <p>【学習課題の記載例】</p> <p>第2章3節 律令国家の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聖徳太子（厩戸皇子）は、どのような国づくりを目指したのだろうか。 ・ 7世紀の倭では、なぜ朝廷に政治権力を集中させようとしたのだろうか。 ・ 朝廷に権力が集中する中で、天皇と豪族との関係はどのように変化したのだろうか。 <p>第3章1節 中世社会の成立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのように荘園が全国的に広まっていったのだろうか。 ・ 源氏が東国で大きな力をにぎることができたのはなぜだろうか。 ・ 院政はどのように始まったのだろうか。 ・ 平氏が政権をにぎり、短期間でそれを失ったのはなぜだろうか。 ・ 承久の乱によって鎌倉幕府と朝廷の関係はどのように変化したのだろうか。 ・ 武士と民衆はどのような関係で結ばれていたのだろうか。 ・ 荘園領主と地頭との間の訴訟が増加したのはなぜだろうか。 ・ 鎌倉時代にどのような仏教の新しい教えが生まれ、どのように広まっていったのだろうか。 <p>【「ステップアップ」の記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 墾田永年私財法は、律令国家にとってどのように役立ったのか、考えてみよう。 ・ 荘園や武士の発生により、国衙の役割はどのように変化したのだろうか。
<p>日文</p>	<p>【1時間ごとの学習課題の記載の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ タイトルを「奈良の都と人々の暮らし」「平安京と桓武天皇」「武士の登場」「院

<p>日文</p>	<p>政と平氏政権」等の項目で示し、タイトルの下段に「律令に基づく統治のしくみ」「律令国家の再建をめざして」「力をつけてきた新しい勢力」「変わる貴族と武士の関係」等の学習内容を表す副題を示している。タイトルの左横に「どのような」「なぜ」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。</p> <p>○ ページの下段に、「確認」を設定し、学習課題に対応した問いを示している。</p> <p>【学習課題の記載例】</p> <p>第2編3 古代国家の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 律令国家には、どのような特徴があるのでしょうか。 ・ 東大寺正倉院には、なぜ西アジアなどの外国の宝物が納められているのでしょうか。 ・ 多くの時間や資材をかけて奈良に築かれた都は、なぜ100年もたたないうちに、京都に移されたのでしょうか。 ・ 平安時代中ごろの文化の特色と天平文化の特色には、どのようなちがいがあのでしょうか。 <p>第3編1 古代から中世へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武士の役割や立場は、朝廷内や日本の各地でどのように変化していったのでしょうか。 ・ 平氏は、どのような政治を行おうとしたのでしょうか。 <p>第3編2 鎌倉幕府の成立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 源頼朝がつくった政治のしくみには、どのような特徴があるのでしょうか。 ・ 鎌倉時代の人々は、どのような生活をし、社会はどのように発展したのでしょうか。 ・ 鎌倉時代の文化は、古代の文化とどのようなところが異なっているのでしょうか。 <p>【「確認」の記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「税」という言葉を使って、朝廷の国づくりのねらいと当時の人々の生活を説明しましょう。 ・ 武士はどのようにしておこり、どのようにして力をつけていったのか、説明しましょう。
<p>育鵬社</p>	<p>【1時間ごとの学習課題の記載の仕方】</p> <p>○ 見開きごとにタイトルを「大宝律令と平城京」「平安京と摂関政治」「武士の登場と院政」「武士の世の到来と鎌倉幕府」等の項目で示し、タイトルの右横に「どのような」「どのようにして」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。</p> <p>○ 見開き右のページの下段に、「えんぴつ」マークを付し、学習課題に対応した学習活動を示している。</p> <p>【学習課題の記載例】</p> <p>第1章第2節 「日本」の国の成り立ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聖徳太子はどのような考えをもとに政治を行ったのだろうか。 ・ 大化の改新はどのような国づくりをめざしたものであったのだろうか。 ・ 飛鳥文化・白鳳文化はこの国の影響を受けて成立したのだろうか。 ・ 律令国家はどのようなしくみを持ち、人々はどのように暮らしていたのだろうか。 ・ 天平文化はどのような特色を持っていたのだろうか。

育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平安時代の天皇や貴族の政治はどのようなものだったのだろうか。 ・ 国風文化はどのようにして生まれ、どのように発展していったのだろうか。 <p>第2章第1節 武家政治の成立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武士はどのような役割を持って登場し、力をのぼしていったのだろうか。 ・ 鎌倉幕府はどのようなしくみを持っていたのだろうか。 ・ 鎌倉時代、武士や農民はどのような生活をしていたのだろうか。 ・ 武士の時代、文化や宗教はどのように変わっていったのだろうか。 <p>【「えんぴつ」マークの記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 律令国家のしくみについて、次の語句を使って説明しましょう。【天皇／国司／貴族／律／令】 ・ 武士が力をのぼしていったようすを、次の語句を使ってまとめましょう。【源氏／平氏／武士団／反乱】
学び舎	<p>【1時間ごとの学習課題の記載の仕方】</p> <p>○ 見開きごとにタイトルを「奈良の都」「北で戦い、都をつくる」「都で、武士が戦う」「荘園の人びと」等の項目で示し、タイトルの右横に「律令制の成立」「平安京と地方の政治」「武士の成長と院政」「院の荘園と平氏」等の学習内容を表す副題を示している。タイトルの下段に「どんな」「なぜ」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。</p> <p>【学習課題の記載例】</p> <p>第2章 日本の古代国家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教の導入で、超高層の寺院が出現。そのあと倭国は、ゆるる東アジアにどう立ち向かうのか。 ・ 都に大量の品物が運ばれてきた。どんなしくみができたのか。国の内外にどんな変化があらわれたか。 ・ 口分田で農業に取りくむ人びとは、防人のほか、税としてどんな負担をしいられていたか。 ・ 伎楽や正倉院宝物、鑑真の来日からどんなことがわかるか。歴史書はなぜつくられたのか。 ・ バグダッドにはどんな人たちが集まってきたか。イスラムではどんな文化が生まれたか。 ・ 新しい都・平安京ができた。東北で、都や地方で、どんなことがおこなわれるようになったか。 ・ 紫式部と清少納言はどんなことを書いたのか。このころの文化にはどんな特色があるのだろうか。 <p>第3章 武士の世</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武士が登場した。どんな人たちだろう。武士はどのようにして力をつけていくか。 ・ 農民たちが荘官の館に年貢を運んでいる。荘園はどのように広がっていったのか。 ・ 各地で平氏政権に反対する内乱がはじまった。関東の武士たちは何を願っていたのだろうか。 ・ 南無阿弥陀仏と唱える教えはなぜ広まったのか。武士はどんな文化に接しどんな信仰を深めたか。 ・ 阿テ河荘の百姓が地頭を訴えた。なぜだろう。人びとの力は産業をどのように変えていくか。

【社会（歴史的分野）】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	②我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
方 法	○文化遺産の示し方，神話・伝承等に関する記載内容

発行者	調査・研究内容
東書	<p>『文化遺産の示し方』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に「国宝」「重要文化財」「世界遺産」「世界の記憶」「無形文化遺産」のマークを付けている。 ○ 巻頭の見開き2ページに「日本の国宝・重要文化財」をまとめている。 <p>『神話・伝承等に関する記載内容』</p> <p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国家の仕組みが整い，国際的な交流が盛んになると，日本の国のおこりや，天皇が国を治めることの由来を説明しようとする動きが朝廷の中で起こりました。そこで，神話や伝承，記録などを基に歴史書の『古事記』と『日本書紀』が作られました。また，全国に命じて，自然・産物・伝承などを記した『風土記』が国ごとに作られました。」 <p>【特設ページ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「現代に生きる神話」 2ページにわたって，『記紀神話』の成立』『記紀神話』の展開「日本の神話と世界の神話」「島根県と神話」「宮崎県と神話」を記載している。
教出	<p>『文化遺産の示し方』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に「世界遺産」「国宝」「重要文化財」のマークを付けている。 <p>『神話・伝承等に関する記載内容』</p> <p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国際的な交流が盛んになると，天皇が日本を治める由来を説明する歴史書として，神話や国の成り立ちを記した『古事記』・『日本書紀』がまとめられました。また，地方の国ごとに，地理や産物，伝承などを記した『風土記』もまとめられました。」 <p>【特設ページ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「神話にみる古代の人々の信仰」 2ページにわたって，「日本の神話」「古事記に記された黄泉の国の物語」「神話にみる古代の人々の信仰ともの見方」を記載している。
帝国	<p>『文化遺産の示し方』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に「世界遺産」「世界の記憶」「国宝」のマークを付けている。 ○ 巻末の折り込みに「日本の世界遺産」を地図とともにまとめている。 <p>『神話・伝承等に関する記載内容』</p> <p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「天皇が日本を治めることの正統性を明らかにしようとする動きも起こり，天皇家の由来を説明するための歴史書として『古事記』や『日本書紀』が作られ，数々の神話がそこへ記されました。また，天皇が支配するすべての土地の地理的な情報を集めるため，産物や地名の由来，伝承などを国ごとにまとめた『風土記』も作られました。」 <p>【コラム】</p>

帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『古事記』と『日本書紀』が伝える神話 「古事記」と「日本書紀」の内容等について記載している。
山川	<p>『文化遺産の示し方』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に「世界遺産」「国宝」のマークを付けている。 ○ 巻頭に「日本の世界遺産」を地図とともにまとめている。 <p>『神話・伝承等に関する記載内容』</p> <p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「律令国家が確立すると、天皇の由来や、天皇が国家をおさめる正当性を示すために、歴史書の編さんが行われた。天武天皇が命じた歴史書の編さん事業を引きつぎ、奈良時代には『古事記』と『日本書紀』が完成した。『古事記』は、神話の時代から推古天皇の時代までの、天皇の起源を説明する物語をまとめたものである。『日本書紀』は、中国の歴史書にならって漢文で書かれた最初の歴史書で、神話の時代から持統天皇の時代までの歴史がまとめられた。このほか、諸国には、国内の産物や地名の由来、古くからの伝承などを報告することが命じられ、これらを記した『風土記』がつくられた。」 <p>【コラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本の神話」 「古事記」や「日本書紀」、「風土記」の内容等について記載している。
日文	<p>『文化遺産の示し方』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に「国宝」「世界遺産」のマークを付けている。 ○ 巻末の折り込みに、日本の「世界遺産」を地図とともにまとめている。 <p>『神話・伝承等に関する記載内容』</p> <p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「律令国家のしくみが整うにつれて、国家のおこりや天皇・貴族の由来などを説明するために、『古事記』や『日本書紀』などの歴史書がつくられました。このほか、全国の国ごとに、自然・地理・産物や伝説などを集めた『風土記』がまとめられました。」 <p>【特設ページ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本の神話」 1ページを使い、「神話とは何か」「古事記」「日本書紀」の神話」「さまざまな神話」を記載している。
育鵬社	<p>『文化遺産の示し方』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に「国宝」「世界遺産」のマークを付けている。 ○ 巻頭には、世界遺産や国宝を紹介している。また、巻末には、「日本の世界文化遺産」を地図とともにまとめている。 <p>『神話・伝承等に関する記載内容』</p> <p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「律令国家としての基礎ができあがるにつれ、わが国の歴史が書物としてまとめられるようになりました。神々の物語や代々の天皇の業績を記した『古事記』や、国の正史として代々の天皇やその業績を記した『日本書紀』がそれにあたります。また、朝廷の命令によって、各地の地理や産物、伝説などを記した『風土記』もつくられました。」 <p>【特設ページ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「神話に見るわが国誕生の物語」

育鵬社	2ページにわたって、「日本の神々の物語」「三種の神器と神武天皇」「伝説の英雄が活躍する神話」を記載している。
学び舎	<p>『文化遺産の示し方』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 世界遺産や国宝、史跡を写真や地図で紹介している。 ○ 近世後半の導入ページにおいて「世界遺産に見る世界」で世界遺産を紹介している。 <p>『神話・伝承等に関する記載内容』</p> <p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「朝廷は8世紀の前半に、中国の正史にならった歴史書の『日本書紀』を、神話の記録として『古事記』を完成させました。これらは、古くからの伝承もふくんでいます。天武天皇が、国の統一をすすめる目的で編さんを命じていたものです。ここには、太陽の女神とされる天照大神が、天から地上に神々をつかわし、その子孫が国を制圧して、最初の天皇となったという神話が書かれています。東アジアの国々に対しても、天皇がこの国を治める正当性をしめそうとしたものです。また、国ごとに言い伝えられたことをしるした『風土記』もまとめられ、出雲国（島根県）や常陸国（茨城県）などのものが残っています。」 <p>【コラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「『常陸国風土記』に書かれた富士山と筑波山」 常陸国風土記に記された内容等について記載している。

【社会（歴史的分野）】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	③国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫
方 法	○日本に影響を与えた文化交流に関するコラム等の数と内容

発行者	調査・研究内容
東書	<p>『時代区分（コラム等の数）とコラム等の内容』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 古代（1） <ul style="list-style-type: none"> ・年中行事 ○ 中世（2） <ul style="list-style-type: none"> ・堺の自治 ・東アジア世界の国々の交流と琉球文化 ○ 近世（3） <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮人陶工と日本の陶磁器文化 ・朝鮮通信使が訪れた対潮楼 ・アイヌ文化とその継承 ○ 近代（3） <ul style="list-style-type: none"> ・錦絵から文明開化の様子をとらえよう ・メディアの発達が日本を変えた ・オリンピック・パラリンピックと日本
教出	<p>『時代区分（コラム等の数）とコラム等の内容』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 古代（1） <ul style="list-style-type: none"> ・神話にみる古代の人々の信仰 ○ 中世（1） <ul style="list-style-type: none"> ・宋と高麗 ○ 近世（3） <ul style="list-style-type: none"> ・銀で結びつく世界 ・宣教師が見た日本 ・野國總管と青木昆陽 ○ 近代（1） <ul style="list-style-type: none"> ・琉球とアイヌの文化を伝えた人たち ○ 現代（1） <ul style="list-style-type: none"> ・点字の始まり
帝国	<p>『時代区分（コラム等の数）とコラム等の内容』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 古代（4） <ul style="list-style-type: none"> ・上野三碑に見る渡来人の影響 ・キトラ古墳に見る中国の思想 ・衣服の変遷 ・「古事記」と「日本書紀」が伝える神話 ○ 中世（4） <ul style="list-style-type: none"> ・北と南を襲ったもう二つの蒙古襲来 ・東アジアに開かれた窓口 博多 ・東アジアの美、磁器 ・生活を変えた木綿

<p>帝国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近世 (3) <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮半島から伝わった文化 ・琉球とアイヌの人々の暮らし ・昆布ロードと北前船 ○ 近代 (7) <ul style="list-style-type: none"> ・幕府の「近代化」への対応 ・世界に開かれた港 横浜 ・「絹の道」と日本の製糸業 ・ハーンと濱口梧陵の「稲むらの火」 ・国旗と国歌 ・祖国の音楽を紹介したドイツ兵 ・人々を魅了した洋菓子文化
<p>山川</p>	<p>『時代区分 (コラム等の数) とコラム等の内容』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 古代 (3) <ul style="list-style-type: none"> ・中国の記録に見る日本列島 ・日本の神話 ・神仏習合 ○ 中世 (4) <ul style="list-style-type: none"> ・海に眠っていた貿易船 ・琉球の歴史と文化 ・アイヌ民族の歴史と文化 ・木綿栽培 ○ 近世 (1) <ul style="list-style-type: none"> ・砂糖 ○ 近代 (2) <ul style="list-style-type: none"> ・近代日本と女子留学生 ・「螢の光」
<p>日文</p>	<p>『時代区分 (コラム等の数) とコラム等の内容』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 古代 (2) <ul style="list-style-type: none"> ・儒教 ・朝貢・冊封とは何か ○ 中世 (2) <ul style="list-style-type: none"> ・宋と高麗 ・東大寺の再興と重源 ○ 近世 (4) <ul style="list-style-type: none"> ・つながる世界と生活の変化 ・活版印刷の始まり ・雨森芳洲 ・こんぶはめぐる ○ 近代 (1) <ul style="list-style-type: none"> ・近代社会に日本をみつめ直す ○ 現代 (2) <ul style="list-style-type: none"> ・在日韓国・朝鮮人の歴史とコリアタウン ・オリンピック・パラリンピックの歴史

育鵬社	<p>『時代区分（コラム等の数）とコラム等の内容』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 古代（4） <ul style="list-style-type: none"> ・ローマ帝国と日本の古墳時代 ・日本人の宗教観 ・かな文字の発達 ・なでしこ日本史その1 ○ 近代（3） <ul style="list-style-type: none"> ・外国人が見た日本 ・お雇い外国人 ・なでしこ日本史その4 ○ 現代（1） <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックと万博のレガシー
学び舎	<p>『時代区分（コラム等の数）とコラム等の内容』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 古代（2） <ul style="list-style-type: none"> ・今も読まれる孔子の「論語」 ・中国の歴史書に書かれた卑弥呼 ○ 中世（4） <ul style="list-style-type: none"> ・博多に住みついた中国商人たち ・帯と扇のネットワーク ・大仏再建の熱狂 ・アイヌの人びとがになう北方の交易 ○ 近世（4） <ul style="list-style-type: none"> ・ザビエルとアンジロー ・琉球王国の使節 ・長崎に荷揚げされた砂糖 ・ラクスマンと大黒屋光太夫 ○ 近代（3） <ul style="list-style-type: none"> ・郷学校から公立小学校へ ・6歳の女子留学生 ・「モダン・タイムス」と「独裁者」 ○ 現代（3） <ul style="list-style-type: none"> ・微力だけど無力じゃない ・インディラがやってきた ・東京オリンピック

【社会（歴史的分野）】

観 点	主体的に学習に取り組む工夫
視 点	④単元の導入における工夫
方 法	○各単元の導入において、興味・関心をもたせるための工夫の具体例

発行者	調査・研究内容
東書	<p>【構成の概要】</p> <p>見開き2ページにわたり、絵図と人物や歴史的事象のイラストを用いた年表を掲載し、資料の読み取りやグループ学習について示している。また、キャラクターの問いにより、章及び各節の学習課題を導くよう構成している。</p> <p>(近世の日本)</p> <p>○ 章の学習課題 「近世では、どのようにして社会が安定したのでしょうか。」(p.99)</p> <p>○ 各節の学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ヨーロッパ人との出会いを経て、なぜ戦乱の世が終わりをむかえたのでしょうか。」(p.100) ・「なぜ江戸幕府の支配は約260年も続いたのでしょうか。」(p.114) ・「産業や文化が発達し、都市が繁栄する中で、なぜ幕府は改革をせまられたのでしょうか。」(p.124) <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵図 [1]さまざまな身分の人たち, [2]参勤交代, [3]新しい農具, [4]歌舞伎 ・年表 <p>【資料に係る学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「[1]の④～⑥にえがかれているのはどの身分の人たちか、またどのような様子がえがかれているか、それぞれ読み取りましょう。」 ・「[2]～[4]は、それぞれどの身分の人たちに関係するものか考えましょう。」 ・「[1]～[4]から、それぞれの身分の人たちの暮らしについてどのようなことが分かるか、グループで話し合しましょう。」 ・「資料や年表から、この時代について、知りたいことや疑問に思うことを出し合しましょう。」 <p>(近代の日本)</p> <p>○ 章の学習課題 「近代化によって、日本の国家や社会はどのように変化したのでしょうか。」(p.149)</p> <p>○ 各節の学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ欧米諸国は世界に先がけて発展したのでしょうか。」(p.150) ・「欧米とアジアとの関係が変化する中、なぜ江戸幕府はほろんだのでしょうか。」(p.160) ・「なぜ日本ではほかのアジア諸国に先がけて、近代化が進んだのでしょうか。」(p.168) ・「近代化を進める中で、なぜ日本は中国やロシアと戦争をすることになったのでしょうか。」(p.186)

<p>東書</p>	<p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵図 ① (大日本帝国憲法の発布), ② 明治時代初めの日本橋付近の様子, ③ 小学校の授業風景, ④ 紡績工場の様子) ・ 年表 <p>【資料に係る学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「①はどのような場面をえがいているか, グループで話し合みましょう。」 ・ 「(1)のほかに, この時代に起こった社会の変化にはどのようなものがあったか, ②~④を参考に, グループで出し合みましょう。」 ・ 「近代化とはどのようなことか, (1)と(2)をふまえて, グループで話し合みましょう。」 ・ 「資料や年表から, この時代について, 知りたいことや疑問に思うことを出し合みましょう。」
<p>教出</p>	<p>【構成の概要】</p> <p>1ページを使い, 絵図で歴史的事象を示すとともに, 年表でこれから学習する時代を示している。また, キャラクターの話し言葉から章の学習課題を導くよう構成している。さらに, 見開き2ページにわたり, 絵図と絵図に係るキャラクターの問いを掲載している。</p> <p>(近世の日本)</p> <p>○ 章の学習課題</p> <p>「上の絵は, 17世紀前半の江戸城とその周辺の様子です。左の貨幣は, 17世紀の初めにつくられ, 全国で使われるようになりました。このような変化がなぜ起こったのか, 学習していきましょう。」(p.95)</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵図 (江戸城, 寛永通宝と慶長小判, 江戸図屏風, 江戸のまち①~⑤) ・ 年表 <p>【資料に係る学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「①~⑤には, どのような場面が描かれているでしょうか。」 ・ 「中世と比べて変わったところ, 中世から変わっていないところをそれぞれ考えてみましょう。」 ・ 「中世から社会がどのように変化していったのか, 予想してみましょう。」 <p>(近代の日本)</p> <p>○ 章の学習課題</p> <p>「この軍艦はどこ国のものだろう。対応している武士の様子を見ると, 貿易に来たわけではなさそうだよ。」(p.145)</p> <p>「上の絵は, 19世紀の中ごろ, 江戸湾に軍艦が現れた時の様子を描いたものです。それまで鎖国下にあった日本には, どのような変化が生まれたのか, これから学習していきましょう。」(p.145)</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵図 (江戸湾に現れた軍艦, 明治時代の新橋の様子, 式典の様子, 1871年に開業した工場) ・ 年表

<p>教出</p>	<p>【資料に係る学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「上の絵の中で江戸時代と違っているところはどこでしょうか。また、なぜそのように変化したのでしょうか。」 ・「右側の二つの絵は、それぞれ何をしているところでしょうか。」 ・「これまで学習してきた時代と比べて、近代にはどのような変化が起きたのか予想してみましょう。」
<p>帝国</p>	<p>【構成の概要】</p> <p>導入の特設ページは設けていないが、タイトル下に章の学習課題を示している。また、小単元の導入に「タイムトラベル」という見開き2ページの特設ページにより、絵図で歴史的事象を示すとともに、絵図の人物を用いた年表を掲載している。資料読み取りの活動を示している。</p> <p>(近世の日本)</p> <p>○ 章の学習課題 「全国を統一する安定した政権を成立させたものは何か。」(p. 94)</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵図 ・年表 <p>【資料に係る学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「室町時代と比べると、どのような点が変わり、どのような共通点があるでしょうか。」 ○ 「次の場面を探してみよう！」 <ul style="list-style-type: none"> ・「城のシンボルとなる天守が、建てられています。」 ・「城の周囲に、家来の屋敷が広がっています。」 ・「十字架を持った外国の人が人々に語りかけています。」 ・「僧侶から、刀などの武器を取り上げています。」 ・「縄と物差しで、田の広さを調べています。」 ・「農民が、新しい升を使うように指示されています。」 <p>(近代の日本)</p> <p>○ 章の学習課題 『近代化』による、政治や社会の大きな変化とは何か。」(p. 148)</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵図 ・年表 <p>【資料に係る学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「江戸時代と比べると、どのような点が変わり、どのような共通点があるでしょうか。」 ○ 「次の場面を探してみよう！」 <ul style="list-style-type: none"> ・「たくさんの繭を、製糸工場に運んでいます。」 ・「町の奥に、西洋建築の教会があります。」 ・「装備を整えた軍隊が、行進しています。」 ・「子どもたちが、教室で授業を受けています。」 ・「警察官が、力強く演説会を中止させています。」 ・「駅のホームに、『SILK』と書かれた荷物が積みまれています。」

<p>山川</p>	<p>【構成の概要】 見開き2ページにわたり、年表で、これから学習する内容を日本史と世界史に分けて示すとともに、単元全体に係る説明を掲載している。また、日本史と世界史の主な歴史的事象の写真や絵図を掲載している。</p> <p>(近世の日本)</p> <p>○ 章の学習課題 「対外関係をふまえ、政治の展開や社会の変化、文化の発展を学んでいきましょう。」(p.102)</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真(姫路城、オスマン帝国の都となったイスタンブルの街、サン=ピエトロ大聖堂、ヴェルサイユ宮殿、タージ=マハル) ・絵図(長篠の戦い、南蛮人と南蛮貿易、検地、湯島聖堂における講義、オランダ正月、出帆を待つ菱垣廻船、大塩の乱、「最後の晩餐」、コロンブスの上陸、エリザベス1世) ・年表 <p>(近代の日本)</p> <p>○ 章の学習課題 「欧米との関係が、日本の政治・経済・社会・文化にどのように影響したかを学びましょう。」(p.154)</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真(岩倉使節団) ・絵図(黒船来航図、大政奉還、銀座れんが街、自由民権運動の演説会、憲法発布の式典、鹿鳴館での舞踏会、「漁夫の利」、日本郵船会社、アメリカ独立宣言の署名、バステューユ襲撃、ナポレオン、蒸気機関車、リンカン、アヘン戦争、アフリカをまたぐ巨人、インド大反乱) ・年表
<p>日文</p>	<p>【構成の概要】 見開き2ページ(近世では4ページ)にわたり、絵図等によって歴史的事象を示し、章の学習課題を示している。また、世界の動きが分かるように、地図や年表等を掲載している。</p> <p>(近世の日本)</p> <p>○ 章の学習課題 「近世の江戸幕府と、中世の室町幕府の将軍の建物を比べて、どうしてこんなに大きさがちがうのか、この単元ではそのなぞを解いていきましょう。そして、『近世』とはどのような時代か、政治、社会、文化、外交の面で、これまでの時代とのちがいは何かなど、自分の言葉で説明できることをめざしましょう。」(p.109)</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵図(江戸図屏風の日本橋付近のようす、室町幕府の将軍が政治を行った町のようす、江戸幕府の将軍が政治を行った町のようす、ムスリム商人の船) ・地図 ・年表 ・写真(イスタンブール、香辛料)

【資料に係る学習活動】

- 「400年前の江戸の町を読み取ろう」
 - ・「町は、どのような形に区割りされているかな。」
 - ・「橋のたもとにある木戸は、何の役割があるのかな。」
 - ・「白い壁の窓をとじた建物は何かかな。」
 - ・「高札は、だれにどのようなことを知らせるものかな。」
 - ・「武士と町人、男性と女性のどちらが多いかな。」
 - ・「荷物の運搬に、何が使われているかな。」
 - ・「川岸には、何が積まれているかな。」
 - ・「店や天秤棒で何が売られているかな。」
- 「16世紀前半の京都を読み取ろう」
 - ・「室町幕府の将軍と補佐役の管領の屋敷を見つけましょう。」
 - ・「将軍と管領の屋敷を見比べて、大きさや建物の特徴を読み取りましょう。」
- 「17世紀前半の江戸を読み取り、中世と近世の将軍の建物を見比べよう」
 - ・「江戸幕府の将軍と家臣の大名の屋敷を見つけよう。」
 - ・「将軍と大名の屋敷を見比べて、大きさや建物の特徴を読み取りましょう。」
 - ・「読み取った中世と近世の将軍の建物の特徴をもとに、中世と近世とではどのような点が異なるか、そのちがいを明らかにしましょう。」
- 「地図を読み取ろう」
 - ・「P. 82の地図と比べて、ユーラシア大陸の国はどのように変化しているのかな。中国やヨーロッパ、そのあいだにあるイスラム世界に注目して読み取りましょう。」

(近代の日本)

○ 章の学習課題

「なぜ、武家の象徴である城の天守閣はこわされたのでしょうか。江戸幕府の将軍がいた江戸城の新しい主として、天皇が入城することは、どのような意味をもつのでしょうか。日本国内の改革や諸外国との関係に着目しながら、学んでいきましょう。そして、『近代(前半)』はどのような時代か、政治・社会・文化・外交の面で、これまでの時代とのちがいは何かを、自分の言葉で説明できることをめざしましょう。」(p. 159)

【資料】

- ・絵図(江戸時代の江戸のようす、明治時代の東京のようす、1868年に江戸城に入る天皇、スエズ運河の開通、太平天国の乱)
- ・地図 ・年表 ・写真(解体された小田原城天守閣)

【資料に係る学習活動】

- 「近世と近代を見比べよう」
 - ・「**1**~**4**を見て、それぞれの特徴やちがい、変化を読み取り、話し合しましょう。」
 - ・「服装や建物、乗り物にどのような変化があるのでしょうか。」
 - ・「近世から近代までのあいだに、どのようなできごとが起こったのでしょうか。」
- 「地図を読み取ろう」
 - ・「P. 114の地図と見比べて、アジアやアフリカ、アメリカ大陸などどのように変化しているか、読み取りましょう。」

【構成の概要】

1 ページを使い、絵図等で歴史的事象や、全ての歴史学習の中のどの期間の学習をするかが分かる年表や、キャラクターの言葉を掲載している。次の見開き2ページにわたり、歴史的な事象を時系列で掲載している。さらに、見開き2ページにわたり、絵図等を掲載し、その資料から読み取る学習活動を示している。

(近世の日本)

○ 章の学習課題

「近世は、最初は外国との貿易がさかんに行われますが、やがて鎖国が行われます。なぜそうなったのか、学んでいきましょう。」(p.103)

【資料】

- ・絵図(朱印船, 歴史絵巻, 江戸図屏風) ・年表
- ・グラフ(三都の人口の推移) ・写真(タイのアユタヤに立つ石碑)

【資料に係る学習活動】

- 「この絵から、どんなことが分かるかな？」
 - ・「日本橋がかかると川の両岸では、どんなものが荷あげされたり、積荷されたりしているのでしょうか？」
 - ・「日本橋の右手には、大店とよばれる大きな館が軒を連ねています。そこではどんな人たちが何をしていますか？ 建物にはどんな特徴がありますか？」
 - ・「どんな身分・職業の人たちがえがかれていますか？ それはどんなところから分かりますか？」
 - ・「このころの日本橋の町の区画は、どのようになっていたのでしょうか？」
 - ・「日本橋の左側には、高札(立て札)がえがかれています。高札はどんなことに使われていたのでしょうか？」

(近代の日本)

○ 章の学習課題

「近代は、開国によって激動の時代をむかえます。勝や福沢らがどんな活躍をしたのか、学んでいきましょう。」(p.155)

【資料】

- ・絵図(咸臨丸, 歴史絵巻, 東京開化名勝京橋石造銀座通り両側煉化石商家盛栄之図, 明治40年ごろの中流家庭の食卓)
- ・年表 ・地図

【資料に係る学習活動】

- 「この絵から、どんなことが分かるかな？」
 - ・「この絵にはどんな人たちがえがかれていますか？ どういう職業の人がいますか？」
 - ・「P.106～107の『江戸図屏風』と見比べて、人々のようすはどのように変化していますか？(衣服, 身だしなみ, 持ち物など)」
 - ・「P.106～107の『江戸図屏風』と見比べて、町並みのようすはどのように変化していますか？(建物, 通りのようす, 乗り物など)」
 - ・「ここにえがかれた町並みに、何か特徴は見られますか？」
 - ・「外国から取り入れられたものはありますか？①～④をふまえて、具体的に5つ以上あげてみましょう。」

【構成の概要】

見開き2ページにわたり、年表スケールや歴史的事象を示す写真や絵図を掲載している。また、それぞれの歴史的事象が関連する位置を、掲載した地図に示している。

(近世の日本)

○ 章の学習課題

「海洋を行き来して、遠く離れた国と国がつながります。人びとの交流が新しい時代を開きます。地域と地域がつながって、新しい文化が育ちます。天下を統一した武将たち、力をつけた百姓・町人たちの姿を見ていきましょう。地域に残る歴史の跡や資料からも、当時の人びとの生活を見ることができます。近世の新しい動きを、さまざまな角度から考えてみましょう。」(p. 87)

【資料】

- ・年表
- ・地図
- ・絵図 (鉱山で働かされるアメリカ先住民、奴隷い船の内部のようす、イスタンブールの天文台、南蛮船から下ろされた荷物)
- ・写真 (トマト・トウモロコシ・トウガラシ、コショウの実、石見銀)

(近代の日本)

○ 章の学習課題

「世界で、日本で、社会が大きく変動します。新しい産業が発展し、人びとの生活が変化します。新しい思想が芽生え、新しい国家のしくみがつくられます。きびしく対立する国と国、人びとどうしの関係を見ていきましょう。出版物などからも、時代の変化を読みとることができます。何が人びとの暮らしを変えたのでしょうか。話し合い、考えを深めていきましょう。」(p. 137)

【資料】

- ・年表
- ・地図
- ・絵図 (鉄とガラスの水晶宮 1851年ロンドン万博、エッフェル塔と万博会場 1889年パリ万博、植民地の職人による実演 1889年パリ万博)
- ・写真 (電灯でつくられたエジソンタワー 1893年シカゴ万博、中国館の陶磁器展示場 1878年パリ万博、イゴロット村の人びとのダンス 1904年セントルイス万博、日本の展示の案内 1900年パリ万博)

【社会（歴史的分野）】

観 点	主体的に学習に取り組む工夫
視 点	⑤課題の設定, 整理・分析, 振り返りを展開するための構成上の工夫
方 法	○「身近な地域の歴史」で示している調べる手順・方法及び記載の仕方

発行者	調査・研究内容
東書	<p>○ 記載の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第1章 歴史へのとびら」に「2節 身近な地域の歴史」を設け, 調べ学習における学習のポイントについて示している。 ・各大項目の終わりに, 「地域の歴史を調べよう」というコーナーを設け, 身近な地域の調べ学習の例を示している。 <p>○ 調べる手順・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマを決めて調査・考察しよう <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマの設定 2 調査 <ul style="list-style-type: none"> ・主な調査方法 ・書籍で調べよう (歴史上の出来事を調べる, 時代や年代から調べる, 人物・地名を調べる, 郷土史を調べる) ・インターネットで調べよう (役に立つウェブページ, 利用上の注意) 3 考察 2 まとめと発表をしよう <ol style="list-style-type: none"> 4-①まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・主なまとめの方法 ・レポートにまとめよう (レポートの構成, まとめ方のポイント) ・歴史新聞にまとめよう (歴史新聞の作り方, まとめ方のポイント) 4-②発表 <ul style="list-style-type: none"> ・発表の流れ 5 ふり返り <p>地域の歴史を具体的なことから学ぶことができる手順と方法, 視点を示している。また, 学習の振り返りも手順に位置付けている。</p>
教出	<p>○ 記載の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第1章 歴史のとらえ方・調べ方」に「2節 身近な地域の歴史」を設け, 調べ学習における学習のポイントについて示している。 ・各大単元において, 「身近な地域の歴史を調べよう」というコーナーを設け, 身近な地域の調べ学習の例を示している。 <p>○ 調べる手順・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマを決めよう <ul style="list-style-type: none"> ・調査全体の見通しを立てよう ・小学校で学んだ人物や, 地域に関わりのある人物 ・地域の遺跡や文化財 ・地域の風景や地名 ・地域の行事や風習 ・地域の産物 ・歴史的なできごとや, 地域に伝わる昔話 2 情報を集めよう <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館を活用しよう (調査に役立つ図書, 図書の分類)

<p>教出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用しよう（インターネットの検索，利用するときの注意点） 3 具体的な調査の課題を決めよう ・意見を共有して，アイデアをまとめよう（意見を出し合って共有する，ブレインストーミング，意見を整理して，アイデアをまとめる） 4 野外調査・聞き取り調査を進めよう ・調査計画書を作ろう（調査テーマ，調査で確かめたいこと，調査方法） 5 整理して考察しよう 6 調査の結果をまとめよう ・レポートをまとめよう（序論，本論，結論，参考資料） 7 発表して，学習を振り返ろう <p>地域の歴史を具体的なことから学ぶことができる手順と方法，視点を示している。また，学習の振り返りも手順に位置付けている。</p>
<p>帝国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・「第1部 歴史のとらえ方と調べ方」に「第2節 歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」を設け，調べ学習における学習のポイントについて示している。 ○ 調べる手順・方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史の謎を探る～博物館に行ってみよう～ <ul style="list-style-type: none"> ・小学校などで学んだ地域の人物から ・身近な人の話や言い伝えから ・地域の気になる建物・風景から ・地域の遺跡・遺物から ・地域の行事・風習から ・情報の集め方（図書館，博物館・資料館，インターネット） 2 資料をよく見てヒントを探そう～ヒントを探してみよう～ <ul style="list-style-type: none"> ・並んでいる展示品からヒントを探してみよう ・学芸員さんに質問してみよう ・新たな発見をしにいこう ・地図の作り方・年表の作り方 ・野外・聞き取り調査のしかた 3 謎解きの答えをまとめよう～自分の考えを表現しよう～ <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを明確にしよう ・具体的に示す時に使うもの ・レポートのまとめ方，発表のしかた（疑問や謎，自分の推理，分かったこと，結論，発表のときに注意すること，内容面で注意すること） <p>地域の歴史を具体的なことから学ぶことができる手順と方法，視点を示している。</p>
<p>山川</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・「第1章 歴史との対話」に「2節 身近な地域を調べよう」を設け，調べ学習における，学習のポイントについて記述している。 ・各大単元において，「地域からのアプローチ」というコーナーを設け，身近な地域の調べ学習の例を示している。 ○ 調べる手順・方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマを設定しよう！ <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを見つけるには 2 さあ調査だ！ <ol style="list-style-type: none"> (1) 図書館を利用しよう <ul style="list-style-type: none"> ・図書館での文献調査

<p>山川</p>	<p>(2) 荒川ふるさと文化館に行ってみた ・博物館の展示品と展示図録</p> <p>(3) インターネットで昔の地図を見てみた ・ウェブページの信頼性 ・古い地図を入手するには</p> <p>(4) 聞き取り調査をしよう ・聞き取り調査の注意点</p> <p>(5) フィールドワークで道灌山周辺を実際に歩いてみた ・フィールドワークの注意点</p> <p>3 レポートをつくって発表しよう！</p> <p>(1) レポートにまとめよう ・レポートの書き方 ・参考文献 ・引用と盗用</p> <p>(2) 発表しよう ・分かりやすい伝え方 ・スライドのつくり方</p> <p>地域の歴史を具体的なことから学べる手順と方法、視点を示している。</p>
<p>日文</p>	<p>○ 記載の仕方 ・各大單元において、「でかけよう！地域調べ」というコーナーを設け、調べ学習における学習のポイントについて示している。</p> <p>○ 調べる手順・方法</p> <p>第2編・・・「史跡見学に行こう 平城宮跡を歩く」</p> <p>1 計画を立てて、事前の学習をする ・史跡見学のしかた(事前調査・現地調査・持ち物)</p> <p>2 実際に歩いてみる</p> <p>3 体験した感想をまとめ、意見を出し合う</p> <p>第3編・・・「歴史博物館に行こう 草戸千軒町遺跡を調べる」</p> <p>1 草戸千軒町遺跡について調べる</p> <p>2 歴史博物館で調べる ・博物館の見学のしかた(見学するにあたって・チェックリストを作成する)</p> <p>3 調べたことを深める</p> <p>4 調べたことをまとめる</p>
	<p>・歴史新聞づくりのポイント(基本設定・紙面づくり)</p> <p>第4編・・・「城下町を訪ねよう 城下町姫路を調べる」</p> <p>1 17世紀の姫路のようすを読み取る ・読み取りのポイント</p> <p>2 現在の地形図を見て、近世の城下町のなごりを探す</p> <p>第5編 第1章・・・「近代化遺産を訪ねよう 富岡製糸場を調べる」</p> <p>1 富岡製糸場の生い立ちを調べる</p> <p>2 富岡製糸場の役割について考える</p> <p>3 世界の文化遺産へ</p>

<p>日文</p>	<p>第5編 第2章・・・「戦争遺跡を訪ねよう 大阪の空襲を調べる」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 体験者の記録を読む 2 戦争遺跡を訪ねる <ul style="list-style-type: none"> ・戦争遺跡の見学のしかた（事前調査・現地調査） <p>第6編・・・「地域の環境の歴史を調べよう 公害克服の歴史を調べる」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 北九州市の発展と公害の発生 2 青空がほしい 3 公害をのりこえた経験を生かして <p>地域の歴史を具体的なことがらから学ぶことができる手順と方法，視点を示している。</p>
<p>育鵬社</p>	<p>○ 記載の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・序章及び第4章において、「地域の歴史を調べてみよう」というコーナーを設け，調べ学習における，学習のポイントについて示している。 <p>○ 調べる手順・方法</p> <p>地域の歴史を調べてみよう①・・・「大阪の歴史」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 助言をいただく 2 事前調査 3 調査テーマと調査のねらいの明確化 4 調査活動 <ul style="list-style-type: none"> ・学芸員など，話を聞きたい人への連絡のしかた ・調査活動を行う際に便利な道具 ・調査のまとめ方（調査レポートの書き方） 5 【発表のしかた】のコツ 6 歴史ワクワク調査隊・6つの心得（①史料は，古い時代を知るための「手がかり」，②人の暮らしの原点を見つめる，③変化に注目する，④視点や立場を変えて見てみる，⑤年表，比較表，ウェビングマップ，地図などを作る，⑥自分なりの歴史の見方を発表し，さらに考えを深める） <p>地域の歴史を具体的なことがらから学ぶことができる手順と方法，視点を示している。</p>
<p>学び舎</p>	<p>○ 記載の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歴史への案内」のコーナーにおいて，地域の博物館での調べ学習や現地調査における，学習のポイントを示している。 <p>○ 調べる手順・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 どこを歩き，何を見るのか，何を調べるのか，あらかじめチェックしておきましょう。 2 地域の方，博物館の学芸員，説明員に積極的に質問してみましょう。 3 わかったこと，さらに調べてみようと思ったことなど，メモしておきましょう。 4 写真も撮っておきましょう（ただし，写真は許可をえてから撮るようにしましょう）。 5 調べたことを，レポートや地図にまとめ，グループやクラスで発表しましょう。 <p>地域の歴史を具体的なことがらから学ぶことができる手順と方法，視点を示している。</p>

【社会（歴史的分野）】

観 点	内容の構成・配列・分量
視 点	⑥単元や資料等の配列・分量
方 法	○各時代区分のページ数

発行者	調査・研究内容
東書	総ページ数 304ページ 歴史との対話 12ページ, 古代 44ページ, 中世 36ページ, 近世 50ページ, 近代 102ページ, 現代 32ページ, その他 28ページ
教出	総ページ数 310ページ 歴史との対話 15ページ, 古代 42ページ, 中世 36ページ, 近世 50ページ, 近代 108ページ, 現代 36ページ, その他 23ページ
帝国	総ページ数 306ページ 歴史との対話 13ページ, 古代 44ページ, 中世 36ページ, 近世 54ページ, 近代 108ページ, 現代 30ページ, その他 21ページ
山川	総ページ数 294ページ 歴史との対話 9ページ, 古代 48ページ, 中世 40ページ, 近世 52ページ, 近代 100ページ, 現代 30ページ, その他 15ページ
日文	総ページ数 328ページ 歴史との対話 8ページ, 古代 50ページ, 中世 42ページ, 近世 52ページ, 近代 102ページ, 現代 38ページ, その他 36ページ
育鵬社	総ページ数 314ページ 歴史との対話 13ページ, 古代 50ページ, 中世 34ページ, 近世 52ページ, 近代 102ページ, 現代 33ページ, その他 30ページ
学び舎	総ページ数 306ページ 歴史との対話 6ページ, 古代 44ページ, 中世 32ページ, 近世 50ページ, 近代 110ページ, 現代 36ページ, その他 28ページ

【社会（歴史的分野）】

観 点	内容の構成・配列・分量
視 点	⑦主権者育成のための工夫
方 法	○古代, 近代, 現代における民主主義の来歴や人権思想の広がりの記事内容

発行者	調査・研究内容
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古代 <ul style="list-style-type: none"> ・「ギリシャ・ローマの文明」というタイトルで2ページにわたって記載し、「アクロポリスとパルテノン神殿」、「古代ローマの支配領域」等の資料を掲載している。 ○ 近代 <ul style="list-style-type: none"> ・「イギリスとアメリカの革命」、「フランス革命」というタイトルで4ページにわたって記載し、「ボストン茶会事件」、「人権宣言」等の資料を掲載している。 ○ 現代 <ul style="list-style-type: none"> ・「民主化と日本国憲法」というタイトルで2ページにわたって記載し、「日本国憲法前文」、「初めての女性国会議員」等の資料を掲載している。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古代 <ul style="list-style-type: none"> ・「すべての道はローマに通ず」というタイトルで2ページにわたって記載し、「古代ギリシャの勢力範囲」、「古代ローマの水道橋」等の資料を掲載している。 ○ 近代 <ul style="list-style-type: none"> ・「王は君臨すれども統治せず」、「代表なくして課税なし」というタイトルで4ページにわたって記載し、「権利の章典」、「人権宣言」等の資料を掲載している。 ○ 現代 <ul style="list-style-type: none"> ・「敗戦からの再出発」、「平和国家をみざして」というタイトルで4ページにわたって記載し、「女性の国会議員の誕生」、「日本の憲法の比較」等の資料を掲載している。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古代 <ul style="list-style-type: none"> ・「ギリシャとローマの政治と文明」というタイトルで2ページにわたって記載し、「ギリシャの民会の様子」、「ローマ帝国の貨幣」等の資料を掲載している。 ○ 近代 <ul style="list-style-type: none"> ・「市民革命の始まり」、「人権思想からフランス革命へ」というタイトルで4ページにわたって記載し、「アメリカ独立宣言の採択」、「人権宣言」等の資料を掲載している。 ○ 現代 <ul style="list-style-type: none"> ・「新時代に求められた憲法」というタイトルで2ページにわたって記載し、「『あたらしい憲法のはなし』」、「初めての女性国会議員」等の資料を掲載している。
山川	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古代 <ul style="list-style-type: none"> ・「地中海文明の発展」というタイトルで2ページにわたって記載し、「重装歩兵」、「ローマ帝国の拡大」等の資料を掲載している。 ○ 近代 <ul style="list-style-type: none"> ・「市民革命の時代」というタイトルで4ページにわたって記載し、「独立宣言」、「バステューユ襲撃」等の資料を掲載している。 ○ 現代 <ul style="list-style-type: none"> ・「占領下の日本」、「日本国憲法と民主化」というタイトルで4ページにわたって記載し、「衆議院の女性議員」、「日本国憲法」等の資料を掲載している。

<p>日文</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古代 <ul style="list-style-type: none"> ・「ギリシャ・ローマの文明」というタイトルで2ページにわたって記載し、「古代のギリシャとローマの動き」、「ローマ帝国の支配圏」等の資料を掲載している。 ○ 近代 <ul style="list-style-type: none"> ・「王政から議会制へ」、「アメリカの独立とフランス革命」というタイトルで4ページにわたって記載し、「権利の章典の内容」、「フランスの三つの身分と税の負担に関する風刺画」等の資料を掲載している。 ○ 現代 <ul style="list-style-type: none"> ・「占領と改革の始まり」、「平和で民主的な国家をめざして」というタイトルで4ページにわたって記載し、「戦後の主な改革」、「日本国憲法公布の祝賀会」等の資料を掲載している。
<p>育鵬社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古代 <ul style="list-style-type: none"> ・「ギリシャとローマの文明」というタイトルで2ページにわたって記載し、「アテネ民会議場の演壇」、「ローマ帝国の領域」等の資料を掲載している。 ○ 近代 <ul style="list-style-type: none"> ・「市民革命と近代社会の成立」というタイトルで2ページにわたって記載し、「アメリカ独立宣言」、「バスティーユ牢獄に攻め寄るパリ市民」等の資料を掲載している。 ○ 現代 <ul style="list-style-type: none"> ・「占領下の日本と日本国憲法」というタイトルで2ページにわたって記載し、「初めての女性国会議員」、「戦後の諸改革」等の資料を掲載している。
<p>学び舎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古代 <ul style="list-style-type: none"> ・「円形競技場の熱狂」というタイトルで2ページにわたって記載し、「紀元前5世紀ごろのギリシアとペルシア」、「ローマ帝国の広がり」等の資料を掲載している。 ○ 近代 <ul style="list-style-type: none"> ・「アメリカの大地に生きる」、「バスチーユを攻撃せよ」というタイトルで4ページにわたって記載し、「ボストン港でのイギリスへの抗議行動」、「ベルサイユ宮殿へ向かう民衆」等の資料を掲載している。 ○ 現代 <ul style="list-style-type: none"> ・「焼け跡からの出発」、「もう戦争はしない」というタイトルで4ページにわたって記載し、「街頭演説をする山口シヅエ」、「『あたらしい憲法のはなし』」等の資料を掲載している。

【社会（歴史的分野）】

観 点	内容の表現・表記
視 点	⑧学習内容との適切な関連付けがなされた絵図・写真等の活用
方 法	○資料の種類及び掲載数、掲載の仕方

発行者	調査・研究内容
東書	<p>【近代の日本】</p> <p>○ 掲載数は、写真 137、絵図 78、地図 34、図表・グラフ 37、文章資料 58、年表 5、人物 64。</p> <p>○ 本文中の四角囲みの数字と関連付けて掲載している。関連付けた絵図・写真等の総数は 393 である。巻頭の「日本の国宝・重要文化財」や巻末の「歴史の中の植物」と写真資料を関連付けて扱っている。</p>
教出	<p>【近代の日本】</p> <p>○ 掲載数は、写真 121、絵図 87、地図 32、図表・グラフ 40、文章資料 35、年表 4、人物 64。</p> <p>○ 本文中の四角囲みの数字と関連付けて掲載している。関連付けた絵図・写真等の総数は 307 である。</p>
帝国	<p>【近代の日本】</p> <p>○ 掲載数は、写真 123、絵図 82、地図 40、図表・グラフ 50、文章資料 86、年表 6、人物 80。</p> <p>○ 写真、絵図、地図、図表・グラフは本文中の四角囲みの数字と関連付けて掲載しており、人物、文書資料は、本文中に「人物」、「史料」と記入している。関連付けた絵図・写真等の総数は 298 である。</p>
山川	<p>【近代の日本】</p> <p>○ 掲載数は、写真 131、絵図 68、地図 34、図表・グラフ 47、文章資料 29、年表 3、人物 55。</p> <p>○ 本文中の四角囲みの数字と関連付けて掲載している。文書資料は、本文に「コラム」と記入している。関連付けた絵図・写真等の総数は 294 である。</p>
日文	<p>【近代の日本】</p> <p>○ 掲載数は、写真 100、絵図 71、地図 40、図表・グラフ 49、文章資料 40、年表 38、人物 60。</p> <p>○ 本文中の四角囲みの数字と関連付けて掲載している。関連付けた絵図・写真等の総数は 308 である。特徴的な資料に対して「資料活用」の視点を示している。また、見開きごとに主なできごとを記した年表がある。</p>
育鵬社	<p>【近代の日本】</p> <p>○ 掲載数は、写真 88、絵図 67、地図 36、図表・グラフ 39、文章資料 29、年表 8、人物 84。</p> <p>○ 本文中の四角囲みの数字と関連付けて掲載している。関連付けた絵図・写真等の総数は 276 である。</p>
学び舎	<p>【近代の日本】</p> <p>○ 掲載数は、写真 137、絵図 90、地図 35、図表・グラフ 22、文章資料 33、年表 4、人物 49。</p>

【社会（歴史的分野）】

観 点	内容の表現・表記
視 点	⑨掲載されている情報を精選し、視点を明確にする工夫
方 法	○ユニバーサルデザインに関する配慮がなされたフォント、グラフ、レイアウト等

発行者	調査・研究内容
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ フォント、グラフ <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインフォントを使用し、ふり仮名の文字濃度を薄くしている。 ・円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りして区切っている。 ・複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 ○ レイアウト等 <ul style="list-style-type: none"> ・本文ページ見開きのレイアウトを統一し、本文の部分と側注等の資料の部分の色分けしている。 ・ページ隅の色分けで、学習内容を示している。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ フォント、グラフ <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ・円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りして区切っている。 ・複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変え、実線で示している。 ○ レイアウト等 <ul style="list-style-type: none"> ・本文ページ見開きのレイアウトを統一している。 ・ページの隅の色分けと下部への記載で、学習内容を示している。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ フォント、グラフ <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ・帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りして区切っている。 ・複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 ・グラフの周囲を周りと違う色にしている。 ○ レイアウト等 <ul style="list-style-type: none"> ・本文ページのレイアウトを統一している。 ・ページ隅の色分けと、見開き右側の年表で、学習内容を示している。
山川	<ul style="list-style-type: none"> ○ フォント、グラフ <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ・円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れている。 ・複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 ○ レイアウト等 <ul style="list-style-type: none"> ・本文ページのレイアウトを統一している。 ・ページの隅の色分けと下部への記載で、学習内容を示している。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ○ フォント、グラフ <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ・円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りして区切っている。

<p>日文</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変え、実線と点線で示している。 ○ レイアウト等 ・本文ページのレイアウトを統一している。 ・ページ隅の色分け、見開き右側の年表と下部の記載で、学習内容を示している。
<p>育鵬社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ フォント, グラフ ・ふりがなにゴシック体を用いて、小さな文字が読みやすいようにしている。 ・円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは区切りを入れている。 ・複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 ○ レイアウト等 ・本文ページ見開きのレイアウトを統一している。 ・ページの隅の色分けと下部への記載で、学習内容を示している。
<p>学び舎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ フォント, グラフ ・円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れている。 ・複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 ○ レイアウト等 ・本文ページは、見開き2ページで学習内容をまとめている。 ・ページ端の色分けで、学習内容を示している。

【社会（歴史的分野）】

観 点	言語活動の充実
視 点	⑩目的に応じて適切に表現する力を育てるための工夫
方 法	○単元末における「時代の特色」をまとめる学習の具体例

発行者	調査・研究内容
東書	<p>【単元末における「時代の特色」をまとめる学習】</p> <p>「基礎・基本のまとめ」と「まとめの活動」として、段階的に設定している。</p> <p>「基礎・基本のまとめ」では、「探究のステップ」として問いを示し、章の導入で設定した探究課題に対して、自分の考えをまとめるようになっていく。また、「まとめの活動」では、思考ツールを活用した学習活動を例示し、「時代の特色」について、自分の考えをまとめる学習へつなげている。</p> <p>【具体例】</p> <p>第3章 中世の日本</p> <p>○ 中世の導入に設定した「中世では、どのような勢力の成長や対立が起こったのでしょうか。」という探究課題に対して、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究課題解決の前に、探究のステップとして2題の「探究のステップ」という問いを用意している。 <ol style="list-style-type: none"> ①「なぜ武士は政権を立て、社会を動かすほどの力を持つようになったのでしょうか。」 ②「東アジアでの交流が進み、産業や文化が発達する中で、日本ではなぜ多くの戦乱が起こったのでしょうか。」 ○ 「中世とはどのような特色を持つ時代だったのでしょうか。」という問いに対して、「政治」「国際関係」「社会・経済」「文化」の四つの側面から、自分の考えを文章にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・文章にまとめる前に、思考ツールに考えをまとめるように促している。 ・意見交換や、自分の考えの修正の方法を示している。 <p>第4章 近世の日本</p> <p>○ 近世の導入に設定した「近世では、どのようにして社会が安定したのでしょうか。」という探究課題に対して、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究課題解決の前に、探究のステップとして3題の「探究のステップ」という問いを用意している。 <ol style="list-style-type: none"> ①「ヨーロッパ人との出会いを経て、なぜ戦乱の世が終わりをむかえたのでしょうか。」 ②「なぜ江戸幕府の支配は約260年も続いたのでしょうか。」 ③「産業や文化が発達し、都市が繁栄する中で、なぜ幕府は改革をせまられたのでしょうか。」 ○ 「近世はどのような特色を持つ時代だったのでしょうか。」という問いに対して、武士・百姓・町人の三つの身分のうち、この時代を動かしたのはどれかを考えることを通じて、自分の考えを文章にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・文章にまとめる前に、表や思考ツールに考えをまとめるように促している。 ・意見交換や、自分の考えの修正の方法を示している。

<p>教出</p>	<p>【単元末における「時代の特色」をまとめる学習】 「学習のまとめと表現」では、5つないし6つの学習活動を設定した後、「時代の特色」について、自分の考えをまとめる学習になっている。</p> <p>【具体例】 第3章 中世の日本と世界 ○ 「中世がどのような時代だったかを表現し、その理由を説明しよう。」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。 ・学習の手がかりとして、6つの活動を設定している。 ①本文や年表を参考にして、図の空欄にあてはまる語句を書き出す。 ②語群の人物と関わりの深いことがらを、図から探して結びつける。 ③9個の場所を地図中に記入する。 ④図を使って、鎌倉幕府の政治のしくみについて説明する。 ⑤写真やイラストを使って、室町時代に大成された能（能楽）の特徴やその背景を説明する。 ⑥古代と中世を比較した表を、「政治」「外国との関係」「文化」の視点でまとめる。</p> <p>第4章 近世の日本と世界 ○ 「近世がどのような時代だったかを表現し、その理由を説明しよう。」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。 ・学習の手がかりとして、6つの活動を設定している。 ①本文や年表を参考にして、図の空欄にあてはまる語句を書き出す。 ②語群の人物と関わりの深いことがらを、図から探して結びつける。 ③10個の場所を地図中に記入する。 ④図を使って、江戸幕府の政治のしくみについて説明する。 ⑤表を使って、江戸時代にさかんになった学問（儒学（朱子学）・国学）についてまとめて、比較する。 ⑥江戸時代の様子を描いた絵を、前の時代の様子と比較して説明する。</p>
<p>帝国</p>	<p>【単元末における「時代の特色」をまとめる学習】 「章の学習を振り返ろう」では、段階的に2つの学習活動を設定し、「時代の特色」について、自分の考えをまとめる学習へつなげている。</p> <p>【具体例】 第2章 武家政権の成長と東アジア ○ 「この時代はどのような時代だったかを、自分の言葉で説明してみよう。」という問いに対して、自分が重視した歴史的な見方・考え方を明らかにして文章にまとめる。 ・時代の特色をまとめる前に、2つの学習活動を設定している。 ①身分や職業について、「タテとヨコの関係図を作ってみよう。」という問いに対して、図で自分の考えをまとめる。 ⇒身分や職業を「武士」と「庶民」に分ける。 ⇒「武士」のまとまりは、「鎌倉時代」「室町時代」「戦国時代」の3つの時期に分けて、まとめる。 ②「章の問いの答えを理由とともに説明しよう」という学習活動に対して、自分の考えをまとめる。</p>

<p>帝国</p>	<p>⇒自分の考えをまとめる前に、「なぜ、『武士』と『庶民』はそれぞれの結び付きを強めていったのか」等の問いに対して、話し合いをする。</p> <p>第3章 武家政権の展開と世界の動き</p> <p>○ 「この時代はどのような時代だったかを、自分の言葉で説明してみよう。」という問いに対して、自分が重視した歴史的な見方・考え方を明らかにして文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代の特色をまとめる前に、2つの学習活動を設定している。 ①「全国を統一するために行った政策で共通する点に着目して、安定した政権が成立するために必要なことを三つ考えてみよう。」という問いに対して、カードに自分の考えをまとめる。 ⇒カードには、働かせた見方・考え方、理由、根拠（考えのもととなる資料）を記入する。 ②「章の問いの答えを理由とともに説明しよう」という学習活動に対して、自分の考えをまとめる。 ⇒自分の考えをまとめる前に、グループになり、書いたカードを出し合い、同じ理由や近い感じのする理由のカードごとにまとまりにしていく。 ⇒まとめたカードごとに、まとめた理由が簡潔に分かるタイトルをつけ、最も適切と考えられるまとまりはどれか話し合いをする。
<p>山川</p>	<p>【単元末における「時代の特色」をまとめる学習】</p> <p>「まとめ」では、その章に関係する複数の問いを用意している。</p> <p>【具体例】</p> <p>第3章 中世の日本</p> <p>○ 4つの立場（人）を示し、それぞれの立場で問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「武士」「農民」「守護」「荘園領主」の4つの立場を設定している。 ・自分の考えを、「鎌倉時代」から「戦国時代」の4つの時代区分のそれぞれでまとめる。 <p>○ 「海外から受けた影響」「宗教の果たした役割」に対して、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両方とも3つの区分に分かれており、それぞれに自分の考えを文章にまとめる。 ・「宗教の果たした役割」については、ほかの事例もふまえ、中世社会において宗教が大きな影響力を持った理由を考える。 <p>第4章 近世の日本</p> <p>○ 「世界はどのようにして一体化へと向かっていったのだろうか」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界地図に、5つの事項を記入して、15～16世紀の世界についてまとめる。 ・16世紀の世界における交易品について、生産地・交易品の流れ・利用のされ方を表にまとめる。 <p>○ 「近世の政治と社会は、どのような仕組みを持っていたらろう」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検地と刀狩によって、兵農分離がどのように進められたかをまとめる。 ・図を見て、4つの近世の支配の仕組みを説明する。 <p>○ 「近世の日本は、世界とどのようにつながっていたらろう」という問いに対して、</p>

山川	<p>自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教に関して、「日本に伝来した背景」「広まりを示す文化」「織田信長・豊臣秀吉の態度」の視点から、表にまとめる。 ・四つの窓口での世界との交流について、「交流の相手国（民族）」「窓口の支配者」「江戸に派遣された使節」「幕府による統制手段」の視点から、表にまとめる。 <p>○ 「近世の日本において、経済や社会はどのように変化したのだろうか」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの商品の生産と流通について、「主な生産地」「生産や加工の発展」「利用のされ方」の視点から、表にまとめる。 ・江戸時代に庶民も旅行に出かけられるようになった理由をいくつかの視点から説明する。 <p>○ 「社会や経済の変化に対して、幕府はどのように対応したのだろうか」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府が行った改革や政策の内容について、「政治担当者」「村や百姓に対する政策」「町や町人に対する政策」「武士に対する政策」「諸外国に対する政策」の視点から、比較・整理して表にまとめる。
日文	<p>【単元末における「時代の特色」をまとめる学習】</p> <p>「学習の整理と活用」では、段階的に2つの学習活動を設定し、「時代の特色」について、自分の考えをまとめる学習へつなげている。</p> <p>【具体例】</p> <p>第3編 中世の日本と世界</p> <p>○ 「中世に定められた主な『法』に着目し、古代と比較しながら、中世の特色を考えていきましょう。」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを文章にまとめるために、3つのステップで学習を進める。 <ol style="list-style-type: none"> ①「古代と中世の主な法にどのような特色があるのでしょうか。」という問いに対して、教科書の表の空欄に記入する。 ②「なぜ、これらの法はつくられたのでしょうか。」という問いに対して、教科書の表の空欄に記入する。 ③中世の特色を、文章にまとめる。 <p>第4編 近世の日本と世界</p> <p>○ 「『幕府の収入』に着目しながら、近世の特色を考えていきましょう。」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを文章にまとめるために、3つのステップで学習を進める。 <ol style="list-style-type: none"> ①「江戸幕府の収入にどのような特色があるのでしょうか。」という問いに対して、2つの資料から、幕府の収入の柱や、幕府に納められる年貢量の傾向などを読み取る。 ②「幕府はどのような改革を試みたのでしょうか。」という問いに対して、教科書の表の空欄に記入する。 ③近世の特色を、文章にまとめる。
育鵬社	<p>【単元末における「時代の特色」をまとめる学習】</p> <p>「学習のまとめ」では、5つないし6つの学習活動を設定した後、「時代の特色」について、自分の考えをまとめる学習になっている。</p>

育鵬社	<p>【具体例】</p> <p>第2章 中世の日本</p> <p>○ 「この時代はどのような時代だったといえるのか」といった問いに対して、自分の考えを文章にまとめ、クラスで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の手がかりとして、5つの活動を設定している。 <ol style="list-style-type: none"> ①年表の空欄に当てはまる言葉を選ぶ。 ②戦いについての整理をする。 ③この時代で最も重要だと思う人物を選び、理由をまとめる。 ④歴史的事象に当てはまる場所を地図上から選ぶ。 ⑤暮らしや社会の様子について、資料や前の時代の様子を参考にして説明する。 <p>第3章 近世の日本</p> <p>○ 「この時代はどのような時代だったといえるのか」といった問いに対して、自分の考えを文章にまとめ、クラスで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の手がかりとして、5つの活動を設定している。 <ol style="list-style-type: none"> ①年表の空欄に当てはまる言葉を選ぶ。 ②江戸時代の陸上交通について考える。 ③この時代で最も重要だと思う人物を選び、理由をまとめる。 ④歴史的事象に当てはまる場所を地図上から選ぶ。 ⑤江戸時代の社会について、資料や幕府の政治の内容をふまえて説明する。
学び舎	<p>【単元末における「時代の特色」をまとめる学習】</p> <p>「学習のまとめ」では、3つの学習活動を設定した後、「時代の特色」について、自分の考えをまとめる学習になっている。</p> <p>【具体例】</p> <p>第2部 中世</p> <p>○ 「中世は、どのような人びとが力をもった時代だったでしょうか。前の時代と比べながら、自分の考えを文章にまとめましょう。」と、視点を示した問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の手がかりとして、3つの活動を設定している。 <ol style="list-style-type: none"> ①年表に関する問いの答え（都市名・国名）を、まとめの表に記入する。また、地図から都市や国の位置を記号で選び、まとめの表に入れる。 ②4つの課題を文章にまとめ、グループやクラスで発表する。 ③印象に残った歴史絵画を3つの点に着目して解説・推理し、グループやクラスで発表する。 <p>第3部 近世</p> <p>○ 「近世・江戸時代はどんな時代だったか考えましょう。前の時代と比べたりしながら、まとめましょう。」と、視点を示した問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の手がかりとして、3つの活動を設定している。 <ol style="list-style-type: none"> ①国内では「幕府と藩が全国を治める」、国外とは「四つの口を設けて交渉・交易する」という政策・方針について、前の時代とくらべて、大きなちがいだと思う点を上げて、ちがいを説明する。 ②文化（桃山文化・元禄文化・化政文化）に関する3つの問いについて、まとめる。 ③9人の人物にインタビューをして、記事を書く。

令和2年 7月28日

呉市教科用図書選定委員会委員長 様

呉市教科用図書調査・研究委員会

種目 社会(公民的分野)

代表者 呉市立片山 中学校

氏名 西原 有紀

呉市教科用図書調査・研究報告書について (報告)

このことについては、別添のとおりです。

【社会（公民的分野）】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	①学習課題の示し方
方 法	○1時間ごとの学習課題の記載の仕方と記載例

発行者	調査・研究内容
東書	<p>【1時間ごとの学習課題の記載の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見開きごとに、タイトルを「社会保障の仕組み」「少子高齢化と財政」等の項目で示している。 ○ タイトルの右横に、学習課題として「どのような」等の問いかけの形態で1時間の学習の見通しを示している。 ○ 見開き右のページの下段に、「チェック」と「トライ」を設定し、学習課題に対応した2段階の学習活動を示している。 <p>【記載例】</p> <p>「わが国の社会保障制度はどのような仕組みになっているのでしょうか。」(P.166)</p> <p>「少子高齢化は、わが国の財政にどのような影響をおよぼしているのでしょうか。」(P.168)</p>
教出	<p>【1時間ごとの学習課題の記載の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見開きごとに、タイトルを「身のまわりの社会保障制度」「互いに助け合う社会」等の項目で示している。 ○ タイトルの横に、サブタイトルを「私たちの生活と社会保障制度」「社会保障制度のしくみと役割」等と示している。 ○ タイトルの下に、学習課題として「なぜ」「どのような」等の問いかけの形態で1時間の学習の見通しを示している。 ○ 見開き右のページの下段に、「確認」と「表現」を設定し、学習課題に対応した2段階の学習活動を示している。 <p>【記載例】</p> <p>「社会の中でお互いに助け合うしくみは、なぜ必要なのでしょうか。」(P.170)</p> <p>「助け合いのしくみである社会保障制度とは、どのような制度でしょうか。」(P.172)</p>
帝国	<p>【1時間ごとの学習課題の記載の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見開きごとに、タイトルを「社会保障と私たちの生活」「これからの日本の財政」等の項目で示している。 ○ タイトルの右横に、学習課題として「どのような」「どうあるべきなのだろうか」等の問いかけの形態で1時間の学習の見通しを示している。 ○ 見開き右のページの下段に、「確認しよう」と「説明しよう」を設定し、学習課題に対応した2段階の学習活動を示している。 <p>【記載例】</p> <p>「日本の社会保障制度には、どのような課題があるのだろうか。」(P.165)</p> <p>「少子高齢化が進むなかで、これからの日本の財政はどうあるべきなのだろうか。」(P.167)</p>
日文	<p>【1時間ごとの学習課題の記載の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見開きごとに、タイトルを「社会保障のしくみ」「少子高齢社会における福祉の充実と財源」等の項目で示している。

<p>日文</p>	<p>○ タイトルの左横に、学習課題として「どのような」「何が必要でしょうか」等の問いかけの形態で1時間の学習の見通しを示している。</p> <p>【記載例】</p> <p>「人間らしい生活を保つために、どのようなしくみがあり、何によって支えられているのでしょうか。」(P.164)</p> <p>「少子高齢化社会において、社会保障制度を維持・改善させるためには何が必要でしょうか。」(P.166)</p>
<p>自由社</p>	<p>【1時間ごとの学習課題の記載の仕方】</p> <p>○ 見開きごとに、タイトルを「社会保障制度の充実」「社会資本の充実」等の項目で示している。</p> <p>○ タイトルの下に、学習課題として「～を学ぼう」「～を考えよう」等の問いかけの形態で1時間の学習の見通しを示している。</p> <p>【記載例】</p> <p>「社会保障制度は国民が安心して暮らすための制度であり、国民の努力によってできたことを学ぼう。」(P.152)</p> <p>「社会資本とは何だろうか、幸せな経済生活のために欠かせないものであることを考えよう。」(P.156)</p>
<p>育鵬社</p>	<p>【1時間ごとの学習課題の記載の仕方】</p> <p>○ 見開きごとに、タイトルを「社会保障のしくみ」「社会保障制度と財政」等の項目で示している。</p> <p>○ タイトルの右横に、学習課題として「どのように」「どのような」等の問いかけの形態で1時間の学習の見通しを示している。</p> <p>【記載例】</p> <p>「私たちの生活の安心を確保するための社会保障制度は、どのようになっているのでしょうか。」(P.156)</p> <p>「社会保障制度を維持するために、どのような財政上の課題があるのでしょうか。」(P.158)</p>

【社会（公民的分野）】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	②公民としての基礎的教養を培うための工夫
方 法	○現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるための具体例

発行者	調査・研究内容
東書	<p>「第1章3節 現代社会の見方や考え方」(P24～P31)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「2年前の学校でのトラブルについて考えよう」「1年前の学校でのトラブルについて考えよう」「現在の学校でのトラブルについて考えよう」という部活動の体育館の割り振りを例にして、課題を提示し、「問題の状況」「解決のための話し合い」「決まりの作成」「決まりの見直し」「見直した決まりの評価」を絵図で提示している。 ○ 対立の例として「国会での審議の様子」、合意の例として「協力関係を結ぶことに合意する日本とアメリカの自動車メーカーの代表」を写真で提示している。 ○ 「物事の決定・採決の方法」「対立と合意、効率と公正」を表やフローチャートで提示している。 ○ 「契約書の例（物の貸し借りの場合）」「Win-Win」「いちごを効率的に配分するには」を絵図や文章で提示している。 <p>「対立と合意」と「効率と公正」の理解を促すためのページがあり、資料での説明もある。また、系統性がある3つの課題提示をしている。</p>
教出	<p>「第1章3節 私たちがつくるこれからの社会」(P26～P33)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ルールについて考えよう」では、合唱コンクールの練習を例にして、絵図で課題を提示している。 ○ 「ルールをつくってみよう」では、ごみ収集所の新たな設置を例にして、絵図で課題を提示している。また、「考えたルールを評価しよう」では、「評価カード」を提示している。 ○ 「ある家族のスマートフォンの使用をめぐるルール」「社会集団の広がりと主なルール」「話し合いと決定の主な方法」「効率と公正をふまえた対立から合意へのプロセス」「ルールが変更された例」等を、写真や絵図で提示している。 ○ 「公民の窓」では、合意に関連して「受け継がれる京都の景観」を、公平に関連して「じゃんけんは公平か」を、写真や文章で提示している。 <p>「対立と合意」と「効率と公正」の理解を促すためのページがあり、資料での説明もある。</p>
帝国	<p>「第1部第2章 現代社会をとらえる枠組み」(P17～P24)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「防災備蓄倉庫の新設を考えてみよう」という課題を提示し、「①状況を確認する」「②設置場所を話し合う」を絵図で示している。 ○ 「ごみ置き場の掃除規則は変えられる？」という課題を絵図で示している。 ○ 「マンションの騒音問題を解決しよう」という課題を提示し、「1 ロールプレイングで住民の事情と主張を確認しよう」「2 ロールプレイングで解決策を話し合ってみよう」「3 話し合いを評価してみよう」「4 効率、公正の見方・考え方をを用いて解決策を検討してみよう」を絵図等で示している。 ○ 「家事分担での『win-winの関係』の例」「本書で掲載している『意見が対立するテーマ』の例」「対立からよりよい合意へ」「契約書の例」等を絵図や表で示してい

<p>帝国</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「合意を検討する観点の例」の「資料活用」として、「家族4人でいちごが5つのケーキを分けるとき、どのように分ければよいか、効率、公正を踏まえて考えてみよう。」という課題を提示している。 ○ 「決定を行う方法の例」の「資料活用」として、「ごみ置き場の掃除規則の事例では、どの方法がよいか考えてみよう。」という課題を提示している。 <p>「対立と合意」と「効率と公正」の理解を促すためのページがあり、資料での説明もある。</p>
<p>日文</p>	<p>「第1編 3 現代社会の見方・考え方」(P24～P31)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「合唱コンクールの練習スケジュールについて考えてみよう」という課題を絵図や表で提示している。 ○ 「アクティビティ」では、「合意する方法について考えよう」「効率と公正の考え方」「きまりの変更について評価してみよう」等を、絵図等で示している。 ○ 「さまざまな対立の例」「国会での話し合いと多数決」「効率のよくないケーキの分配」「対立と合意、効率と公正の関係」「公正さがみとされていない例」「きまり(ルール)が変更された例」「ウェブサービスの利用規約」等を、写真や表、絵図で提示している。 <p>「対立と合意」と「効率と公正」の理解を促すためのページがあり、資料での説明もある。</p>
<p>自由社</p>	<p>「第1章第3節 社会の中の決まり」(P34～P41)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動の体育館使用の割り当てを例に、「対立」「合意形成と目的に関する考察」「合意形成後の対立」「決まりをつくる」を文章や表で示している。 ○ 「やってみよう」では、「自分たちの学校で、体育館使用問題以外に決まりを決めた方が良い問題があるか、話し合ってみよう。もしあれば、体育館使用問題にならなくて、いろいろ話し合ったり、行動したりしてみよう。」という課題を文章で提示している。 ○ 「アクティブに深めよう」では、「魅力ある『まちづくり』を考えよう」で、文章や図で課題を提示している。 <p>「対立と合意」と「効率と公正」の理解を促すためのページがあり、1つの課題を順序立てて示している。</p>
<p>育鵬社</p>	<p>「第1章第3節 現代社会をとらえる見方や考え方」(P26～P33)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「やってみよう」では、「昼休みのグラウンド使用について考えよう」という課題を、絵図を用いて提示している。 ○ 「対立・効率・公正・合意の考え方」「国会での話し合いの様子(2019年)」「環太平洋パートナーシップ(TPP)協定(2018年12月)」「サッカーで反則をした選手にレッドカードを掲げる審判(埼玉県さいたま市)」「車いすマークが描かれた障害者用の駐車スペース」「ごみ収集所に掲示されている英語、中国語、韓国語で書かれたごみの出し方の注意書き(東京都足立区)」「学校の規則が書かれている生徒手帳」「コンビニエンスストアのレジ前の表示」「東日本大震災発生の翌日、ポリタンクなどを手に給水の列に並ぶ大勢の人たち(福島県郡山市, 2011年)」「契約書の例」等を写真や絵図で示している。

育鵬社	<p>○ 「学習を深めよう」では、「権利と権利の対立と合意」について文章と新聞記事で示している。</p> <p>「対立と合意」と「効率と公正」の理解を促すためのページがあり、資料での説明もある。</p>
-----	---

【社会 (公民的分野)】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	③国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫
方 法	○国旗・国歌に関する記載の仕方, 領土をめぐる問題等に関する記載の仕方

発行者	調査・研究内容
東書	<p>○ 関連ページ 182から185ページまで国家主権や領土に関する記述がある。183ページと184ページに「日本の領域と排他的経済水域」の地図を掲載し、竹島、北方領土、尖閣諸島の位置も明記している。 また、「日本の外交政策」の見出しで、北朝鮮の日本人拉致問題について扱い、「北朝鮮から帰国した拉致被害者」の写真を掲載している。</p> <p>○ 国旗・国歌に対する記載の仕方 「主権国家には、その国を象徴する国旗や国歌があり、歴史や文化が反映されています。日本は、1999（平成11）年に国旗国歌法を制定し、日章旗を国旗、『君が代』を国歌と決めました。国どうしが尊重し合うために、各国の国旗・国歌を大切にしなければなりません。」 ・「独立を喜ぶ南スーダンの人々」の写真 ・「国際連合本部の前に並ぶ加盟国の国旗」の写真</p> <p>○ 領土をめぐる問題等に関する記載の仕方 見開き（2ページ）で、竹島、北方領土、尖閣諸島に関して、コラムのように記述している。</p>
教出	<p>○ 関連ページ 194から199ページまで国家主権や領土に関する記述がある。196ページには北方領土の拡大図、197ページには「日本の国土とその周辺」と題した地図を掲載しており、竹島、北方領土、尖閣諸島の位置も明記している。 また本文中に扱いはないが、「帰国を果たした拉致被害者」の写真を掲載している。</p> <p>○ 国旗・国歌に対する記載の仕方 「世界のどの国にも、国旗と国歌があります。国旗や国歌はその国を表す象徴（シンボル）で、国家と国民はそれらに対しお互いに敬意を払って尊重し合うことが、今日の国際的な儀礼になっています。日本では長年、『日章旗（日の丸）』を国旗、『君が代』を国歌とするのがならわしでしたが、1999年にそのことが法律で定められました。植民地などがついに独立を果たして主権国家となり、独自の国旗を掲げることは、自らのことは自分で決定するという民族自決への思いや誇りを表現することにもなります。国旗や国歌には、それぞれの国の歴史や国民の思いがこめられています。」 ・「南アフリカ共和国の国旗の変化」の絵図 ・「オリンピックの表彰式で掲げられる国旗」の写真 ・「国歌を斉唱するサッカー日本女子代表チーム」の写真 ・コラム「国旗と国歌の歴史」で、咸臨丸の絵図とともに、日本の国旗と国歌について紹介している。</p> <p>○ 領土をめぐる問題等に関する記載の仕方</p>

<p>教出</p>	<p>「領土をめぐる問題」の見出しで、北方領土、竹島、尖閣諸島に関する記述がある。また、竹島・尖閣諸島の画像と説明を掲載している。</p> <p>見開き（2ページ）の「日本の外交の今とこれから」の「日本と近隣諸国との外交関係」の中で、中国・ロシアとの領土について触れている。また、北朝鮮との関係で、拉致問題に関する記述がある。</p>
<p>帝国</p>	<p>○ 関連ページ</p> <p>173ページから176ページまで国家主権や領土に関する記述がある。176ページに「日本の排他的経済水域」の地図を掲載しており、竹島、尖閣諸島の位置を明記している。これには北方領土の位置を示していないが、別枠で「北方領土の歩み」と題した拡大地図と歴史的な流れの記述がある。</p> <p>また本文中に記述はないが、国家主権との関連で、拉致問題について脚注に「拉致被害者の帰国」の写真と説明がある。</p> <p>○ 国旗・国歌に対する記載の仕方</p> <p>「国旗と国歌は、それぞれの国のシンボルです。世界の国々が自分たちの国の歴史を背景に国旗や国歌を定めています。日本では、1999年の国旗・国歌法によって、日章旗（日の丸）が国旗で、君が代が国歌であると定められています。オリンピックなどの国際大会でも、各国の国旗が掲げられ、国歌が演奏されています。国際社会では、国旗や国歌を相互に尊重することは大切で、現代社会の重要な儀礼となっています。」</p> <p>・「ピョンチャンオリンピックで優勝し、『日の丸』を掲げて喜ぶチームパシュートの選手たち」の写真</p> <p>○ 領土をめぐる問題等に関する記載の仕方</p> <p>「領土を巡る問題と国家主権」の見出しで、「二つ以上の国家が同じ領域の支配を主張し、戦争に至る歴史を世界は繰り返してきました。」と、世界的な領土問題の存在について触れている。</p> <p>「領土を巡る取り組み」の見出しで、見開き（2ページ）中に北方領土、竹島、尖閣諸島に関する記述がある。</p> <p>・「尖閣諸島を巡って」のコラムに「海上保安庁の船に挟まれた中国船」の写真と説明</p> <p>・「尖閣諸島のかつおぶし工場」の写真</p>
<p>日文</p>	<p>○ 関連ページ</p> <p>180から185ページまで国家主権や領土に関する記述がある。182ページに「日本の領域と排他的経済水域」の地図を掲載しており、竹島、尖閣諸島の位置を明記している。これには北方領土の位置を示していないが、別枠で「北方領土周辺」と題した拡大地図と、領土について日本とロシアの主張を記述している。</p> <p>また北朝鮮については本文で扱っており、「北朝鮮の日本人拉致被害者の帰国」の写真を掲載している。</p> <p>○ 国旗・国歌に対する記載の仕方</p> <p>「また、国旗・国歌を国のシンボルとして相互に尊重し合うことが、国際的な儀礼です。日本では、法律で『日章旗』を国旗、『君が代』を国歌としています。」</p> <p>・「平昌オリンピックで入賞し、自国の国旗をかかげる選手」の写真</p> <p>・「試合前に国歌を斉唱するサッカー日本代表の選手」の写真</p>

<p>日文</p>	<p>○ 領土をめぐる問題等に関する記載の仕方 「日本の領土をめぐる問題」の見出しで、北方領土、竹島に関する記述がある。尖閣諸島は「日本の領土をめぐる情勢」の見出しで記述がある。 見開き（2ページ）で北方領土、竹島、尖閣諸島に加えて、「世界の領土問題とその解決」と題したコラム風の記述がある。</p>
<p>自由社</p>	<p>○ 関連ページ 166から171、174から175ページに国家主権や領土に関する記述がある。167ページに「わが国の領域」の地図を掲載しており、排他的経済水域、竹島、尖閣諸島、北方領土の位置を明記している。 また、見開き（2ページ）を使って北朝鮮による日本人拉致問題について「北朝鮮は、なぜ日本人を拉致したのであろうか。この重大な人権侵害と国家主権侵害を、日本はなぜ防げなかったのであろうか。」と課題を挙げて詳細に記述している。</p> <p>○ 国旗・国歌に対する記載の仕方 「主権国家の独立と尊厳を表し、国家の掲げる理想や、国民が共有する誇りや連帯心を象徴するものとして国旗と国歌があります。国旗と国歌に対する敬愛は、国を愛する心情につながっています。また、国際社会では、他国の国旗と国歌に対して、自国のそれと同等に敬意を表するのが基本的礼儀となっています。オリンピックやワールドカップでも、各国の国旗が掲揚され、国歌が演奏されています。」 ・「リオデジャネイロオリンピック開会式」の写真 ・見開き（2ページ）のコラム「国旗と国歌を考えてみよう」で、「国旗・国歌に対する日米の高校生の差」や「日章旗」や「君が代」の意味、「国旗掲揚の国際儀礼」等について、グラフや文章で示している。また、「アメリカ市民権獲得宣誓式の模様」や、ラモス瑠偉選手の写真と新聞記事の引用を掲載している。その他、「どこの国の国歌だろう？」と題し、4か国の国歌を紹介している。</p> <p>○ 領土をめぐる問題等に関する記載の仕方 本文では「わが国の領域に関する課題」と題して、竹島、北方領土、尖閣諸島に関する記述がある。また、「わが国の領土問題」の見出しで、見開き（2ページ）を使って北方領土、竹島について歴史的な背景とわが国の領土である根拠について記述がある。さらに、「海をめぐる国益の衝突」と題して尖閣諸島、さらには日本近海の海洋資源をめぐる中国との対立について記述がある。</p>
<p>育鵬社</p>	<p>○ 関連ページ 180から189ページに国家主権や領土に関する記述がある。187ページに「日本の主権範囲」の地図を掲載しており、領海、排他的経済水域、竹島、尖閣諸島、北方領土の位置を明記し、島の写真を掲載している。 また、見開き（2ページ）を使って「拉致問題と私たち」と題し、北朝鮮による日本人拉致問題について横田めぐみさんの事例を中心にして記述している。</p> <p>○ 国旗・国歌に対する記載の仕方 「国旗と国歌はその国を象徴するもので、それぞれの国の歴史や国民の理想がこめられています。過去に外国の植民地だった国にとっては、独立を果たし独自の国旗・国歌をもったことが主権国家の証にもなります。それぞれの国の人々が、自国の国旗・国歌に愛着をもつのは当然のことです。国旗・国歌に敬意を払うということは、その国そのものに対して敬意を払うことになるので、それらを相互に尊重し</p>

<p>育鵬社</p>	<p>合うのが国際儀礼になっています。オリンピックやワールドカップや国際会議で、国旗は国の大小にかかわらず平等に掲げられます。日本では長年、日章旗（日の丸）を国旗、君が代を国歌とすることが、ならわしとして広く国民に定着しており、1999（平成11）年には、そのことが国旗・国歌法として定められました。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラム「国歌『君が代』の意味」で、国旗や国歌の持つ意味合いや、アメリカなど4か国の国歌の大意を紹介している。 ・脚注「国際社会で通用する国旗・国歌への敬意の表し方」 ・「オリンピック表彰式での国旗掲揚の様子」の写真 <p>○ 領土をめぐる問題等に関する記載の仕方</p> <p>「領土・領海をめぐる問題」の見出しで、「歴史上、国家の権限がおよぶ領土や領海をめぐる問題は後を絶たず、戦争を引き起こす主な理由の一つになっています。現在も世界各地で領土・領海をめぐる問題が起こっています。」と、南沙諸島、クリミア半島を例にして、領土問題の存在を説明している。</p> <p>本文では、「日本の領土をめぐる問題」の見出しで、北方領土、竹島、尖閣諸島に関する記述がある。また、見開き（2ページ）のコラムで「日本の領土をめぐる問題」を編集している。北方領土、竹島、尖閣諸島について記述があり、年表や日本と相手国の主張も加えた構成になっている。</p>
------------	--

【社会（公民的分野）】

観 点	主体的に学習に取り組む工夫
視 点	④単元の導入における工夫
方 法	○各単元の導入における，興味・関心をもたせるための工夫の具体例

発行者	調査・研究内容
東書	<p>「第3章 現代の民主政治と社会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大単元の導入において，1ページに2枚の写真と1枚の絵を掲載しており，それぞれのキャラクターの吹き出しに「どのように」「どのような」などの問いを示している。 ○ 導入の活動として「だれを市長に選ぶ？」という課題を，絵，図，表で示している。 ○ 「探究課題」ではキャラクターの吹き出しで「～でしょうか」「どのような」の問いを，「探究のステップ」では各節の問いを示している。 <p>大単元の導入では，キャラクターの吹き出しに問いを示している。また，導入の活動を位置付け，大単元の課題と学習の見通しを示している。</p>
教出	<p>「第3章 私たちの暮らしと民主政治」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大単元の導入において，1ページに3枚の写真を掲載しており，それぞれの写真の説明と，関連する各節のページを掲載している。 ○ 導入の活動として「地方議会ウォッチングに行こう」という課題をキャラクターの吹き出し，写真，絵で示している。 ○ 「学習の見通し」では各節のテーマを示し，章全体を通して何を学ぶのかについて示している。 <p>大単元の導入では，この大単元に関連する各節の写真を掲載している。また，導入の活動を位置付け，学習の見通しを示している。</p>
帝国	<p>「第2部第2章 民主政治」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大単元の導入において，見開き2ページに「学習の前に」として「みんなが暮らしやすい社会をつくってみよう」を設け，イラストや問いを示している。 ○ 「小学校との関連」では，国会と地方議会に触れ，既習内容を確認している。 ○ 「第2部2章を見通そう」では，この章で何を学ぶのかについて示している。 <p>大単元の導入では，導入の活動を位置付け，既習内容の確認をしている。また，学習の見通しを示している。</p>
日文	<p>「第2編 私たちの生活と政治」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大単元の導入において，2ページに「学習の始めに」として「文化祭の出しものを決めよう！」を設け，漫画で流れを示している。 ○ 「まんがについて」という説明文にイラストを加えながら示し，「～难道でしょうか」「なぜでしょうか」の問いを2つ示している。 ○ 「第2編の学習について」では，この編で何を学ぶのかについて示している。 <p>大単元の導入では，導入の活動を位置付け，学習の見通しを示している。</p>

自由社	<p>「第3章 日本国憲法と立憲的民主政治」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大単元の導入において、1ページに關係するイラストを掲載している。 ○ 単元名の下に単元の内容についての問いを示している。 <p>大単元の導入では、単元で学ぶ内容を問いのかたちで示している。</p>
育鵬社	<p>「第3章 私たちの生活と政治」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大単元の導入において、1ページに3枚の写真や章のキーワードを掲載しており、キャラクターの吹き出しの中に「どのような」の問いを示している。 ○ 導入の活動として「政治の入り口」で「市議会議員になって、解決策を話し合ってみましょう。」という活動を設け、説明文やイラストを掲載している。 ○ 「政治を学習するにあたって」で第3章の学習課題を示している。 <p>大単元の導入では、キャラクターの吹き出しに問いを示している。また、導入の活動を位置付け、学習の見通しを示している。</p>

【社会（公民的分野）】

観 点	主体的に学習に取り組む工夫
視 点	⑤課題の設定, 整理・分析, 振り返りを展開するための構成上の工夫
方 法	○持続可能な社会の形成に関わる課題例と課題解決の手順

発行者	調査・研究内容
東書	<p>【課題例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「環境・エネルギー」 <ul style="list-style-type: none"> ・「公害・環境保全」 ・「地球環境問題」 ・「資源・エネルギー問題」 等 ○ 「人権・平和」 <ul style="list-style-type: none"> ・「差別・人権侵害」 ・「戦争・紛争・難民問題」 ・「貧困・飢餓」 等 ○ 「伝統・文化」 <ul style="list-style-type: none"> ・「伝統文化の継承と保存」 ・「多文化共生」 ・「宗教間の対立」 等 ○ 「防災・安全」 <ul style="list-style-type: none"> ・「災害に強いまちづくり」 ・「東日本大震災からの復興」 ・「交通安全」 等 ○ 「情報・技術」 <ul style="list-style-type: none"> ・「情報化にともなう社会の変化・情報格差の問題」 等 <p>※課題例については, 関連のページを記載している。</p> <p>【課題解決の手順】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「五つのテーマの中から, 解決すべき課題を設定しよう」 2 「資料を集め, 探究しよう」 3 「アクションプランとしてレポートにまとめよう」
教出	<p>【課題例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「環境・資源」 <ul style="list-style-type: none"> ・「自然災害」 ・「環境破壊・公害」 ・「エネルギー及び資源の枯渇」 等 ○ 「平和・人権」 <ul style="list-style-type: none"> ・「戦争・紛争・テロ」 ・「差別・偏見」 ・「信仰・宗教の布教と対立」 等 ○ 「経済」 <ul style="list-style-type: none"> ・「経済格差の拡大・貧困」 ・「世界人口の爆発」 等 ○ 「健康」 <ul style="list-style-type: none"> ・「感染症・疾病」 ・「食・食糧, 心身をむしばむ薬物」 等 ○ 「教育・文化」 <ul style="list-style-type: none"> ・「識字率」 ・「世界遺産・地域遺産の保護と破壊」 等 ○ 「情報」 <ul style="list-style-type: none"> ・「ICT環境」 ・「PC・インターネット・スマートフォン」 ・「ソーシャルメディア」 等 ○ 「犯罪」 <ul style="list-style-type: none"> ・「地域や学校などで起こる犯罪・事件」 等 <p>【課題解決の手順】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「テーマを選ぶ」 2 「私の提案『自分を変える, 社会を変える』を実際につくる」
帝国	<p>【課題例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「現代社会」 <ul style="list-style-type: none"> ・「伝統文化の存続」 ・「まちのルール」 等 ○ 「政治」 <ul style="list-style-type: none"> ・「バリアフリー社会の在り方」 ・「政治参加の在り方」 等 ○ 「経済」 <ul style="list-style-type: none"> ・「外国人労働者の受け入れ」 ・「これからの社会資本の在り方」 等 ○ 「国際」 <ul style="list-style-type: none"> ・「国際社会への貢献」 等

帝国	<p>※課題例については、関連のページを記載している場合がある。</p> <p>【課題解決の手順】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「課題を決めよう (課題の設定)」 2 「資料を集めよう (資料の収集と読み取り)」 3 「考察しよう (考察)」 4 「レポートを書こう (構想とまとめ)」
日文	<p>【課題例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「伝統・文化」 ・「地域の年中行事」 ・「日本の宗教」 ・「伝統的な芸術」 等 ○ 「政治・経済」 ・「社会保障, 年金」 ・「財政赤字」 ・「外交」 等 ○ 「人権・平和」 ・「女性」 ・「子ども」 ・「外国人」 等 ○ 「環境・科学・技術」 ・「地球温暖化」 ・「生物多様性」 ・「循環型社会」 等 <p>※課題例については、関連ページを記載している場合がある。</p> <p>【課題解決の手順】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「テーマの設定」 2 「資料の収集と読み取り」 3 「考察と構想」 4 「まとめと評価」
自由社	<p>【課題例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本文中で、次の課題例を示している。 ・「地球環境問題」 ・「日本型ODA」 ・「人間の安全保障」 等 <p>【課題解決の手順】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「課題を見つけよう」 2 「選択した課題について調べよう」 3 「解決の方法を考えてみよう」 4 「卒業論文にまとめる」
育鵬社	<p>【課題例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「社会」 ・「世界をおもてなしできる国」 ・「子どもの笑顔があふれるまち」 等 ○ 「政治・経済」 ・「地方がキラキラしている国」 ・「ものづくりのまち」 等 ○ 「国際」 ・「世界の平和と安全に貢献する国」 ・「クールジャパンを発信する企業」 等 ○ 「環境・食料」 ・「水と緑と風薫る国」 ・「『もったいない』精神のまち」 等 <p>【課題解決の手順】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「テーマを決めよう」 2 「課題探求の計画を立てよう」 3 「プレゼンテーションしよう」 4 「内容の見直し」 5 「レポート作成」

【社会（公民的分野）】

観 点	内容の構成・配列・分量
視 点	⑥単元や資料等の配列・分量
方 法	○総ページ数, 各大項目のページ数, その他のページ数

発行者	調査・研究内容
東書	現代社会と私たち…31ページ 個人の尊重と日本国憲法…38ページ } 政治90ページ 現代の民主政治と社会…52ページ } 私たちの暮らしと経済…52ページ 地球社会と私たち…34ページ まとめ…6ページ その他…49ページ 計262ページ
教出	私たちの暮らしと現代社会…26ページ 個人を尊重する日本国憲法…44ページ } 政治90ページ 私たちの暮らしと民主政治…46ページ } 私たちの暮らしと経済…40ページ } 経済64ページ 安心して豊かに暮らせる社会…24ページ } 国際社会に生きる私たち…36ページ まとめ…8ページ その他…48ページ 計272ページ
帝国	現代社会と文化…16ページ } 現代社会26ページ 現代社会をとらえる枠組み…10ページ } 日本国憲法…38ページ } 政治80ページ 民主政治…42ページ } 市場経済…50ページ } 経済64ページ 財政…14ページ } 国際社会…32ページ まとめ…8ページ その他…36ページ 計246ページ
日文	私たちと現代社会…28ページ 私たちの生活と政治（日本国憲法）…44ページ } 政治88ページ 私たちの生活と政治（国民主権）…44ページ } 私たちの生活と経済…54ページ 私たちと国際社会…36ページ まとめ…9ページ その他…49ページ 計264ページ
自由社	現代日本の自画像…22ページ } 現代社会42ページ 個人と社会生活…20ページ }

自由社	立憲国家と国民…22ページ } 政治78ページ 日本国憲法と立憲的民主政治…56ページ } 国民生活と経済…44ページ 国際社会に生きる日本…42ページ } 国際社会49ページ 持続可能な社会を目指して…7ページ } まとめ…11ページ その他…46ページ 計270ページ
育鵬社	私たちの生活と現代社会…28ページ 私たちの生活と政治（日本国憲法）…40ページ } 政治80ページ 私たちの生活と政治（民主政治）…40ページ } 私たちの生活と経済…52ページ 私たちと国際社会の課題…36ページ まとめ…7ページ その他…51ページ 計254ページ

【社会（公民的分野）】

視 点	内容の構成・配列・分量
視 点	⑦社会参画への意識を高める工夫
方 法	○「民主政治と政治参加」における，社会参画を促している具体例

発行者	調査・研究内容
東書	<p>【資料の記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 章の「導入の活動」を通して，「探究課題」を設定 <ul style="list-style-type: none"> ・「平和な社会を築くために，私たちはどのように政治に関わるべきでしょうか。」 ○ 小単元末の「トライ」という発問 <ul style="list-style-type: none"> ・「私たちがマスメディアと接する際に注意すべきことを，次の語句を使って説明しましょう。[批判的]」 ・「自分が住む地方公共団体の課題を調べ，解決のために自分にできることを考えましょう。」 ○ 学習課題としての発問 <ul style="list-style-type: none"> ・「私たちは政治にどのように関わればよいのでしょうか。」 ○ 特設ページ「18歳へのステップ 選挙の流れ」 ○ 特設コーナー「みんなでチャレンジ」 <ul style="list-style-type: none"> ・「多数決について考えよう」 ・「死刑について考えよう」 ・「模擬裁判をやってみよう」 ・「公共サービスとコンビニエンスストアについて考えよう」 ・「地方財政(歳出)の変化を調べよう」 ・「政治参加をしてみよう」 ○ 特設ページ「もっと公民」 <ul style="list-style-type: none"> ・「東日本大震災からの復興と防災—仙台市を例に考える」 ・「空き家・廃校は新たな資源」 ○ 章末のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・「S市の市長になって条例を作ろう」 <p>【具体例】(P122, P123) 「まとめの活動 S市の市長になって条例を作ろう」ステップチャートを使って，理想のまちの実現に向けた流れを考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 自分が考える理想のまちを，ステップチャートに記入する。 (2) S市の課題を見て，市民の声も参考にしながら，自分が解決したい課題を一つ選んで，ステップチャートに記入する。 (3) 課題を解決し，理想のまちに近づくための解決策を考えて，グループで意見交換する。話し合いを受けて，より良い解決策を考え，ステップチャートに記入する。 (4) (3)の解決策を決まりの形に整えて，ステップチャートに記入する。その際，「効率」と「公正」，「民主主義」の観点や，その他の注意事項を参考にする。 (5) 自分が暮らすまちがかかえる課題を調べてグループで話し合い，それを解決するためにどのような条例があったらよいか，ステップチャートを使って考える。 <p>(1)～(5)を終えた上で，探究課題「平和な社会を築くために，私たちはどのように政治に関わるべきでしょうか。」に対する自分の考えを文章表記する。</p>
教出	<p>【資料の記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特設コーナー「言葉で伝え合おう」 <ul style="list-style-type: none"> ・「メディアリテラシーを学ぼう～情報の入手と活用」 ・「もしも裁判員裁判に参加したら～シミュレーション」 ・「まちづくりのアイデアを提言しよう～プレゼンテーション」 ○ 学習課題としての発問 <ul style="list-style-type: none"> ・「私たちにとって，選挙とはどのような意味があるのでしょうか。」 ・「地域社会が抱える課題に対し，私たちは何をすることができるのでしょうか。」 ○ 公民の窓「小さな政府と大きな政府」の文末

<p>教出</p>	<p>・「～私たち自身で考えていく必要があります。」</p> <p>○ 章末の問い「日本国憲法に基づいて行われているわが国の政治は、どのようなしくみとはたらきをしているのだろうか。」</p> <p>【具体例】(P126)</p> <p>「第3章全体のテーマについて、次の問いに答えよう。」「日本国憲法に基づいて行われているわが国の政治は、どのようなしくみとはたらきをしているのだろうか。」</p> <p>① 日本が、国の政治に「三権分立のしくみ」を取り入れているのはなぜか。学習を振り返り整理する。「民主政治」の意義にもふれながら説明する。</p> <p>② 選挙制度について「一票の格差」の問題が取り上げられることが多いが、格差是正には人口減少地域の声が反映されにくくなるという意見もある。より「公正」な選挙とはどうあるべきか考えを説明する。</p> <p>③ 自分たちが暮らす地域には、どのような課題があるか。その課題を克服するために、どのような住民参加の活動ができるか、具体例をあげながら自分の考えをまとめる。</p>
<p>帝国</p>	<p>【資料の記載】</p> <p>○ 特設コーナー「よりよい社会を目指して」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「偏見や差別をなくすために」 <p>○ 特設コーナー「未来に向けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中学生が実践した民主主義」 ・「アイヌ語への思い」 ・「肝炎患者を救うために」 <p>○ 特設ページ「先輩たちの選択」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「企業経営の経験を生かし日本の政治を変えていきたい」 ・「民主主義を広めるために世の中の現状を伝えたい」 <p>○ 特設ページ「技能をみがく」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新聞について知ろう」 ・「裁判傍聴をしてみよう」 <p>○ 特設ページ「アクティブ公民」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「裁判の判決を考えよう～対立する主張を整理してみよう～」 ・「自分が住むまちのまちづくりを考えよう～よりよいまちづくりを、効率、公正から考える～」 <p>○ 資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第24回参議院議員選挙で期日前投票をする高校生」 <p>○ 学習課題としての発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私たちは、どのような方法で政治に参加することができるのだろうか。」 <p>○ 小単元末の発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方自治や民主政治を発展させるために、私たちがすべき政治参加について、今できることと、将来すべきことに分けて構想してみよう。」 <p>【具体例】(P105～P106)</p> <p>「章の学習を振り返ろう」「P.65～66のイラストを振り返ってみよう。」</p> <p>① 「あなたが『はるの市』の住民だとしたら、問題に対してどのように政治参加していくか、説明してみよう。」</p> <p>② 「第2部全体の学習を踏まえ、改めて自分ならどの候補者に投票するか、説明してみよう。その際、効率、公正の見方・考え方も踏まえて説明しよう。」</p> <p>「第4部2章への準備」</p> <p>「P.99～100『政治参加の在り方』」</p> <p>① 「『こうありたい』と思う社会の姿をまず思い浮かべよう。」</p> <p>② 「①を実現するためには、自分を含めて誰がどのように政治に参加していくべきか、あなたの考えを説明してみよう。」</p>
<p>日文</p>	<p>【資料の記載】</p> <p>○ 特設ページ「明日に向かって」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「災害に強い暮らしをきずく」 ・「裁判員裁判シミュレーション」 ・「まちづくりに参加しよう」 <p>○ 特設コーナー「公民+α」</p>

<p>日文</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「若い世代の政治参加」 ○ 資料 <ul style="list-style-type: none"> ・「若者の投票率向上の取り組み」 ・「高校生の参加したデモ」 ・「学校で期日前投票する高校生」 ・「まちの課題を考える中学生」 ・「東京都足立区の住民参加—ビューティフル・ウィンドウズ運動—」 ○ 学習課題としての発問 <ul style="list-style-type: none"> ・「私たちは司法とどのようにかかわればよいのでしょうか。」 ・「地方自治を実現するために、私たちはどのように住民参加していけばよいのでしょうか。」 ○ 特設コーナー「アクティビティ」 <ul style="list-style-type: none"> ・「死刑制度」 ・「選挙に行きたくなるしくみを考えよう」 ○ 小単元末の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・「本文から住民参加の手段を書き出して、地域で行っている活動をあげましょう。」 ○ 特設ページ「チャレンジ公民」 <ul style="list-style-type: none"> ・「自分たちのまちの首長を選ぼう」 ○ 章末の課題「シンキングツールを使ってみよう」 <p>【具体例】(P118, P119)</p> <p>「自分たちのまちの首長を選ぼう」</p> <p>首長選挙が行われると仮定して、グループでまちの課題について考え、よりよいまちづくりを実現することのできる首長の公約をまとめて選挙を実際に行うという課題を設けている。</p> <p>「1 まちの課題を出し合おう」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 住むまちの特色をグループで考え、考える時はどのような情報が必要かも同時に考える。 ② ①で考えたことをふまえて、まちの課題をできるだけ多く出し合う。 ③ 自身が、自分の住むまちをどのようなまちにしたいかも考える。 <p>「2 課題を公約にまとめよう」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 首長としてどのような公約をつくるか、グループで考える。まちの予算は限られているので、課題の優先順位を決めて公約をまとめる。そのときどのような理由で順位を決めたのかを明らかにする。 ② まとめた首長の公約を発表する。 <p>「3 公約を分析しよう」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① それぞれの公約を、効率と公正、個人の尊重といった見方・考え方に着目して評価する。 ② 自分の将来の視点から考える。それぞれの内容が、自分のどの年代と特にかかわるかを考える。また、家族や、まわりの人などについても、同様に考える。 <p>「4 首長選挙に投票しよう」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 支持する首長を選び投票する（自分のグループの首長以外から選ぶ）。そのときは投票した理由を説明できるようにする。 ② 投票の結果をふまえて、最も支持された首長の公約と他の公約を比較したり、自分たちが考えた公約の問題点などについてふり返ったりする。
<p>自由社</p>	<p>【資料の記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小単元末の発問「やってみよう」 <ul style="list-style-type: none"> ・「裁判の傍聴は誰でもできます。実際に裁判所に行って裁判を傍聴してみましよう。」 ○ 特設コーナー「総合的な安全保障問題を考えよう」 <p>【具体例】(P118, 119)</p> <p>「アクティブに深めよう」「総合的な安全保障問題を考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「食料問題」「防災問題」「防犯問題」の3つの問題について、4～6人の班を作って、図書室やインターネットを利用し、わが国の現状について調べ学習をする。

<p>自由社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「食料問題について」 <ul style="list-style-type: none"> 「1. 食料問題はなぜ安全保障問題といえるか」 「2. 食料問題にはどのような具体的な問題があるのか」 「3. 食料問題の解決策とは何か」 ・「防災問題について」 <ul style="list-style-type: none"> 「1. 防災問題はなぜ安全保障問題といえるか」 「2. 防災問題にはどのような具体的な問題があるのか」 「3. 防災問題の解決策とは何か」 ・「防犯問題について」 <ul style="list-style-type: none"> 「1. 防犯問題はなぜ安全保障問題といえるか」 「2. 防犯問題にはどのような具体的な問題があるのか」 「3. 防犯問題の解決策とは何か」 <p>○ 各々が調べた内容を持ち寄り、話し合っ、600字程度で班としての研究結果をまとめる。</p> <p>○ 最後に班でまとめた成果を発表する。</p>
<p>育鵬社</p>	<p>【資料の記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小単元末の発問 <ul style="list-style-type: none"> ・「投票率が向上するためには、どのような対策をしたらよいか、話し合ってみよう。」 ○ 特設コーナー「やってみよう」 <ul style="list-style-type: none"> ・「新聞の投稿欄に投稿してみよう」 ・「新聞の社説を比べてみようーディベート」 ・「裁判を傍聴しよう」 ・「死刑制度についてディベートしてみよう」 ・「裁判員になって判決を考えようーシミュレーション」 ・「最高裁判所裁判官の模擬審査をしてみよう」 ○ 学習課題としての発問 <ul style="list-style-type: none"> ・「自分たちの地域を住みやすくするため、何ができるでしょう。」 ○ 特設コーナー「学習を深めよう」 <ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと納税」 ○ 小単元末の発問 <ul style="list-style-type: none"> ・「住民の政治参加を促すために、地域でどのような取り組みがなされているか、調べてみましょう。」 ○ 資料 <ul style="list-style-type: none"> ・「市議会議場で自分の市のPRについて話し合う中学生」 ○ 章末の問い「政治のこれから」 <p>【具体例】(P112, P113)</p> <p>章末課題「政治のこれから」「第3章で学んだことを生かして、自分たちの住む地域をより良くするために、どのようなまちづくりが必要か、考えてみましょう。」</p> <p>①自分の住むまちの特色と課題を調べよう どのような課題があるか、どのような特色があるか、一項目ずつカードに書き出す。</p> <p>②カードを整理しよう 模造紙に関連のあるカードごとにまとめて整理し、見出しをつける。</p> <p>③テーマについてランキング ①重要度や必要度に応じて、自分自身のランキングをつくる。 ②班(4~6人)をつくり、全員で一致するひとつのランキングをつくる。 ③クラス全体の意見を集約し、クラスのランキングをつくる。</p>

【社会（公民的分野）】

観 点	内容の表現・表記
視 点	⑧学習内容との適切な関連付けがなされた絵図・写真等の活用
方 法	○資料の種類及び掲載数，掲載の仕方

発行者	調査・研究内容							
東書	「私たちと政治」における資料の種類と掲載数							合計
	絵 図	写 真	地 図	表・グラフ	新 聞	年 表	文書資料	
	55	123	3	52	12	2	16	263
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書見開きの上段部分と，左右の端に資料が集められているページ構成になっている。 ○ 資料と本文を結び付けるための番号を振り，資料と本文の関連が分かようになっている。 ○ 資料には必要に応じて説明文を付けている。 ○ 資料部分の背景には色を付け，本文部分と資料部分を分けている。 ○ 資料に関連した発問を設定しているものがある。 							
教出	「私たちと政治」における資料の種類と掲載数							合計
	絵 図	写 真	地 図	表・グラフ	新 聞	年 表	文書資料	
	57	115	5	65	5	3	8	258
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書見開きの左右と上段に資料をまとめて掲載している。 ○ 資料と本文を結び付けるための番号を振り，資料と本文の関連が分かようになっている。 ○ 資料には必要に応じて説明文を付けている。 ○ 資料に関連した発問を設定しているものがある。 							
帝国	「私たちと政治」における資料の種類と掲載数							合計
	絵 図	写 真	地 図	表・グラフ	新 聞	年 表	文書資料	
	46	80	1	53	8	2	6	196
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書見開きの左右と上段に資料を集める構成となっている。 ○ 見開きの左上部分は色分けをし，毎時間の導入に使えるような資料を大きく提示し，それに対する資料活用の発問を設定している。 ○ 資料と本文を結び付けるための番号を振り，資料と本文の関連が分かようになっている。 ○ 資料には，必要に応じて説明文を加えたり，追加の発問を設定したりしている。 							
日文	「私たちと政治」における資料の種類と掲載数							合計
	絵 図	写 真	地 図	表・グラフ	新 聞	年 表	文書資料	
	61	107	3	66	10	1	15	263
	○ 資料提示のスペースは，教科書の見開き左右部分と上段部分に限定しているよう							

<p>日文</p>	<p>な構成になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 導入として使用する資料の背景には色付けをし、他の資料と分けている。 ○ 見開きの右上部分は、基本的に資料を基に考えたり、資料と共にトピックを紹介したりするコーナーとして使用している。 ○ 資料と本文を結び付けるための番号を振り、資料と本文の関連が分かようになっている。 ○ 資料には必要に応じて説明文を付けている。 																							
<p>自由社</p>	<table border="1" data-bbox="354 539 1372 674"> <thead> <tr> <th colspan="7">「私たちと政治」における資料の種類と掲載数</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>絵 図</th> <th>写 真</th> <th>地 図</th> <th>表・グラフ</th> <th>新 聞</th> <th>年 表</th> <th>文書資料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24</td> <td>77</td> <td>1</td> <td>16</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>125</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料は、教科書見開きの上部と左右の端に集めている。 ○ グラフや写真といった資料は、本文と結び付けずに配置していて、授業者が必要に応じて適宜使用できるようにしてある。 ○ 多くの資料には、タイトルや必要最小限の説明を付けている。 ○ 1つ1つの資料提示が大きめである。 	「私たちと政治」における資料の種類と掲載数							合計	絵 図	写 真	地 図	表・グラフ	新 聞	年 表	文書資料	24	77	1	16	4	1	2	125
「私たちと政治」における資料の種類と掲載数							合計																	
絵 図	写 真	地 図	表・グラフ	新 聞	年 表	文書資料																		
24	77	1	16	4	1	2	125																	
<p>育鵬社</p>	<table border="1" data-bbox="354 958 1372 1093"> <thead> <tr> <th colspan="7">「私たちと政治」における資料の種類と掲載数</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>絵 図</th> <th>写 真</th> <th>地 図</th> <th>表・グラフ</th> <th>新 聞</th> <th>年 表</th> <th>文書資料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>45</td> <td>105</td> <td>3</td> <td>36</td> <td>17</td> <td>1</td> <td>43</td> <td>250</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書見開きの上段と左右に資料を集めている。 ○ 見開き上段部分の背景には色を付けている。 ○ 資料には必要に応じて説明文を付けている。 ○ 資料と本文を結び付けるための番号を振り、資料と本文の関連が分かようになっている。 	「私たちと政治」における資料の種類と掲載数							合計	絵 図	写 真	地 図	表・グラフ	新 聞	年 表	文書資料	45	105	3	36	17	1	43	250
「私たちと政治」における資料の種類と掲載数							合計																	
絵 図	写 真	地 図	表・グラフ	新 聞	年 表	文書資料																		
45	105	3	36	17	1	43	250																	

【社会（公民的分野）】

観 点	内容の表現・表記
視 点	⑨掲載されている情報を精選し、視点を明確にする工夫
方 法	○ユニバーサルデザインに関する配慮がなされたフォント，グラフ，レイアウト等

発行者	調査・研究内容
東書	<p>【フォント，グラフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用し，本文ふり仮名の文字濃度を薄くしている。 ○ 円グラフや帯グラフは，グラフに文字や数値を入れて示し，隣り合うデータは縁取りをして区切っている。 <p>【レイアウト等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各章のカラーを統一し，見開きの右のページ下部に学習課題に対する「チェック」「トライ」を示している。
教出	<p>【フォント，グラフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 円グラフや帯グラフは，グラフに文字や数値を入れて示し，隣り合うデータは縁取りをして区切っている。 <p>【レイアウト等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各章のカラーを統一し，ページ隅の色分けと，下部への記載で，学習内容を示している。
帝国	<p>【フォント，グラフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 円グラフや帯グラフは，グラフに文字や数値を入れて示し，隣り合うデータは縁取りをして区切っている。 <p>【レイアウト等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各章のカラーを統一し，見開きページの右側のインデックスで学習内容を示している。
日文	<p>【フォント，グラフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 円グラフや帯グラフは，グラフに文字や数値を入れて示し，隣り合うデータは縁取りをして区切っている。 <p>【レイアウト等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各章のカラーを統一し，見開きページの右側のインデックスで学習内容を示している。
自由社	<p>【フォント，グラフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重要語句は，ゴシック体（太字）を使用している。 ○ 円グラフでは，グラフに文字や数値を入れて示し，隣り合うデータは縁取りをして区切っている。 <p>【レイアウト等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各章のカラーを統一し，見開きページ左下の文字で，学習内容を示している。
育鵬社	<p>【フォント，グラフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ふり仮名には，ゴシック体を使用している。

育鵬社	<ul style="list-style-type: none">○ 円グラフでは、グラフに文字や数値を入れて示し、隣り合うデータは縁取りをして区切っている。【レイアウト等】○ 各章のカラーを統一し、見開きページ左下の文字で、学習内容を示している。
-----	---

【社会 (公民的分野)】

観 点	言語活動の充実
視 点	⑩目的に応じて適切に表現する力を育てるための工夫
方 法	○単元末におけるまとめ方の具体例

発行者	調査・研究内容
東書	<p>【単元末におけるまとめ方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 章ごとのまとめ方を共通の流れにしている。 探究のステップの問いを解決→「基礎・基本のまとめ」→「まとめの活動」 ○ 探究のステップでは、章をいくつかに分けた節ごとに設定された探究課題に対する答えや考えを、色々な形式で表現させる問いを設定している。 ○ 「基礎・基本のまとめ」では、重要な用語について確認したり整理したりできるようにしている。 ○ 「まとめの活動」では、ウェビング、ステップチャート、トゥールミン図式などの思考ツールを示している。 <p>【まとめ方の具体例(私たちと経済)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ活動として、「あなたは、ある市にコンビニエンスストアを出店しました。長く続けられる店づくりを目指してきたことで、店は10周年をむかえました。そこで、お客さんに感謝の気持ちをこめて、新商品のお弁当を開発し、地域に宣伝しようと思います。ここまで学習してきた経済の内容や、さまざまな見方・考え方を生かして取り組みましょう。」という学習課題を設定している。 <ul style="list-style-type: none"> ・導入の活動では、長く続けられるコンビニエンスストアについて、場所の面から考えました。A市、B市、C市から1か所選んで、あなたが出店した店で売る弁当について、(1)～(6)を考えましょう。」 ・資料をもとに、「商品開発の方針(コンセプト)」、「ターゲットとする客層(年齢、職業、購入場面など)」、「お弁当の内容(メニューや量、食材の産地など)」、「価格(税込価格と税抜価格、1個あたりの原価と利益)」、「企業の社会的責任(環境への配慮、地産地消など)」について考え、お弁当の企画をまとめる。 ・グループの中で、各自の企画を発表し合い、「効率」や「公正」、「希少性」、「持続可能性」の観点から見て、実現可能かどうか、意見交換をする。 ・グループで発表する企画を一つ選び、企画書を完成する。企画書の例を示している。 ○ 探究課題として、「これからの社会で、私たちはどのように経済に関わっていくべきでしょうか。」という学習課題を設定している。 <ul style="list-style-type: none"> ・キャラクターの吹き出しで、「主権者である私たちの経済活動は、社会と密接に関わっているんだね。」「個人や企業、国や地方公共団体の経済活動は、自分たちだけのために行われているのではないんだね。」と記している。 ・探究課題に対し、「持続可能性」、「効率」と「公正」、「希少性」、「分業」と「交換」に着目して、自分の言葉でまとめるよう示している。
教出	<p>【単元末におけるまとめ方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 章ごとに、まとめ方を統一していて、「学習のまとめと表現」が設定され、STEP 1～STEP 3までの流れになっている。 ○ STEP 1では、基本的な語句の確認や語句を使った説明をするよう設定されている。 ○ STEP 2では、資料を使った読み取りや話し合いを設定している。 ○ STEP 3では、章全体のテーマについて様々な問いを設定し、様々な角度から問いに対する答えを導けるようにしている。 ○ ピラミッドランキングやジグソー法、マトリクスやフィッシュボーン図などを示している。 <p>【まとめ方の具体例(私たちと経済)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習のまとめと表現」において、「第4章全体のテーマについて、次の問いに答えよう。」という学習課題を設定している。第4章「私たちの暮らしと経済」全体のテーマは、「私たちの暮らしにおいて、経済活動はどのような意味があるのだろうか。」である。なお、「効率性」と「公正さ」について、学習課題を設定している。 <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の一日の生活を振り返って、そのうち三つの行動を取り上げ、経済活動とどのようなつながりがあるか、下の例を参考に考えよう。【例：コンビニエンスストア

<p>教出</p>	<p>アで買い物⇒家計「財・サービスの消費」／企業「財・サービスの生産」／企業「流通業の経済活動」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分自身と経済活動がどのように関わっているか、100字程度の文章にまとめてみよう。」 ・「経済活動をになう一員として、これからの経済活動とはどうあるべきかを考えてみよう。第4章の学習を振り返って、課題として考えられることと、その解決の仕方にふれながら、自分の考えを整理してみよう。」 ・「第4章の学習を通じて、新たに出てきた疑問やさらに調べたいことを、自由に書き出してみよう。」
<p>帝国</p>	<p>【単元末におけるまとめ方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各章を区切った節ごとに、振り返りの設問がある。その上で、章末には2段階に分けられた形のまとめがあり、全ての章で共通している。 ○ 第1段階は、「知識」を確認するページとして、語句の確認ができるようにしている。 ○ 第2段階は、「思考力、判断力、表現力」を養うページとしている。3ステップ構成になっていて、ステップ1で自分の考えを整理し、ステップ2で意見交換を通して考えを深め、ステップ3で章の問いの答えを理由とともに考えるようにしている。 <p>【まとめ方の具体例(私たちと経済)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「章の学習を振り返ろう」において、「見方・考え方を働かせて考えよう」という学習課題を設定している。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ステップ1 自分の考えを整理しよう」 「国民の生活と福祉の向上を図るために政府が果たすべき役割を、p.157～168で学習したことを振り返りながら、書き出してみよう。」という課題を設定している。見方・考え方については、「対立」、「合意」、「効率」、「公正」、「分業」、「交換」、「希少性」を示している。 ・「ステップ2 意見交換を通して自分の考えを深めよう」 「グループになり、『私が考える特に政府が果たすべき役割』を理由とともに発表し、意見交換してみよう。」という課題を設定している。また、「グループで行った意見交換を参考に、自分の考えに足りなかった事柄や見方・考え方を書きとめ、自分の考えを深めよう。」と示している。 ・「ステップ3 章の問いへの答えを理由とともに考えよう」 「ステップ2を踏まえて、国民の生活と福祉の向上を図るために政府が果たすべき役割は何か、自分の考えを理由とともに説明してみよう。その際、見方・考え方を働かせて考えた部分に下線を引いてみよう。」という課題を設定している。
<p>日文</p>	<p>【単元末におけるまとめ方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 章ごとに共通の流れのまとめがあり、3部構成で、学習の整理をさせて活用方法も示している。 ○ 1部は、学習内容と語句の整理について、まとめている。 ○ 2部は、実際にあったニュースを取り上げて、その章で学習した見方や考え方を使得、発問に答えていく形式でまとめを進めていくようにしている。 ○ 3部は、章ごとで違ったシンキングツールを紹介するとともに、実際に使用して考えを深めさせていく手法にしている。紹介しているツールとして、フリーカード法、クラゲチャート、フィッシュボーンチャート、ピラミッドチャート、PMIシートがある。 <p>【まとめ方の具体例(私たちと経済)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習の整理と活用」において、「ニュースを『見方・考え方』から見てみよう」という学習課題を設定している。 <ul style="list-style-type: none"> ・「労働組合が、給料などの労働条件について使用者と交渉する権利を、なんとというでしょう。」 ・「福井市が、職員の給料を削減しなければならなかった理由を、『希少性』の語句を使得説明してみましよう。」 ・「どのような対立があり、どのように合意したか、まとめましよう。」 ○ 「消費税の制度のあり方について、ピラミッドチャートを使用しながら自分の主張を組み立ててみましよう。」 <ul style="list-style-type: none"> ・ピラミッドチャートの使い方が示してあり、キャラクターが「自分の主張がどの

日文	<p>ような事実に基づいているのか、構造がわかるね。」と語っている。</p>
自由社	<p>【単元末におけるまとめ方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各章の終わりに、2部構成でまとめている。 ○ 1部は、最重要語句の確認で、小單元ごとに分けて、語句を整理している。 ○ 2部は、与えられた課題に対して400字の文章でまとめるもので、発展的な学習として設定している。 <p>【まとめ方の具体例(私たちと経済)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習のまとめと発展」において、「第4章の学習を発展させるために、次の課題のうち1つを選んで、約400字でまとめてみよう。」という学習課題を設定している。 <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の家庭にはなくて、現代ではどこの家庭にもある家庭用品を10ほどあげ、それらがなければ、生活がどのように変わるか考えてみよう。 ・新しく開発された商品は経済生活を豊かにすると同時に、社会に悪い影響をあたえることがある。そのときは規制が必要となる。そのことを、携帯電話を例にして考えてみよう。 ・市場経済では、商品売るために莫大な宣伝費をかけるのに対して、計画経済では宣伝費はあまりかけない。宣伝費の得失について、考えてみよう。 ・高齢者が増え、働いている若い世代が少なくなる高齢社会の中で、年金制度に問題が生じることを確かめ、その解決法にはどんなものがあるか、いろいろ考えてみよう。 ・わが国は循環型社会をさらに進めるために、どのようにしていかなければならないか、考えてみよう。
育鵬社	<p>【単元末におけるまとめ方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 章の項目についてのこれからの課題について考えるパート(第1章を除く)と、学習のまとめのパートという、全章に共通した構成になっている。 ○ これからの課題について考えるパートでは、調べ活動、話し合い活動やポスターツアーといった活動や KJ 法やランキングシートといったシンキングツールを示している。 ○ 学習のまとめのパートでは、重要語句の確認や資料を使った問題、言葉で説明をする問題などを取り入れている。 <p>【まとめ方の具体例(私たちと経済)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「経済のこれから」において、資料を提示し、「コンビニエンスストアに共通の課題としてどのようなものがあるか、調べてみましょう。」という学習課題を設定している。 ○ 「経済のこれから」において、「そこで『経済の入り口』でインタビューした、コンビニエンスストアを経営するA～C社のそれぞれの会社では、社会に求められる会社をめざして、『行動計画 2030』を社員みんなで考えて、作成しようということになりました。『経済の入り口』での活動の時につくったA・B・C社の班に分かれ、SDGsの最終年に合わせた『行動計画 2030』(Plan)を、次の①～⑤にしたがって話し合い、作成してみましょう。」という学習課題を設定している。 <ul style="list-style-type: none"> ・① 「2030年には、こういう会社になっている」というゴールを具体的に示しましょう。 ・② 社会に求められる会社をめざすために取り組まなくてはならない課題を、右の四つのテーマにしたがってあげてみましょう。(1 イノベーション/2 環境/3 社員と働き方(人権)/4 経営の健全化(ガバナンス)) ・③ ②であげた課題の解決のために実行すること(Do)を考え、具体的に提案してみましょう。 ・④ ③で提案した内容を、「社会課題の解決や、会社と社会が共有する価値の創造に結びつくものになっているか」という視点で、評価(Check)してみましょう。 ・⑤ ④の評価を受けて改善(Act)し、グループの「行動計画 2030」をポスターにまとめ、ポスターツアーを行いましょう。

令和2年 7 月 28 日

呉市教科用図書選定委員会委員長 様

呉市教科用図書調査・研究委員会

種目 地図

代表者 呉市立和庄 中学校

氏名 三谷 泉

呉市教科用図書調査・研究報告書について（報告）

このことについては、別添のとおりです。

【地図】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	①地図の活用をうながす工夫
方 法	○地図の見方の記載とその内容

発行者	調査・研究内容
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭ページに「この地図帳の地図記号」を記載している。(P 4) ○ 巻頭ページに「この地図帳の活用方法」を設け、一般図やテーマ地図、グラフ、写真などの資料の見方といったこの地図帳の使い方や三分野における活用方法を記載している。(P 5, 6) ○ 巻末ページに「地図の比較」で地図記号を記載し、20 万分の 1 地勢図の図式を記載している。(P189) ○ 世界と日本の各地域の「一般図」において「注目したい記号」を記載している。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭ページに「この地図帳の凡例」を記載している。(P 4) ○ 巻頭に「地図帳の使い方 (1)」を設け、地図の要素、一般図、鳥瞰図、資料図を掲載している。(P 5, 6) ○ 「国土地理院の地形図」では、「地形図のおもな記号」を記載している。(P 8) ○ 巻頭に地図記号、小学校で学習した地図の約束、地図活用について記載している。(P 4~6)

【地図】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	②我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
方 法	○国土の地理的環境や歴史的事象が記載された地図の例

発行者	調査・研究内容
東書	<p>【国土の地理的環境の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本」で近隣諸国を含む日本全体や各地方の地理的環境を記載している。 ○ 日本全体に関しては、地形、気候、災害・環境問題、人口、資源・エネルギー、各産業、交通・通信網、世界との結び付き、生活・文化に関する資料や統計を記載している。(P147～165) <p>【歴史的事象の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各時代の世界との結び付きに関する資料 <ul style="list-style-type: none"> ・日本と世界との関係(古代～近世)(P39, 40) ○ 日本の各地方で掲載されている歴史に関する資料 <ul style="list-style-type: none"> ・「原子爆弾投下時の広島市」(P104) ・「京都市の主な文化財と観光地」(P111) ・「江戸時代(17世紀末ごろ)の大阪」(P110) ・「アイヌ語に由来する地名」(P146) ・「水俣病の市町村ごとの認定患者数」(P94) ・「歴史の舞台・九州地方」(P95) ・「国宝・重要文化財の指定件数」(P112) ・「東京周辺の再開発」(P128) ・「日本の主な公害」(P152) ○ 巻末に「旧国名 1868(明治元)年」を記載している。(P192) ○ 巻末の「資料さくいん」に「歴史」の項目がある。(P186)
帝国	<p>【国土の地理的環境の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本のページ」で近隣諸国を含む日本全体や各地方の地理的環境を記載している。 ○ 日本全体に関しては、地形、気候、自然災害・防災、人口、鉱産資源、各産業、交通・通信、観光・スポーツ、歴史遺産、生活・文化に関する資料や統計を記載している。(P145～164) <p>【歴史的事象の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の各地方で掲載されている歴史に関する資料 <ul style="list-style-type: none"> ・「広島市中心部」(P89) ・「京都市中心部」(P104) ・「江戸時代の大阪」(P103) ・「開拓の歴史とアイヌ語地名」(P144) ・「江戸」(P126) ・「東京～大阪(江戸～大阪)間の所要時間」(P107) ・「江戸時代のおもなできごと」(P107) ・「日本とロシア・ソ連の国境の変遷」(P142)

帝国	<ul style="list-style-type: none">・「本州中央部と五街道」(P107)・「広島市付近にある水害の碑の分布」(P96)・「東京都周辺の地形—水と人の関わり・防災—」(P123)・「大阪湾周辺の地形—地形と歴史・防災—」(P101) <p>○ 日本全体についての歴史に関する資料</p> <ul style="list-style-type: none">・「日本の歴史遺産」(P162)・「日本の生活・文化」(P163)
----	--

【地図】

観 点	主体的に学習に取り組む工夫
視 点	③思考力・判断力・表現力等を育むような工夫
方 法	○思考力・判断力・表現力等を高めるための記載内容

発行者	調査・研究内容
東書	<p>○ 「現代社会の課題を解決するために『SDGs』を知ろう!」を設け、地図活用の視点として、17のゴールを記載している。(P7, 8)</p> <p>○ 資料の読解力を高めるために、「この地図帳でいっしょに『世界旅行』をする友達と先生」というキャラクターの吹き出しを設けている。</p> <p>【具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の農林水産業 2 世界の穀物生産 (P23) 「それぞれの穀物が生産されている地域には、どんな特徴があるのかな。」 ・世界の資源・エネルギー 1 世界のエネルギー資源の分布と貿易 (P25) 「資源の分布にはどんな特徴があるのかな。石油を多く輸入しているのはどこだろう。」 ・ヨーロッパ州の基本資料 4 地中海式農業 (P55) 「ぶどうやオリーブの栽培には、どんな気候が適しているのかな。」 ・アフリカ州のテーマ資料② 4 アフリカの一人あたりの国内総生産 (P65) 「国内総生産が高い国はどんな特徴があるのかな。」 ・九州地方のテーマ資料 2 九州地方の火山と温泉・地熱発電所 (P94) 「温泉や地熱発電所が集まっている地域には、どんな共通点があるのかな。」 ・日本の農林水産業 2 日本の土地利用 (P157) 「土地利用と地形にはどんな関係があるかな。」 ・世界と日本の交通・通信網 3 日本の高速道路の発展と交通量(旅客と貨物) (P162) 「交通量や輸送量が多い所には、どんな特徴があるかな。」 <p>○ 関連する資料の参照ページを示す「ジャンプ」というマークを設けている。</p> <p>【具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな環境問題 「アマゾン川流域の開発と熱帯林伐採」(P9) ・日本の気候区分 「日本各地の平均気温・平均降水量」(P149) ・火山と地震の分布 「世界の火山・地震」「九州地方の火山と温泉・地熱発電所」(P151) ・海外の日本企業(グラフ) 「世界における日本企業の分布」「東南アジア・南アジアの工業」(P164) <p>○ 人口ピラミッドの読み取りや作成の技能を身に付けるための「スキル・アップ」や「みんなでチャレンジ」を設けている。(P153)</p>
帝国	<p>○ 巻頭に地図活用のヒントとなるマークについて記載しており、「防災」「環境」「日本との結びつき」の視点を示している。(P6)</p> <p>○ 地図活用の技能を身に付けるためのコーナー「地図活用」を設け、各所に地図の読図や比較を通して、地図から分かることを整理したり、説明したりできる問いを示している。また、「地図活用」の解答が確認できるような二次元コードを掲載している。</p> <p>【具体例】</p>

<p>帝国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アフリカ州の資料 (2) 8 貧困率と栄養不足の人口 (7 鉱工業) (P44) 「1日1.90ドル以下で生活する人の割合が高い国は、どのような国だろう。⑦図の鉱産資源に注目して考えてみよう。」 ・ ヨーロッパ州 (P45, 46) 「①日本の東北地方北部や北海道地方にあたる、北緯40～45度の範囲に位置するヨーロッパ州の国を五つ以上答えよう。②面積が北海道と同じくらいに見える大きさの国を三つ挙げ、実際の面積をP.168の統計で確認しよう。」 ・ オセアニア州の資料 7 移民の出身地 (P76) 「オーストラリアへの移民の出身地は、どのように変化しているか、<input type="checkbox"/>キ・<input type="checkbox"/>ク図を確認して答えよう。」 ・ 九州地方の資料 3 人口分布 (1 自然 5 工業・交通) (P87) 「九州地方で人口が集中しているところはどこか、①・⑤図を確認して答えよう。」 ・ 1 大阪市中心部 (2 京都市中心部) (P103, 104) 「①・②図を比べて、大阪市と京都市のビル街の分布にどのような違いがみられるか答えよう。また、その理由を説明しよう。」 ・ 北海道地方南部 (P136～138) 「『同じ縮尺の東京都』やあなたの住む府県の形をトレーシングペーパーなどの薄い紙に写し取り、石狩平野や十勝平野、根釧台地付近に重ねて、広さを比べよう。また、これらの平野や台地ではそれぞれどのような農業がさかんか、土地利用のようすや記号を見て答えよう。」 ・ 世界と日本の交通・通信 4 日本の航空路 (P160) 「アジア、ヨーロッパ、北アメリカのうち、どの地域が日本の多くの空港と結びついているか答えよう。」 <p>○ 緑色の矢印で、別ページにある、関連性の深い内容を示している。</p> <p>【具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「日本の資源輸入—2018年—」と「世界のおもな鉱産資源の生産」(P153) ・ 「おもな国の電力源」とヨーロッパ州の「おもな国の発電量の内訳—2016年—」(P154)
-----------	---

【地図】

観 点	主体的に学習に取り組む工夫
視 点	④課題の設定, 整理・分析, 振り返りを展開するための構成上の工夫
方 法	○課題を追究するための資料の構成

発行者	調査・研究内容
東書	<p>○ 世界では州ごと, 日本では地方ごとに, 一般図の次に基本資料とテーマ資料を掲載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中国・四国地方の一般図 (P97~102) <ul style="list-style-type: none"> 「中国地方」 「四国地方」 「広島市・岡山市周辺」 ・ 中国・四国地方の基本資料 (P103) <ul style="list-style-type: none"> 「1 中国・四国地方の自然環境」 「2 中国・四国地方の土地利用」 「3 中国・四国地方の降水量」 ・ 中国・四国地方のテーマ資料 (P104) <ul style="list-style-type: none"> 「1 中国・四国地方の老年人口の割合」 「2 原子爆弾投下時の広島市」 「3 高速道路や橋の変化」 <p>○ 「Dマーク」をタイトルの横に掲載しているページでは, インターネットを使った学習や自地図等のダウンロードができるようにしている。(P3)</p>
帝国	<p>○ 世界では州ごと, 日本では地方ごとに, 一般図の次に資料を掲載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中国・四国地方の一般図 (P89~94) <ul style="list-style-type: none"> 「中国地方」 「広島市中心部」 「竹島」 「四国地方」 「瀬戸内海周辺」 ・ 中国・四国地方の資料 (P95, 96) <ul style="list-style-type: none"> 「① 自然」 「② 降水量」 「③ 人口分布」 「④ 農業」 「⑤ 工業・交通」 「⑥ 中国・四国地方の交通と人口密度の変化」 「⑦ 鳥取砂丘」 「⑧ 水島コンビナート」 「⑨ 広島市付近にある水害の碑の分布」 「⑩ 八幡浜市のみかん栽培」 「⑪ 高知平野の野菜栽培」 <p>○ 学習を深める資料やクイズなどのコンテンツ, 地図帳を補完する資料などが閲覧できるよう, ページタイトルの横に二次元コードを掲載している。(P6)</p>

【地図】

観 点	内容の構成・配列・分量
視 点	⑤題材や資料等の配列
方 法	○内容の構成と配列及びページ数

発行者	調査・研究内容
東書	<p>○ AB判 (タテがB5判, ヨコがA4判サイズ)</p> <p>○ 全体の構成は「世界」「日本」「統計」「さくいん」に分類し, インデックスを大きく四つに分類している。また「世界」を「世界全体」, 「州」, 「日本」を「日本全体」, 「地方」で分類し, 色分けをしている。(総ページ数は192ページ)</p> <p>○ 内容の配列及びページ数は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭・活用方法等 (6ページ) ・現代社会の課題について (2ページ) ・各主題の世界地図 (20ページ) 環境・資源・エネルギー問題, 人口・貧困問題, 紛争・難民問題, 世界の地形 世界の気候, 世界の生活・文化①②, 世界の農林水産業 世界の資源・エネルギー, 世界の工業と貿易 ・世界の諸地域 (56ページ) アジア州, ヨーロッパ州, アフリカ州, 北アメリカ州, 南アメリカ州 オセアニア州で構成 ・日本の諸地域 (62ページ) ・日本の資料図 (19ページ) 日本の自然環境 (地形, 気候, 災害・環境問題), 日本の人口, 日本の資源・ エネルギー, 日本の農林水産業, 日本の工業, 世界と日本の交通・通信網 世界と日本との結び付き, 日本の生活・文化 ・統計資料 (10ページ) <u>自然の統計事項</u> 世界の主な海洋, 世界の主な自然災害, 世界の主な湖沼, 日本の主な湖沼 世界の主な山, 日本の主な山, 世界の主な河川, 日本の主な河川 世界の主な島, 日本の主な島, 流域・流域面積・最大流量 世界と日本の各地の平均気温と平均降水量 <u>世界の国別統計の項目</u> 国名, 首都, 面積, 人口, 人口密度, 年平均人口増加率, 国内総生産 一人あたり国民総所得, 主な言語, 主な宗教, 日本との貿易 <u>世界の農林水産物の生産</u> <u>世界の大都市の人口</u> <u>世界の鉱産資源と工業製品の生産</u> <u>日本の都道府県の統計表</u> 面積, 人口, 人口密度, 老年人口の割合, 農業生産額 (米, 畜産, 野菜, 果 実), 漁獲量, 木材生産量, 工業生産額 (機械, 金属, 化学, せんい, 食品) 伝統的工芸品 <u>日本の農林水産業の生産</u> <u>日本の工業製品の生産</u> <u>日本の都市の人口</u>

東書	<ul style="list-style-type: none"> ・さくいん (11ページ) ・巻末 (6ページ) <p>世界の国別統計は、地域別で色分けをしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の都道府県の統計表では、すべての1位を赤字で示している。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ A4判サイズ ○ 全体の構成は「使い方・資料」「世界」「日本」「統計」「さくいん」で分類し、インデックスを大きく五つに分類し色分けをしている。(総ページ数は188ページ) ○ 内容の配列及びページ数は次のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭・活用方法等 (8ページ) ・各主題の世界地図 (10ページ) 世界の地形, 世界の気候, 世界の環境問題, 世界の生活・文化 (1) (2) ・世界の諸地域 (58ページ) アジア州, アフリカ州, ヨーロッパ州, 北アメリカ州, 南アメリカ州 オセアニア州で構成 ・日本の諸地域 (68ページ) ・日本の資料図 (20ページ) 日本の自然環境 (地形, 気候, 自然災害・防災), 世界と日本の人口, 世界と日本の鉱産資源, 日本の工業, 日本の農業・水産業, 世界と日本の交通・通信 観光・スポーツ, 日本の歴史遺産, 日本の生活・文化 ・統計資料 (9ページ) <u>自然の統計事項</u> 地球の大きさ, おもな山, おもな川, おもな島, おもな湖沼, おもな都市の月平均気温・月降水量 <u>世界の国別統計の項目</u> 国名, 首都, 人口, 面積, 人口密度, 貿易額 (輸出・輸入) おもな輸出品, 穀物自給率, エネルギー自給率, 1人あたりの国民総所得, おもな宗教, おもな言語 <u>世界のおもな都市の人口</u> <u>世界のおもな農林水産物・食料品の生産</u> <u>世界のおもな鉱産資源の生産</u> <u>世界のおもな工業製品の生産</u> <u>都道府県別の統計</u> 人口, 面積, 人口密度, 産業別人口の割合, 耕地面積, 水田率, 農業産出額, 米, 野菜, 果実, 畜産, 漁業生産量, 工業生産 (機械, 金属, 化学, 繊維, 食 品), 小売業年間販売額, 1人あたり県民所得, 65歳以上人口割合, 合計特殊 出生率, おもな伝統的工業品・特産物 <u>日本のおもな農・水産物の生産</u> <u>日本のおもな工業製品の生産</u> <u>日本の市と人口</u> ・さくいん (12ページ) ・巻末 (3ページ) ○ 世界の国別統計は、地域別で色分けをしている。 ○ 都道府県の統計で、すべての都道府県の各事項やおもな農産物を一覧で掲載し1位～5位を赤字で示している。

【地図】

観 点	内容の構成・配列・分量
視 点	⑥防災教育の充実
方 法	○地図を活用した記載の具体例

発行者	調査・研究内容
東書	<p>○ 防災教育について、掲載箇所は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風や土砂災害の被害を受けやすい地域 (P94¹) ・東日本大震災による被害 (P134⁴) ・北海道の地形と自然災害 (P146¹) ・日本の自然環境 (災害・環境問題) (P151～152⁴) <p>【具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本の自然環境 (災害・環境問題)」(P151) の「¹火山と地震の分布」では過去の大地震の震源地、火山の分布図と「火山活動が続く霧島山 (新燃岳)」の写真がある。 ・同ページ「²日本の主な気象災害」では、気象災害の発生箇所の分布図と「平成30年7月豪雨 (西日本豪雨) で起こった土砂くずれ」の写真がある。
帝国	<p>○ 防災教育について、掲載箇所は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火山災害への備え — 島原半島 — (P88¹²) ・広島市付近にある水害の碑の分布 (P96⁹) ・神戸市付近のようす — 災害への備え — (P97²) ・大阪湾周辺の地形 — 地形と歴史・防災 — (P101～102) ・富士山噴火時の降灰予想 (P108⁵) ・洪水への備え (P115³) ・東京都周辺の地形 — 水と人の関わり・防災 — (P123～124) ・都市型洪水への備え (P130⁷) ・東京都の大規模災害への備え (P130⁸) ・震災の被害と復興 — 岩手県宮古市 (田老) — (P132¹²) ・雪にそなえる札幌市 (P144¹⁰) ・日本の自然災害・防災 (P149～150) <p>【具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「広島市付近にある水害の碑の分布」(P96⁹) では広島市周辺のイラストの地形図に水害の碑がある場所と過去に土砂災害があった場所を記載している。 ・「日本の自然災害・防災」(P149～150) の「¹日本の地震と火山の分布」では、見開き2ページにわたる日本の地形図 (海底地形も表現) に過去のおもな地震の震源地とプレートの境界、移動方向を記載している。 <p>・防災に関する資料図には【防災】マークを付け、掲載している。</p>

【地図】

観 点	内容の表現・表記
視 点	⑦学習内容との適切な関連付けがなされた地図や資料等の取扱い
方 法	○地図の種類と縮尺及び資料等の活用方法の示し方

発行者	調査・研究内容
東書	<p>【地図の種類と縮尺】</p> <p>○ 世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界全図（赤道上の距離を示している。） ・広域地図，大陸地図（4500 万分の 1～9000 万分の 1） <ul style="list-style-type: none"> ユーラシア・オーストラリア・北極圏（4500 万分の 1） ヨーロッパ・アフリカ・大西洋（4500 万分の 1） 南北アメリカ（4500 万分の 1） 環太平洋・環インド洋（6000 万分の 1） 南極（9000 万分の 1） ・各州地図（1600 万分の 1～3000 万分の 1） <ul style="list-style-type: none"> 東アジア（1600 万分の 1） 東南アジア・南アジア（2500 万分の 1） 西アジア・環地中海（2000 万分の 1） ヨーロッパ（1600 万分の 1） ロシア連邦（2200 万分の 1） アメリカ合衆国（1600 万分の 1） 南アメリカ（3000 万分の 1） オーストラリア・ニュージーランド（2000 万分の 1） ・その他（100 万分の 1～800 万分の 1） <ul style="list-style-type: none"> ホンコン（香港）・マカオ（100 万分の 1），台湾（400 万分の 1） 朝鮮半島（500 万分の 1），イスラエル周辺（300 万分の 1）， ヨーロッパ中央（800 万分の 1），ハワイ諸島（800 万分の 1） <p>○ 日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本全体（550 万分の 1，1600 万分の 1） <ul style="list-style-type: none"> 日本列島①（550 万分の 1） 小笠原諸島（550 万分の 1） 日本列島②（南西諸島）（550 万分の 1） 日本の周辺（1600 万分の 1） ・日本の各地方地図（100 万分の 1，200 万分の 1） <ul style="list-style-type: none"> 九州地方，中国地方，四国地方，近畿地方，中部地方，新潟県，関東地方 東北地方，北海道地方南部，北海道地方北部（100 万分の 1） 北海道地方（200 万分の 1） ・日本のある地域の拡大図（10 万分の 1，50 万分の 1，5 万分の 1） <ul style="list-style-type: none"> 沖縄島，福岡県とその周り，広島市・岡山市周辺，大阪府とその周り 愛知県とその周り，新潟市周辺，東京都とその周り（50 万分の 1）， 東京中心部（10 万分の 1） 仙台市周辺，札幌市周辺（50 万分の 1），札幌市中心部（5 万分の 1）

<p>東書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本その他 (5 万分の 1～700 万分の 1) 喜界島, 奄美群島, 奄美群島南部, 伊平屋島・伊是名島, 慶良間列島, 大東諸島, 宮古列島, 八重山列島, 与那国島, 対馬, 屋久島, 種子島, 五島列島, 隠岐諸島, 伊豆諸島 (100 万分の 1) 竹島 (5 万分の 1), 千島列島 (700 万分の 1) <p>【資料等の活用方法の示し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各資料に「ジャンプ」のマークをつけて資料に関連するページを示している。 ○ 巻末に「資料さくいん」を設けて, どこにどのような資料があるか分かるようにしている。
<p>帝国</p>	<p>【地図の種類と縮尺】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 世界 <ul style="list-style-type: none"> ・世界全図 (8800 万分の 1 の縮尺と赤道上の距離を示している。) ・広域地図, 大陸地図 (3500 万分の 1～9000 万分の 1) アジア州 (4000 万分の 1) アフリカ州 (3500 万分の 1) 南北アメリカ (4000 万分の 1) 南極 (9000 万分の 1) 大西洋 (6000 万分の 1) 太平洋・インド洋 (6000 万分の 1) ・各州地図 (1600 万分 1～3000 万分の 1) 東アジア (1600 万分の 1) 東南アジア (2000 万分の 1) 南・西・中央アジア (2000 万分の 1) ヨーロッパ州 (1600 万分の 1) ロシア連邦とまわりの国々 (2000 万分の 1) アメリカ合衆国 (1600 万分の 1) 南アメリカ州 (3000 万分の 1) オーストラリア・ニュージーランド (2000 万分の 1) ・その他 (2 万分の 1～800 万分の 1) ホンコン・マカオ (100 万分の 1), 台湾 (400 万分の 1), 朝鮮半島 (300 万分の 1), シンガポール (55 万分の 1), イスラエル・パレスチナ (250 万分の 1), エルサレム旧市街 (2 万分の 1), ヨーロッパ中央部 (800 万分の 1), ハワイ諸島 (800 万分の 1) サモア (300 万分の 1), タヒチ島 (250 万分の 1), ラパヌイ (イースター) 島 (100 万分の 1) ガラパゴス諸島 (1000 万分の 1), ツバル (40 万分の 1) フィジー (650 万分の 1), トンガ (150 万分の 1) ○ 日本 <ul style="list-style-type: none"> ・日本全体 (400 万分の 1, 1600 万分の 1) 南西諸島 (400 万分の 1) 日本列島 (400 万分の 1)

<p>帝国</p>	<p>日本の領土とそのまわりの国々 (1600 万分の 1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の各地方地図 (100 万分の 1, 200 万分の 1) <ul style="list-style-type: none"> 九州地方, 中国地方, 四国地方, 近畿地方, 中部地方, 福井県・石川県・富山県, 新潟県, 関東地方, 東北地方, 北海道地方南部, 北海道地方北部(100 万分の 1), 北海道地方 (200 万分の 1) ・日本のある地域の拡大図 (50 万分の 1) <ul style="list-style-type: none"> 沖縄島, 九州地方北部, 瀬戸内海周辺, 近畿地方中部, 中部地方南部, 関東地方南部, 仙台市とそのまわり, 札幌市とそのまわり (50 万分の 1) ・日本その他 (5 万分の 1~1000 万分の 1) <ul style="list-style-type: none"> 奄美群島, 奄美群島南部, 沖縄諸島, 尖閣諸島, 宮古列島, 八重山列島・ 大東諸島 (100 万分の 1) 伊豆諸島・小笠原諸島 (1000 万分の 1), 小笠原諸島 (400 万分の 1) 伊豆・小笠原諸島, 対馬, 五島列島, 大隅諸島 (100 万分の 1) 広島市中心部, 竹島 (5 万分の 1) 大阪湾周辺の地形—地形と歴史・防災— (15 万分の 1) 大阪市中心部, 京都市中心部, 斑鳩, 奈良市中心部 (5 万分の 1) 名古屋市とそのまわり (30 万分の 1) 新潟市とそのまわり (50 万分の 1), 東京都の中心部 (5 万分の 1) 東京都周辺の地形—水と人の関わり・防災— (15 万分の 1) 札幌市中心部 (5 万分の 1), 千島列島 (700 万分の 1) <p>【資料等の活用方法の示し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地図活用の技能を身に付けるための問いとして「地図活用」のマークを記載している。また資料の図に「防災」「環境」「日本との結びつき」のマークを付け、読図の視点を示している。 ○ 資料図のページで扱ったテーマに対して、図を見るときに着目する視点を示すため、「学習課題」を設定している。
-----------	--

【地図】

観 点	言語活動の充実
視 点	⑧観察・調査や各種資料の活用の工夫
方 法	○地図を活用した調べ方の事例

発行者	調査・研究内容
東書	<p>○ 巻頭の「この地図帳の活用方法」において、ヨーロッパを例に挙げ、地図を活用した調べ方について記載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一般図を見てみよう」 「国旗」、「ページ番号・インデックス」、「位置図」、「タイトル」、「さくいん記号」等についての解説を記載している。 ・「テーマ地図やグラフ・写真などの資料を見てみよう」 「基本資料」、「テーマ資料」を記載し、それぞれの活用方法を記載している。 【具体例 ヨーロッパの自然環境、降水量、EU加盟国の拡大】 ・「歴史や公民でも活用しよう」 歴史的分野や公民的分野との関連を示すマークを例に挙げ、活用例を資料図とともに記載している。 ・キャラクターの吹き出しによる解説を記載している。 【具体例:一人あたりの国内総生産は、地域によってちがいがああるね。】
帝国	<p>○ 巻頭の「地図帳の使い方(1)」において、オセアニア州を例に挙げ、地図を活用した調べ方について記載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地図帳を開けたらまず確認しよう」 一般図が示され、「タイトルと縮尺」、「凡例」、「位置図」の説明を記載している。「そのほかの構成紹介」として「さくいん記号」、「接続ページ」、「同緯度・同経度・同縮尺の日本」、「インデックス」について解説も記載している。 ・「いろいろな地図を使いこなそう」 「一般図」、「鳥瞰図」、「資料図」の説明を記載し、オセアニア州の資料のページでどのように記載されているか示している。 オーストラリアの一部を示す「一般図」、「資料図」を用いて「地図の要素」についての解説を記載している。 ・「地図帳を使いこなそう」 「さくいん」、「統計」、「資料図ページ」の説明を記載している。 ・囲み文による解説を記載している。 ・「地図活用をやってみよう」では、オーストラリアを例に挙げ、地図を活用した調べ方を示している。 ・「二次元コード」の活用例を記載している。

【地図】

観 点	言語活動の充実
視 点	⑨目的に応じて適切に表現する力を育てるための工夫
方 法	○地図を活用した表現の記載の仕方と具体例

発行者	調査・研究内容
東書	<p>○ 地図を活用した表現の工夫として、「この地図帳でいっしょに『世界旅行』をする友達と先生」というキャラクターを設定し、地図の活用方法や課題を追究するための問いや比較の視点などの吹き出しを記載している。</p> <p>【具体例】「1959年と2012年の地勢図を比較して、地域の変化について気づいたことを挙げてみましょう。」(P189)</p>
帝国	<p>○ 地図を活用した表現として、「学習課題」や「地図活用」のコーナーを設定し、地図の読図や比較を通して、地図から分かることを整理したり、説明したりできるような問いを記載している。</p> <p>【具体例】「1970年と2015年の地図で、1kmあたりの人口密度がともに200人以上のところと、20人未満のところはどのような地域か、地形や交通に着目して答えよう。」(P96)</p>